

先生方とともに  
高校生の今と未来をつなぐ

〈ビュー21〉  
高校版  
2020  
Volume 5

12月

# VIEW21



今号の表紙の  
絵の制作者

・  
長崎県

私立純心中学校・純心女子高校

かつきさいり

香月彩里さん

表紙裏に香月さんへの  
インタビュー記事を掲載

## 特集

シリーズ 教育の「これから」を考える②

# 次につながる 学習評価

新課程に向けて描く「学校教育デザイン」

北海道函館中部高校

主体的・対話的で深い学びへ  
実践 アクティブ・ラーニング

商業 富山県立富山商業高校 吉田<sup>そうし</sup>壮志

数学 大阪府・私立追手門学院大手前中・高校 福島<sup>おうてもん</sup>哲也

指導変革の軌跡

福井県立<sup>たけふ</sup>武生高校

表紙制作者

長崎県・  
私立純心中学校・純心女子高校  
2年生  
かつきさいり  
香月彩里さん



高校生との対話で描く

私たちの学校  
これからの学校



聞き手

VIEW21 編集部  
統括責任者  
柏木 崇

1998年4月号から生徒と教師の写真で飾られてきた本誌表紙。2020年6月号からは、臨時休業という想定外の状況下で、学校での学びの価値を捉え直した生徒のアート作品の力を借りて、引き続き、生徒と教師の関係を描きます。

「制作の途中、先生方から全体的に明るい感じにした方がよいというアドバイスをいただき、人物の表情や背景を変えていきました」（香月さん）。3点の習作を経て、今回の絵が完成した。



## コロナ禍による制限の中で、新しい発見がいくつもあった！

**柏木** 今回描いてくれたのは、生徒たちの話し合いを先生が見守っている授業中の様子ですね。まずは、この場面を描こうと思った理由を教えてください。

**香月** 私たちの学校では、授業中にグループで話し合うことが多いのですが、1学期はコロナ禍のため、そうした活動ができなくなりました。話し合いは私に多くの気づきを与えてくれましたし、何より友人たちとのそうした時間は楽しかったなと思い出しながら、この絵を描きました。私が得意なのは線画のイラスト風のタッチなのですが、今回の絵が載るのは先生たちが読む情報誌の表紙ということで、普段あまり描かないタッチにチャレンジしてみたんです。

**柏木** 本誌のために、新たな挑戦をしてくれたんですね。しかも、スマホを使って描いたそうですが、デジタルツールを使った作画には、これまでも取り組んできたのですか。

**香月** 絵を本格的に描き始めたのは小学4年生の頃で、中学生になってからは、アナログ作画よりもデジタル作画に取り組むことが多くなりました。アナログとデジタルでは制作時の思考プロセスがかなり違って、デジタル作画に取り組んでいる途中で別のアナログ作画の作品の制作に取り組んでも、なかなかうまくいかないんです。

**柏木** 同じ創作活動でも、使用するツールがデジタルかアナログかで頭の使い方が違うというのは面白いですね。

**香月** 今回の絵は、無料のイラストアプリを使って描いたんです。私が使ったアプリは制作時間も集計してくれるのですが、この絵の制作には今までにないほどたっぷり時間をかけました。コロナ禍によって、高校生もいろいろなことを制限されていますが、そんな中で自分の作品で世の中の誰かを楽しませることができればうれしいです。

**柏木** 香月さん自身も、コロナ禍の中での高校生活で苦労したことがきっとあったのでしょうか。

**香月** ソーシャルディスタンスなど、新しい生活様式に慣れるのは大変でしたが、楽しいこともありました。例えば、オンラインでのコミュニケーションで人脈が広がったのもその1つです。対面でなくても、おしゃべりをしたり、情報を交換したりする中で、感謝や思いやりといった気持ちはしっかり伝わるんだと実感しました。

**柏木** 直接顔を合わせない中で、相手の気持ちをくみ取るのは難しいけれど、人と人とのコミュニケーションであることは変わらないですからね。大切なことに気づけたことで、日々の高校生活もよりよいものになりそうですね。

**香月** 私は放送部に所属していますが、今年の1年生は例年よりも部活動内での交流が少なく可哀想だなと思っています。他校の放送部とも連携して、生徒同士の新たな交流の場をつくるなど、後輩のサポートをしていきたいです！

予測困難な時代だからこそ、  
今をしっかりと見つめ、未来を描く。  
21世紀のその先も、先生方の今に寄り添い続ける  
学校教育のパートナーとなることを目指し、  
教育情報誌『VIEW21』は、2021年4月より  
名称を変更いたします。

## 新名称

---

# VIEWnext

〈ビューネクスト〉

新名称に込めた想い・メッセージは、  
21年4月発刊予定の『VIEW next』高校版4月号にて  
お伝えさせていただきます。

今後とも、ご指導、ご教示のほど、  
何卒よろしくお願い申し上げます。

VIEW21 編集部

### 3 特別企画

「大学入学共通テスト」実施初年度入試における志望動向と出願指導

### 8 特集

## シリーズ 教育の「これから」を考える② 次につながる学習評価

- 10 新学習指導要領における学習評価の基本事項  
指導要録の様式が改訂され、3観点での学習評価が求められる
- 12 次につながる学習評価 座談会  
「できるかもしれない」という気持ちを持って、生徒が次の学習に向かえる学習評価の実現を目指す  
北海道大学 高等教育推進機構・高等教育研究部門 名誉教授 鈴木 誠  
富山県立砺波福野高校 石黒佳奈 / 島根県立浜田高校 山田伸太郎
- 18 次につながる学習評価 実践事例 1  
転換を図った評価観に基づく実践で、評価を生徒のさらなる成長の機会に  
山形県立米沢興譲館高校
- 22 次につながる学習評価 実践事例 2  
模擬試験を軸としたPDCAサイクルを構築し、プロセス評価を通じて学習意欲を喚起  
愛知県立豊野高校
- 26 VIEW21 PRESENTS オンライン・ワークショップ  
第2回レポート 自校の教師同士の対話を通じて、「主体的・対話的で深い学び」を考える
- 27 〈イベントのご案内〉第3回オンライン・ワークショップ
- 28 生徒の・教師の・自校の・社会のNEXTを語り合うワークシート

今号の刊行にあたって

### 2020年を振り返り、 21年の安寧への祈り

◎激動の2020年が終わろうとしています。3月の全国の小・中学校、高校、特別支援学校の一斉休業、東京五輪・パラリンピックの延期、4月の緊急事態宣言の発令と、新型コロナウイルスの感染拡大による歴史的な出来事が次々と起こり、日本、そして世界は今なお、コロナ禍の中にあります。1か月先さへ見通せない中で、2・3か月後の学校や先生方にとって役立つ情報とはどのようなものなのかと自問しながら本誌を製作し続けた、難しい1年でした。1日でも早くこの厄災が消え去り、21年が皆様にとって平穏な年となりますように。1年間、本誌をお読みいただき、誠にありがとうございました。来年も、よろしくお願いいたします。

『VIEW21』高校版  
編集長 柏木崇

### 30 新課程に向けて描く「学校教育デザイン」

北海道函館中部高校  
育成したい生徒像からコンピテンシーを設定し、  
教科を超えた指導体制を構築

### 34 主体的・対話的で深い学びへ 実践 アクティブ・ラーニング

- 34 商業 富山県立富山商業高校 吉田壮志  
答えが1つではない問いを自分事化させた上で向き合わせ、  
課題解決力を養う
- 38 数学 大阪府・私立追手門学院大手前中・高校 福島哲也  
「分かる」ための方法を生徒自身が選ぶ  
主体的な学びを通じて、社会に生きる力を育む

### 42 指導変革の軌跡

福井県立武生高校  
チームで挑む授業改善  
教科指導力の向上を目指した自主研修活動で、  
公開授業と教科横断型授業の文化を醸成

### 46 改良！ 指導ツール ビフォーアフター

2年生 学年振り返りシート  
改良会議実施校 福岡県立東筑高校

### 50 これからの進路指導のための 世の中トレンド解説

働き方改革  
解説者 パーソル総合研究所 上席主任研究員 小林祐児

### 54 SDGsの視点で見る大学の学び

- 54 解説 目標7・13
- 56 大学の学び 目標7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに  
県立広島大学 生物資源科学部 生命環境学科  
大竹研究室  
革新的な太陽電池の開発をチームで目指す中で、問題解決力や協働性を育む
- 58 大学の学び 目標13 気候変動に具体的な対策を  
創価大学 経済学部 経済学科 掛川ゼミ  
環境問題と経済を結びつけて学び、議論・表現を通じて問題解決力を身につける

### 60 NEXT リーダーがオンライン& オフラインで集まり、語り合う 若手教師・教育創造 MTG

第4回オンラインミーティング&有志メンバーによる「挑戦の会」レポート  
仲間との対話で得た気づきや意欲を、  
自身の教育活動へとつなげる

### 63 一疑問や課題を解決！ 実践につながる！ 新課程レポート

テーマ 新教育課程の具体的な編成方針  
実践事例 新潟県立長岡向陵高校  
生徒の実態・学校の課題や教育目標を踏まえて新教育課程案を編成

### 72 Reader's VIEW

### 巻末 教師を育てた言葉たち

「常に様々な方向にアンテナを張っておこう」  
高松第一高校（香川県高松市立）片山浩司

<https://berd.benesse.jp>

本誌記事は、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイトでもご覧いただけます。

印刷製本 / (株) 協同プレス 編集協力 / (有) ベンダコ 執筆協力 / 長谷川教、中丸 満、二宮良太 撮影協力 / 岸 隆子、谷口 哲、鍋坂樹伸、福山 哲  
\*本文中のプロフィールはすべて取材時のものです。また、敬称略とさせていただきます。  
\*本誌記載の記事、写真の無断複写、複製及び転載を禁じます。  
©Benesse Corporation 2020

# 「大学入学共通テスト」実施初年度 入試における志望動向と出願指導

「大学入学共通テスト」の実施を始め、様々な制度変更のある2021年度大学入試では、志望動向にどういった特徴が見られるのか。「第1回ベネッセ・駿台大学入学共通テスト模試」の結果から志望動向を分析するとともに、今年度の3年生を指導する教師2人に、「大学入学共通テスト」から出願校決定までの指導方針について聞いた。

## 志望動向 分析

### 受験人口減少でも、難関国立大学は志望者数を 維持、私立大学はコロナ禍の影響が顕著に

#### ◎世相を反映した系統別志望動向

2021年度大学入試は、「大学入学共通テスト」(以下、共通テスト)の実施などの制度変更に加え、新型コロナウイルスの感染拡大の影響もあり、志望動向に特徴がある。

「第1回ベネッセ・駿台大学入学共通テスト模試」における志望動向でまず着目したのは、系統別の志望動向だ。医学、薬学、理学などの系統が前年並みの志望者数を維持する一方、語学系統や国際関係学系統では志望者数が減少した(P.4図1)。ベネッセコーポレーション教育情報センターの谷本祐一郎センター長は、社会情勢が志望動向に影響していると語る。

「ニュース等で医療従事者が注目されている影響と安全志向の緩和が



ベネッセコーポレーション  
教育情報センター  
センター長  
谷本祐一郎  
たにもと・ゆういちろう

らか、国公立大学の医学部医学科

では志望者数の下げ止まりが見られ、薬学系統は前年並みの志望者数となっています。私立大学の保健衛生学系統の志望者数も前年並みですが、これは学部・学科の新設が相次いだ募集人員増加の影響だと考えられます。一方、コロナ禍で留学などの制限が出ている語学系統や国際関係学系統、業界が打撃を受けている観光学系統は志望者数の減少が目立ちます」

情報科学や情報工学などの情報学系統は、受験人口が減少する中でも志望者数は前年並みを維持しており、人気は継続していると言える。

#### ◎難関国立大学は志望者数を維持

次に着目したのは、受験人口が減少しても、国公立大学の医学部医学科や難関国立大学の志望者数が前年並みである点だ。国公立大学全体の志望者数は対前年指数で96で、国立大学は97、公立大学は96と減少し

#### 2021年度大学入試 志望動向の特徴

**理高文低・資格志向が顕著に** 薬学系統や情報学系統では、志望者数の対前年指数を維持、または増加傾向。文系は、志望者数が減少傾向の系統が多く、国際関係学系統や観光学系統の減少が目立つ。

**安全志向が弱まる** 国公立大学全体の志望者数が減少する中、国公立大学の医学部医学科や難関国立大学では前年を維持。

**地元志向が強まる** 所属校の所在地と同じ所在地の大学の志望者数は、北海道、東北、中部・東海で、国公立大学全体の対前年指数が高まる。

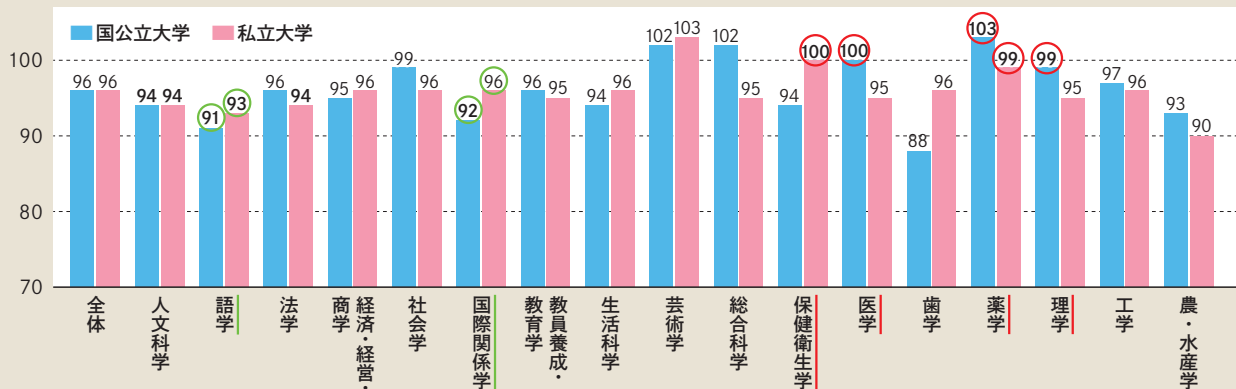
**私立大学の共通テスト方式、全学部方式の志望者数が増加** 受験や移動に伴う感染リスクを減らそうとする動きが、志望動向にも影響。

ているのに対し、国公立大学の医学部医学科や難関国立10大学(\*)は、ともに100だった(P.4図1・2)。

「20年度入試では、新制度となる21年度入試を控えて受験生の安全志向がかなり強まりました。その反動と過年度生の減少の影響からか、21年度入試では、難易度が高い大学・

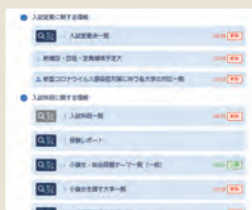
\* 北海道大学、東北大学、東京工業大学、東京大学、一橋大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、神戸大学、九州大学。

図1 国公立大学・私立大学の系統別の志望動向



数値は、前年の志望者数を100とした際の指数。\*ベネッセコーポレーション「2020年度第1回ベネッセ・駿台大学入学共通テスト模試」の結果を基に編集部で作成。

図3 「ベネッセハイスクールオンライン」での情報提供



「ベネッセハイスクールオンライン」では、各大学の情報をテーマ別に一覧化して情報提供。

**【テーマ例】**

- ・リスニングで注意すべき大学一覧
- ・科目対策で注意すべき大学一覧
- ・新型コロナウイルス感染症対策に伴う各大学の対応一覧
- ・入試変更に関する情報
- ・初年度納付金・奨学金・受験料割引

アクセスはこちらから ▶ <https://bhso.benesse.ne.jp>



図2 国公立大学の志望動向

|         | 志望者数    |         | 指数  |
|---------|---------|---------|-----|
|         | 2019年度  | 2020年度  |     |
| 国公立     | 853,064 | 821,718 | 96  |
| 国立      | 626,166 | 604,432 | 97  |
| 公立      | 226,898 | 217,286 | 96  |
| 難関国立10大 | 133,512 | 134,046 | 100 |
| ブロック大   | 159,019 | 153,804 | 97  |
| その他国公立大 | 560,533 | 533,868 | 95  |

難関国立大学のみ対前年指数を維持

\*ベネッセコーポレーション「2020年度第1回ベネッセ・駿台大学入学共通テスト模試」の結果を基に編集部で作成。

学部の志望者が強気である様子が見えがえます」

一方、地元志向は強まっている。所属校の所在地と同じ所在地の大学の志望者数は、北海道、東北、中部・東海で、大学全体の対前年指数96を2ポイント以上上回った。

◎**コロナ禍の影響が顕著な私立大学**

私立大学全体の志望動向を見ると、共通テスト方式の志望者数の対前年指数が103、一般方式は93と差が大きい。共通テスト方式を導入、及び実施拡大する大学も多く、その影響だと考えられる。

「私立大学の志望動向には、コロナ禍を考慮して受験回数や移動の機会を減らそうとする受験生の意識が表れています。地方会場があり、全学部方式を実施する大学では、全学部方式に志望者が集まっています」

ただし難関私立大学では、共通テスト方式を大幅に拡大した早稲田大学などを除いた志望者数を見ると、共通テスト方式よりも一般方式に人氣が集まっている。難関私立大学のセンター試験利用方式で合格するには、非常に高い得点率が求められてきたことを踏まえての動向だろう。

◎**例年よりも一層丁寧な情報収集を**

合否判定における共通テストの英語のリーディングとリスニングの配点比率は、各大学が判断するが、多くの国立大学はセンター試験よりもリスニングの配点を高めている。リスニングを新たに一般選抜で合否判定に利用する大学も増えていることから、個別の情報収集が必要だ。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、選抜方法の変更や出題範囲の配慮なども生じている。例えば、個別学力検査を課さず共通テストの成績のみで合否判定をする国立大学や、罹患して受験できなかった場合の特例措置として共通テストや調査書等で合否判定する大学もある。

「制度変更によりコロナ禍が加わり、例年以上に各大学の情報発信には注意が必要です。『ベネッセハイスクールオンライン』では、各大学の情報をテーマ別に一覧化して掲載しています(図3)。ぜひ活用していただければと思います」

次ページからは、ここまで見てきた志望動向を踏まえながら、今年度の3年生を指導している教師2人に聞いた、共通テストから出願までの指導方針についてお伝えする。

出願までの  
指導方針

# データと教師の知見を基にした助言で、 生徒自身が納得する進路選択へと導く

自校の生徒の志望動向

## 地元志向で、早く進路を 決めたいという生徒が増加

**谷本** 武石先生は進路指導主事、原田先生は高3学年担任を務められています。貴校の3年生の志望動向はどのような状況でしょうか。

**武石** 本校では、国公立大学の志望者数に大きな変動は見られませんが、元々強い地元志向が今年度はさらに強まっています。加えて、早く進路を決めたがる生徒が目立ち、進路志望でも学力に不安を感じている生徒の中には、早々に総合型選抜や学校推薦型選抜で専門学校への進学を決めたケースも少なくありません。

**原田** 本校も同じような状況です。今年度の3年生は、地元の学校に進学したいという生徒が増えていますが、また、一般選抜に向けて頑張っていた生徒が学校推薦型選抜を志望するなど、私立大学や専門学校の推薦入試で早く進路先を決めたいという

心情が見えます。熊本市内の専門学校の中には、入学定員に達したためか、11月上旬に募集を締め切った学校があると聞き、大変驚いています。

**谷本** 両校とも、模擬試験の結果から見える志望動向と同じような状況ですね。今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、大半の大学で、生徒が現地を訪問する形のオープンキャンパスが実施されませんでした。その影響はありますか。

**原田** オープンキャンパスで実際に大学を見て、感じることで、志望校への思いを強くする生徒は大勢います。そうしたことができない状況が、一般選抜まで第1志望合格へのモチベーションを維持できない生徒の心情につながっているのかもしれないですね。本校では、少しでも大学のリアルに触れてほしいと考え、志望者が多い大学の担当者に来校してもらい、校内で大学説明会を実施しました。

**武石** 本校でも、秋田大学に依頼し、校内で大学説明会を開きました。説

明会終了後、大学担当者に熱心に質問する生徒の姿が見られ、大学と生徒が接点を持つ大切さを痛感しました。そこで、各大学がオンラインで開催するオープンキャンパスや説明会の情報を生徒に伝えて、参加を促しました。コロナ禍の影響で入試方法などを変更する大学もあるため、私たち教師も例年以上に情報収集に力を入れています。

## 「大学入学共通テスト」の直前指導 今すべきことを着実にこなす 生徒が最後に伸びる

**谷本** 「大学入学共通テスト」(以下、共通テスト) 前の最後の模擬試験が終わりましたが、入試本番に向けた指導では、どのような点に留意されていますか。

**武石** 本校では、3年生に限らず全学年で、模擬試験の結果が出る度に、教科・科目ごとに成果と課題を分析し、弱点克服のポイントを見いだす

検討会を実施しています。その内容を3学年分まとめた進路便りを生徒全員に配布し、それを見て、各自が必要な対策を考え、実行できるようにしています。

**原田** 本校では毎年、3年生の志望校検討会を7月上旬と11月下旬に実施しています。1回目は希望進路を重視して志望校を検討し、2回目は難易度や入試方式、次年度での再



チャレンジも視野に入れるかなど、共通テスト後の出願校決定を見据えて意見を出し合います。

**谷本** 現役生は最後まで伸びると言われますが、その力を発揮できる生徒とは、どのような生徒でしょうか。

**原田** 夏、秋と成績が振るわなくても、日々すべきことに着実に取り組み、最後に一気に伸びて合格をつかんだ生徒を大勢見てきました。そうした経験から、「漠然とした不安と戦うな。ゴールから逆算して今すべきことを可視化し、それを着実にこなそう」と生徒に伝えています。

3年間を通して目標を持って頑張ったものの、志望校合格に届かなかった生徒は、次年度の再チャレンジも頑張ることができ、学力は伸びるでしょう。しかし今、頑張り切れなかった生徒が次年度に再チャレンジしても、やはり最後まで踏ん張らず、厳しい結果が予想されます。

**谷本** 生徒がすべきことを実行できているか、どのように見取ることができるか。

**原田** 私は、担当教科の英語で希望者に添削指導を行っています。その解答から生徒の心理状態が透けて見えます。先日、実力から考える

とあり得ない間違いをした生徒がいたため話を聞くと、「不安で焦っている」と打ち明けられました。生徒の様子をつぶさに捉えて、声をかけるようにしています。

**谷本** 添削指導など、日々の指導から生徒の様子を丁寧につまえることの大切さを、改めて感じました。

**武石** 生徒を最後まで頑張り抜かせる上で、面談も重要です。進学実績が高かった学年の担任にどのような指導をしていたのかを聞くと、その教師は生徒との面談を繰り返して、信頼関係を育むことを重視していました。担任が各大学の入試方式などを詳細に調べ、生徒が把握できていない情報を提供することも、信頼感につながります。「ベネッセハイスクールオンライン」の「受験レポート」を活用して情報収集をしたり、大学説明会・各種研究会の報告書を職員会議で配布したりして、進路指導部として担任の支援をしています。

私が3学年担任を務めていた時には、個人面談のほかに、同じ進路を目指す生徒を集めたグループ面談をよく行っていました。悩みを分かち合わせ、使っている問題集や勉強法などの情報を共有させることで、「受



秋田県立本荘高校 進路指導主事  
**武石知也** たけいし・ともや  
教職歴23年。同校に赴任して9年目。数学科。

#### 秋田県立本荘高校

- ◎秋田県南部の日本海に面した由利本荘市に位置する地域の進学校。校標は「石文尚武」「質実剛健」「玲瓏同氣、学校教育目標は「将来の社会を担う人材となるべく、人格の完成と真理の探究に努める心身ともに健全な生徒を育成する」。毎朝30分間の「石文タイム」を設定し、学習の振り返り等を行う。
- ◎設立 1902（明治35）年
- ◎形態 全日制／定時制／普通科／共学
- ◎生徒数 1学年約240人（全日制）
- ◎2020年度入試合格実績（現役のみ）  
国公立大は、東北大、秋田大、お茶の水女子大、新潟大、秋田県立大、国際教養大などに76人が合格。私立大は、青山学院大、慶應義塾大、早稲田大などに延べ202人が合格。
- ◎URL <http://www.honjo-h-akita-pref.ed.jp>

験は団体戦」という意識を持たせることができると思います。

#### 出願校決定に向けた指導

#### 度数分布を活用して

#### 合格可能性を正確に捉える

**谷本** 出願校決定に向けた指導につ



熊本県立宇土中学校・高校 高3学年担任  
**原田大賢** はらだ・だいけん  
教職歴20年。同校に赴任して2年目。英語科。

#### 熊本県立宇土中学校・高校

- ◎2009年度、中学校を新設し、併設型中高一貫校に移行。12年度、世界で活躍する人材の育成を目指す「グローバルリーダー育成プロジェクト」を開始。19年度にはアメリカ・ミネソタ大学進学者を輩出。文部科学省スーパーサイエンスハイスクール」の指定は現在2期目。
- ◎設立 1920（大正9）年
- ◎形態 全日制／普通科／共学
- ◎生徒数 1学年約240人（高校）
- ◎2020年度入試合格実績（現役のみ）  
国公立大は、筑波大、横浜国立大、広島大、熊本大、熊本県立大などに53人が合格。私立大は、慶應義塾大、法政大、早稲田大、同志社大、西南学院大などに延べ302人が合格。
- ◎URL <https://sh.higo.ed.jp/utosh/>

いて教えてください。

**武石** 本校では、基本的に昨年度までのセンター試験の指導と変わりがありません。生徒には事前に、共通テストの得点の幅に応じた3つの出願パターンを考えさせておきます。担任は、生徒が考えた出願パターンを基に、同じ学部系統の他大学について

図4 「データネット」度数分布の活用の仕方

| 科目  | 今年   |      | 昨年   |      | 合格 | 不合格 |
|-----|------|------|------|------|----|-----|
|     | 今年   | 昨年   | 今年   | 昨年   |    |     |
| 500 | 1    | 1    |      |      |    |     |
| 495 |      |      |      |      |    |     |
| 490 |      |      |      |      |    |     |
| 485 |      |      |      |      |    |     |
| 480 |      |      |      |      |    |     |
| 475 |      |      |      |      |    |     |
| 470 |      |      |      |      |    |     |
| 465 |      |      |      |      |    |     |
| 460 |      |      |      |      |    |     |
| 455 |      |      |      |      |    |     |
| 450 |      |      |      |      |    |     |
| 445 |      |      |      |      |    |     |
| 440 |      |      |      |      |    |     |
| 435 |      |      |      |      |    |     |
| 430 |      |      |      |      |    |     |
| 425 |      |      |      |      |    |     |
| 420 |      |      |      |      |    |     |
| 415 |      |      |      |      |    |     |
| 410 |      |      |      |      |    |     |
| 405 |      |      |      |      |    |     |
| 400 |      |      |      |      |    |     |
| 395 |      |      |      |      |    |     |
| 390 |      |      |      |      |    |     |
| 385 |      |      |      |      |    |     |
| 380 |      |      |      |      |    |     |
| 375 |      |      |      |      |    |     |
| 370 |      |      |      |      |    |     |
| 365 |      |      |      |      |    |     |
| 360 |      |      |      |      |    |     |
| 355 |      |      |      |      |    |     |
| 350 |      |      |      |      |    |     |
| 345 |      |      |      |      |    |     |
| 340 |      |      |      |      |    |     |
| 335 |      |      |      |      |    |     |
| 330 |      |      |      |      |    |     |
| 325 |      |      |      |      |    |     |
| 320 |      |      |      |      |    |     |
| 315 |      |      |      |      |    |     |
| 310 |      |      |      |      |    |     |
| 305 |      |      |      |      |    |     |
| 300 |      |      |      |      |    |     |
| 人数  | 263  | 312  | 108  | 168  |    |     |
| 平均  | 344  | 346  | 411  | 362  |    |     |
| 標準差 | 57.3 | 57.6 | 68.9 | 60.3 |    |     |
| 対昨年 | -5   | -2   | -30  | -49  |    |     |

① データネット時点での志望状況を確認

各募集単位における志望者の状況を確認する。

② 前年度の状況を併せて確認

前年のデータネットでの志望者の状況、入試の合否結果も確認する。実質的に個別学力検査での逆転は起きているのか、逆転幅はどれくらいなのかを見ておく。

③ 成績の位置を精緻に把握

例えば、合格可能性判定がC判定であっても、B判定に近いものなのか、D判定に近いものなのかを把握する。

\* 「データネット2020」の度数分布を基に編集部で作成。

も調べ、4つめのパターンを考えるくらいに念を入れて準備します。生徒にはその準備は伏せて、あくまでも第1志望を貫かせますが、共通テストがどのような結果であっても、生徒にとってベストの出願校を提案できるようにしておきます。

**原田** 本校でも、共通テストの得点に応じた複数の出願パターンを事前に検討させます。また、11月の最後の模擬試験の結果を見て、現時点で何ができて、何ができないかを明らかにし、次に何をすべきかを考えることを重視させます。さらに、本番の自己採点でのミスを防ぐため、マーク式の模擬試験での自己採点の

結果を改めて徹底的に確認させます。**谷本** 共通テストの自己採点を踏まえた出願指導はいかがでしょうか。**武石** 本校では、共通テスト1週間後の土曜日に、出願校の検討会を実施します。そこでは、自己採点結果と、10〜11月の記述式の模擬試験の結果とを照らし合わせて、志望校の合格可能性を検討します。共通テストで想定よりも得点が取れなかった生徒に対しても、その結果だけで判断せず、それまでの模擬試験の結果や秋以降の学習状況に鑑みて、生徒の実力を見極めることが求められます。そのため、3年生の教科担当から生徒の状況を聞き、それを判断材

料にしています。**原田** 教科担当の意見はとても重要です。以前、センター試験の結果が芳しくなかったため、九州大学から熊本大学に志望を変更しようとした生徒に、数学の担当教師が「両大学の出題傾向と生徒の得意分野を踏まえると、九州大学の方が合格の可能性が高い」と勧めました。実際、九州大学に合格しましたので、教科担当に意見を聞くことの重要性を実感しました。**谷本** 多面的な検討が、より適切で、納得できる判断につながるのですね。「データネット」(\*)の合否判定は、どのように参考にされますか。**原田** 度数分布とともに参考にしています(図4)。共通テストの合格可能性判定だけで判断せずに、該当する入試方式の志望者の中の位置、個別学力検査の配点や出題傾向と、生徒の得意教科や得意分野、記述力などを踏まえて、合格可能性を検討します。

**谷本** 21年度大学入試では、共通テスト実施後の1月20日(水)に、「データネット」のウェブサイトで、各国立大学の志望状況と比較検討できる「デジタル度数分布」を公開予定

です。最後に、共通テストの実施初年度に3年生を指導されてきた経験から、今後の3年生を担当する先生方にメッセージをお願いします。**武石** 入試方式の多様化が進む中、生徒には自分の進路は自分で選ぶという主体性が一層重要になるでしょう。授業や学校行事などの様々な場面で、大学入学や就職がゴールではなく、その先にある「どんな人間になりたいか」までを考えさせることで、生徒の主体性が育まれていくと思います。今後は、そうした指導を学校全体で推進していくことも求められるのではないのでしょうか。**原田** 2016年の熊本地震の時、前任校で1学年主任だった私は、生徒に高校3年間のビジョンを示し、不安の払拭に努めました。想像できないことが、不安の要因になるからです。将来の自分をイメージさせるには先輩の姿を見せることが有効ですが、コロナ禍の影響で前例のないことばかりが起きています。3年生は懸命に努力し、道を切り開いてきました。そういった先輩の様子を校内で語り継ぎ、生徒を支援していた

だけではないと思います。

\* ベネッセコーポレーションと駿台予備学校が提供する自己採点集計。2020年度大学入試センター試験のデータネットは、集計数は436,512人、センター試験の志願者数に対する集計率は78.3%。

# 学習評価

## 教師が考える「理想の評価」

評価の負担が大きくなり、生徒のよさを評価する機会が多く持てる、そのような評価。(東京都/私立)

生徒の努力が数値として明確な形で表れる評価。(千葉県/私立)

授業の目的、評価の基準が明確で、生徒の多面的な活動が反映できる評価。(東京都/公立)

生徒が、前向きになり、よりよい学びをつくっていかうという意識を持つきっかけとなる評価。(東京都/公立)

生徒と教師双方の学びに向けての方向性が一致するような評価。(長野県/公立)

出典/『VIEW21』高校版読者モニターへのアンケート結果  
(アンケートは、2020年10月にウェブとファクスで実施)

新学習指導要領における学習評価の基本事項 ▶ P.10-11

次につながる学習評価 座談会 ▶ P.12-17

実践事例1 山形県立米沢興譲館高校<sup>こうじょうかん</sup> ▶ P.18-21

実践事例2 愛知県立豊野高校<sup>ゆたかの</sup> ▶ P.22-25

## オンライン・ワークショップ 第2回リポート

自校の教師同士の対話を通じて、  
「主体的・対話的で深い学び」を考える

▶ P.26-27

生徒の・教師の・自校の・社会の  
NEXTを語り合うワークシート

今号の特集のテーマを  
自校の教師同士で深める  
ツールとして、ご活用ください

▶ P.28-29



このマークのある図版は、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト (<https://berd.benesse.jp>) からダウンロードできます。  
「HOME → 教育情報 → 高校向け」をご覧ください。

特集

シリーズ 教育の「これから」を考える ②

# 次につながる

前号からスタートした、教育の「これから」を考えるシリーズ特集。

第2回となる今号のテーマは「学習評価」だ。

新学習指導要領では、学習評価を生徒の学習改善や教師の指導改善につながるものにしていくよう、その改善が求められている。

具体的な改善点は、観点別学習状況の評価の観点数が4観点から3観点到整理されたり、観点別学習状況の評価を充実する観点から、高校の指導要録に各教科・科目の観点別学習状況を記載する欄が設けられることになったりすることなどだが、そうした点に基づいた評価を行う上で、教師はどんな視点を持って、どのようなことに留意することが求められるのだろうか。生徒、そして教師にとっても次につながる学習評価について考えていく。

新学習指導要領  
における学習評価の  
基本事項

# 指導要録の様式が改訂され、 3観点での学習評価が求められる

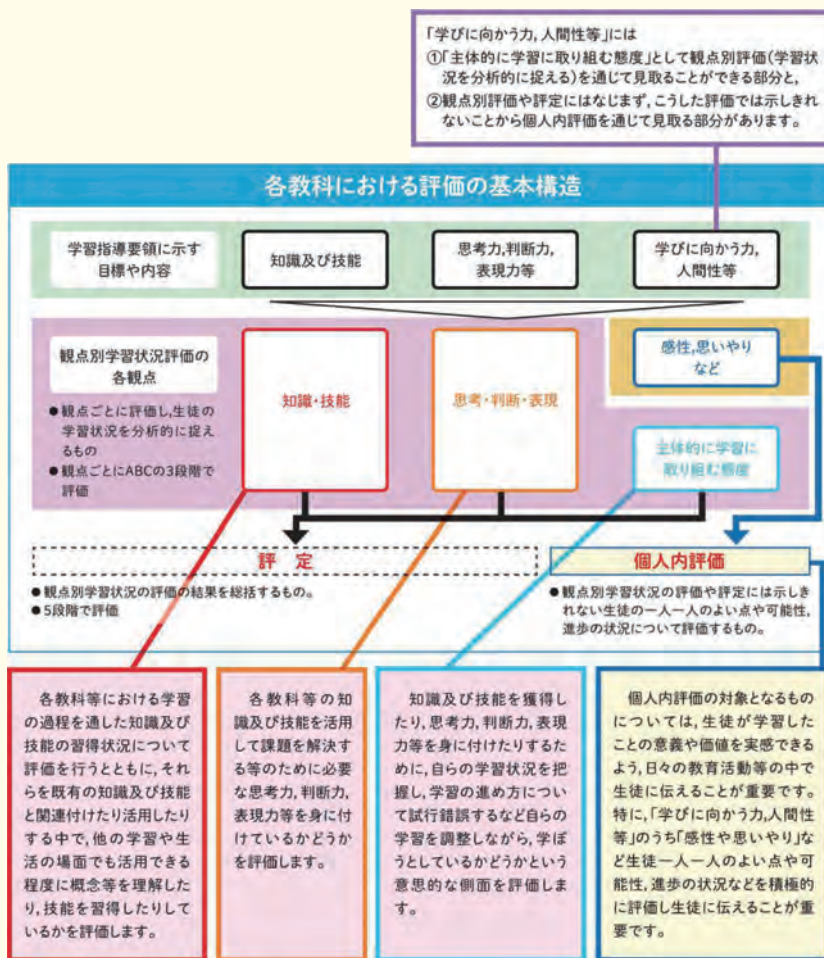
新学習指導要領では、生徒の学習改善や教師の指導改善につながるものにしていくことを目指し、学習評価の改善が求められている。文部科学省 国立教育政策研究所発行の「学習評価の在り方ハンドブック 高等学校編」の内容などを基に、新学習指導要領における学習評価の基本事項を整理した。

## 生徒の学習改善や教師の指導改善に資する学習評価に

文部科学省は、新学習指導要領における学習評価の改善の基本的な方向性として、①生徒の学習改善につながるものにしていくこと、②教師の指導改善につながるものにしていくこと、③これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくことの3点を示した。加えて、各教科の学習評価は、学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況を評価する「目標に準拠した評価」であるとし、集団内での相対的な位置づけを評価する「相対評価」とは異なるものだと明記された点も、改めて押さえておきたい。

観点別学習状況の評価（以下、観点別評価）は現行課程でも行われて

図1 各教科における学習評価の基本構造



\*文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター「学習評価の在り方ハンドブック 高等学校編」をそのまま掲載。

新学習指導要領において「育成を目指す資質・能力」が3つの柱に整理されたことを踏まえて、各教科における学習評価も3つの観点で行われることになる。

そのうち、「学びに向かう力、人間性等」については、観点別評価を通じて見取ることができる部分と、観点別評価や評定にはなじまない部分があると示された。観点別評価や評定には示しきれない「感性、思いやりなど」は、「個人内評価」として、生徒一人ひとりのよい点や可能性、進歩の状況の評価する。一方、「主体的に学習に取り組む態度」は、評価の観点の1つとして、図2に示したイメージのように評価し、ほかの2つの観点の評価とともに指導要録に記載する。そして、「評定」は、観点別評価の結果を総括するものとして位置づけられる。

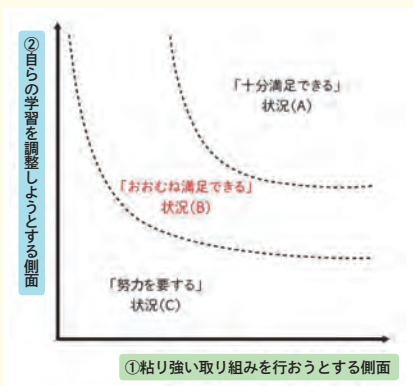
いるが、新学習指導要領において育成を目指す資質・能力が3つの柱で整理されたことを踏まえて、学習評価の観点も「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つに整理された(図1)。観点別評価は生徒の学習状況を分析的に捉えるものとし、評定は観点別評価の結果を総括するものとなる。

なお、「主体的に学習に取り組む態度」は、「粘り強い取り組みを行おうとする側面」と「自らの学習を調整しようとする側面」から評価する(図2)。

また、小・中学校と高校とは観点別評価の取り組みに差が見られることを受けて、高校の指導要録の参考様式にも、「観点別学習状況」を記載する欄が新設された(図3)。

今後、観点別評価のさらなる充実に向けては、従来の評価手法にとらわれず、視野を広く持つて評価のあり方を見直す必要がある。直接評価(何ができるのか)と間接評価(何ができると思っているのか)、数値による評価と数値で表せない評価など、様々な評価手法を組み合わせて、生徒の資質・能力を多面的に見取り、彼らの成長に資する評価としたい。

図2 「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ



■ ①と②の2つの側面から評価する

①粘り強い取り組みを行おうとする側面

知識・技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身につけたりすることに向けて、粘り強い取り組みを行おうとする側面のこと。

②自らの学習を調整しようとする側面

①を行う中で、自らの学習状況を調整し、学習の進め方について試行錯誤するなどの意思的な側面のこと。生徒がそれを主体的に進められるよう、自己評価・他者評価の場を設けることが重要となる。

「主体的に学習に取り組む態度」は、現行課程の「関心・意欲・態度」と評価の趣旨は同じである。しかし、挙手の回数やノートの取り方など、生徒の性格や行動面の傾向で評価をするものではない。①粘り強い取り組みを行おうとする側面、②自らの学習を調整しようとする側面から、生徒を見取することを指す。

そのため、①と②が知識・技能、思考力・判断力・表現力等の獲得に結びついていない場合、教師が机間指導などを通じて適切に指導することが求められる。

\*文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター「学習評価の在り方ハンドブック 高等学校編」を基に編集部で作成。

図3 高校の指導要録(参考様式)の変更点

| 様式2(指導に関する記録) |       | 学年名   |       | 学年   |       | 学期   |       | 科目   |       |
|---------------|-------|-------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|
| 主 教 員 氏 名     |       | 学 年 名 |       | 学 年  |       | 学 期  |       | 科 目  |       |
| 各教科・科目等の学習の記録 |       | 第1学年  |       | 第2学年 |       | 第3学年 |       | 第4学年 |       |
| 教科等           | 科目等   | 評定    | 修得単位数 | 評定   | 修得単位数 | 評定   | 修得単位数 | 評定   | 修得単位数 |
| 国語            | 現代の国語 | AAA   |       |      |       |      |       |      |       |
|               | 略     |       |       |      |       |      |       |      |       |
|               | 歴史    |       |       |      |       |      |       |      |       |

「評定」「修得単位数」に加え、「観点別学習状況」の欄を新設  
「十分満足できる」状況と判断されるものは「A」、「おおむね満足できる」状況は「B」、「努力を要する」状況は「C」のように区分して評価を記入する。

「知識・技能」の評価の捉え方  
現行の「理解」の観点も含まれる。例えば、ペーパーテストで、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスへの配慮、記述式問題や式・グラフで表現する問題の出題など、多様な方法を適切に取り入れる工夫が必要。

「思考・判断・表現」の評価の捉え方  
3つの要素それぞれを、別々ではなくセットで評価する。ペーパーテスト以外にも、論述やレポートの作成、発表、話し合い、作品制作などの多様な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりして評価する。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価の捉え方  
ノートやレポートなどの記述、授業中の発言、行動観察、自己評価や相互評価などが材料となる。各教科等の特質に応じて、生徒の発達段階や個性を十分に配慮し、「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で、評価する必要がある。

文部科学省が示した高校の「指導要録」(参考様式)では、「各教科・科目等の学習の記録」において、「観点別学習状況」の欄が新設された。評価の観点は、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3つ(図1参照)となる。各教科・科目の目標に基づき、学校が生徒や地域の実態に即して定めた当該教科・科目の目標や内容に照らして、生徒の学習状況を、観点ごとに分析的に捉えて評価し、記入する。

\*文部科学省「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)」を基に編集部で作成。

# 「できるかもしれない」という気持ちを持って、 生徒が次の学習に向かえる学習評価の実現を目指す

北海道大学 高等教育推進機構・高等教育研究部門 名誉教授 **鈴木 誠**

富山県立南砺福野高校 **石黒佳奈** / 島根県立浜田高校 **山田伸太郎**

これからの社会を生きる上で必要な資質・能力を育むためには、学習評価はどうあるべきなのか。そして、その評価を材料に、教師は生徒にどのように働きかけていくべきなのか。学習評価に対する高校生の生の声に耳を傾けながら、2人の若手教師と、教育心理学の立場から学校改革にも携わる研究者が語り合った。

## 新学習指導要領は 学習評価をよりよくする好機

**河野** 新学習指導要領では、各教科において観点別学習状況の評価（以下、観点別評価）が強化され、ペーパーテストだけでなく、パフォーマンス評価やポートフォリオ評価など、多様な手法を用いて多面的に評価していくこととなります。高校の教壇に立つ先生方は、学習評価（以下、評価）について今、どのような興味・関心をお持ちでしょうか。

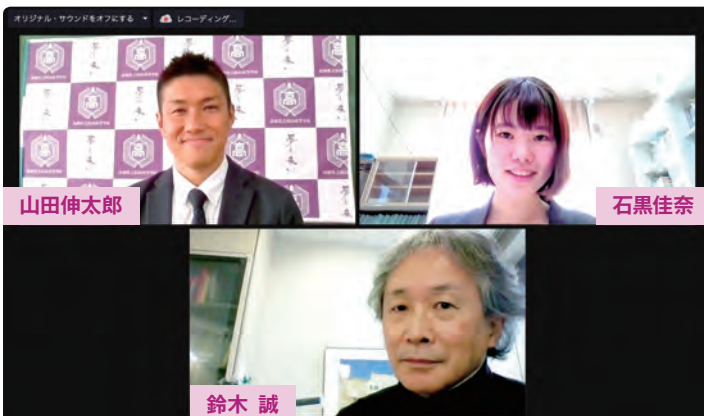
**石黒** 私は英語科ですが、4技能の育成の強化が図られることがきっかけとなって、ペーパーテスト以外の

評価手法に関心を持つようになりました。実際にパフォーマンス評価を行いました。生徒に評価規準を説明し、修正点をフィードバックしていく中で、スピーキング力の向上だけでなく、学習意欲の喚起にもつながったという手応えを得ました。

**山田** 私は探究学習に取り組んだことがきっかけで、ここ数年、評価に興味を持つようになりました。評価は、研究すると新たな発想がどんどん湧いてきてとても楽しいです。先日、同僚の先生方と探究学習のルーブリックの作成に取り組む中で、本校の探究学習で育成を目指す資質・能力の再整理を行い、それを

見取ることができるよう、評価基準のチェックリストを作りました。そういった経験が、教師の評価に対する考え方を広げるんだなと感じました。

**鈴木** 私も高校に勤務していた頃、定期考査の実施期間などの比較的時間に余裕のあるタイミングで、同僚に声をかけて評価のあり方を考える勉強会を開催したことがあります。新学習指導要領では、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に沿って、どのように生徒を見取り、評価していくのかを、すべての教師が考えていくことが求められています。評価





VIEW21編集部  
高次領域担当責任者  
**河野仙一**  
JUN・SENICHI

**鈴木 誠** すぎき・まこと  
北海道大学 高等教育推進機構・高等教育研究部門 名誉教授  
一般企業、中学校教師、高校教師を経て、北海道大学へ。専門は、意欲（自己効力）の構造解析、フィンランドの教育課程と学習指導および教科書や入試の分析、解剖学（両棲綱無尾目）など。著書に『ボクにもできる』がやる気を引き出す』（東洋館出版社）など。



は、「何を」「どのようならいで」「どの領域を」「いつ」「誰が」「どのようツールで」という6つの観点から行っていくものです。それらの観点を踏まえて、学習活動前の「診断的評価」、学習活動中の「形成的評価」、そして学習活動終了時の「総括的評価」の3つの段階で評価を行っていくことが求められます（図1）。新学習指導要領は評価をより

よいものにする絶好のチャンスであり、評価について関心を持つ教師は増えているはずですから、山田先生のように学びのコミュニティを校内外につくっていくことが大切です。



富山県立南砺福野高校  
**石黒佳奈** いしぐろ・かな  
教職歴4年。同校に赴任して4年目。英語科。

**富山県立南砺福野高校**  
◎1894（明治27）年、富山県簡易農学校として発足。「学び合い、高め合おう」をスクールモットーに、「至誠 質実 剛健」を校訓に掲げる。和洋折衷2階建ての明治以降の代表的な建築「蔵浄園」は、国の重要文化財。  
◎設置 1894（明治27）年  
◎形態 全日制／普通科・国際科・農業環境科・福祉科／共学  
◎生徒数 1学年約250人  
◎2020年度入試合格実績（現役のみ）  
国公立大は、富山大、金沢大、福井大、信州大などに56人が合格。私立大は、東海大、法政大、立命館大、龍谷大、近畿大などに延べ347人が合格。  
◎URL <http://www.nanotokuno-h.tyml.jp/>

これからの社会について  
生徒や保護者とともに考える

**河野** 大学進学希望者が多い学校も、これまでのペーパーテスト中心の評価の考え方から転換していくこ



島根県立浜田高校  
**山田伸太郎** やまだ・しんたろう  
教職歴12年。同校に赴任して5年目。数学科。

**島根県立浜田高校**  
◎「高い理想と誠実な努力」を教育目標に、授業、部活動、「総合的な探究の時間」を中心とした3か年のキャリア教育「HIRAKU」などの教育活動を通じて、一人ひとりの夢の発見と、その夢に向かっている挑戦を支援する。  
◎設置 1893（明治26）年  
◎形態 全日制／普通科・理数科／共学  
◎生徒数 1学年約200人  
◎2020年度入試合格実績（現浪計）  
公立大は、東京工業大、東京大、金沢大、神戸大、九州大などに109人が合格。私立大は、慶應義塾大、中央大、立教大、早稲田大、同志社大などに延べ173人が合格。  
◎URL <https://www.hamakou.ed.jp/>

とが求められます。

**山田** 進学実績を重視すること自体が問題ではなく、進学実績をあたかも学校の教育目標であるように捉えてしまうことが問題なのだと思います。進学実績は結果の1つであるとして捉えることが必要であり、そのためにも、自校として育成を目指す資質・能力を、生徒や保護者の思いに加え、地域・社会の期待や要請も踏まえて設定し、校内外に明確なメッセージとして発信していくことがこれからの学校には求められると思います。

**石黒** 私も、地方の公立高校の教壇に立つ1人として、生徒や保護者、そして私たち教師の中に、「少しで

図1 学習評価の3つの段階

- 診断的評価** 学習者が既に理解していることを把握し、適切な学習目標を設定する
- 形成的評価** 学習活動の途中で行い、学習内容の定着や意欲の状態を測り、教師の学習指導の改善に役立てる
- 総括的評価** 1つの学習活動が終了した時に学習の成果を測る

\*鈴木名誉教授への取材を基に編集部で作成。

も高い点数を取って、その点数で行ける大学に行った方がよい」という考えがあることは否定できません。その上で、未来を生きる力を生徒に育むために、私個人ができることを考えると、それは、十年後、二十年後の社会を私なりに見据えて、育成を目指す資質・能力を授業で身につけさせるべく、生徒と英語を学んでいくことだと思えます。そうすることで、大学進学に対する生徒の考え方も変化してくるのではないのでしょうか。

**鈴木** その学校の評価のあり方を決める土台は、学校の経営方針であり、どのような資質・能力を生徒に育むのかという教育理念です。授業がその理念の実現のために行われているのであれば、評価のあり方はおのずと変わってくるはずです。学校は、生徒や保護者に教育理念とその実現のための評価のあり方をしっかりと伝えることが求められます。また、これからの社会について考える機会を生徒や保護者に提供することも重要です。私は以前、高校生の保護者に、海外の大学の入試問題を紹介し、そこで測ろうとしている力について説明したことがあります。世界で活

躍していくためには、協働性や創造性、コミュニケーション能力といった非認知能力が重要であることを知ると、保護者は一様に驚きます。世界はどうなっているのか、これからの社会ではどんな力が求められるようになるのかを伝え、その育成のためには、どのような授業、評価が必要なのかを、生徒や保護者と話し合うことも重要でしょう。

### 教師のひと言の影響力の大きさを認識

**河野** 多様な手法による多面的な評価は、高校にも着実に広がっているようですが、課題としてはどのようなことが挙げられるでしょうか。

**鈴木** 評価は、生徒の状態を値踏みするものではなく、生徒が主体的に学習に取り組み続けられるように支援するためのものであるべきだと私は考えています。しかし、実際には、評価が生徒の学びの意欲の覚醒につながっていないこともあります。

**河野** 先生方には、「よい影響・マインスの影響を与える教師からのアドバイス・声かけ」について生徒に尋ねたアンケート結果をご覧くださいだ

きます（P.15）。評価において、前向きになることも後ろ向きになることも多い場合は、定期考査と模擬試験だということが分かります。

**山田** 節目のテストは、生徒のその後の学習意欲に大きな影響を与える評価の機会なのですね。生徒のコメントを読むと、評価の場面で生徒にかけている私たち教師のひと言が彼ら・彼女らを伸ばし、そして時には傷つけているのだと、言葉の持つ力の大きさを改めて実感しました。

**石黒** 私も、教師のひと言の影響力を感じました。こちらが何気なく口にした言葉によって、生徒が定期考査や模擬試験などの評価の意味を、教師の想定とは違う形で捉えてしまうこともきつとあるのだろうと思います。

**河野** 定期考査も模擬試験も、生徒の学習を支援する上で重要な客観的評価です。しかし、同じ定期考査・模擬試験でも、生徒の意欲を引き出すこともあれば、そうならないこともあります。では、理想の評価を実現するためには、何が必要なのでしょう。

**鈴木** A、B、Cといった評定だけをつける評価では、学びの意欲は引

き出せません。生徒に「なぜ、Bなのか」「どこを修正すればよいのか」といった評価の理由や今後の見通しを示し、生徒が自分の学習状況をメタ認知できることが必要です。高校では、定期考査の結果を基に評定をつけることが評価だと考える向きもありますが、評定は「総合的評価」にあたり、学習評価の1つのフェーズに過ぎません。診断的評価によって目標を明確化し、形成的評価によって学習の進め方を確認して、総合的評価の場面でも、「なぜ、この評価なのか」「どこを修正すればよいのか」を生徒に伝えることで、初めて学びの意欲を引き出すことができるのです。

### 「できるかもしれない」という気持ちにさせる声かけ

**河野** 「なぜ、この評価なのか」「どこを修正すればよいのか」を生徒に伝える際、教師はどのようなことに配慮すればよいのでしょうか。

**鈴木** 評価によって、生徒が「私もできるかもしれない」という気持ちになることが大切です。先生方は経験を通して実感していると思いま

## 高校生に聞いた「よい影響・マイナスの影響を与える教師からのアドバイス・声かけ」

\*全国の高校生へのアンケート結果。ウェブを通じて実施し、1,321人（1年生489人、2年生531人、3年生301人）から回答を得た。

■返却された時などに先生からアドバイスをしてもらったり、声をかけてもらったりしたことで、その後の学習姿勢や学習方法に最も**よい影響を与えたもの**



### 先生からアドバイスをしてもらったり、声をかけてもらったりしたことの具体的な内容

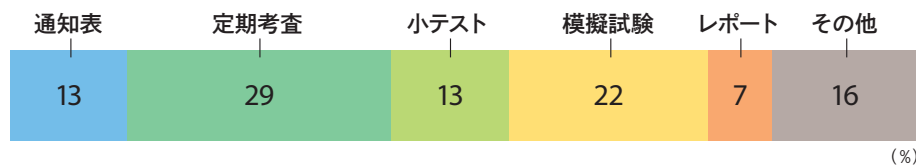
- ◎自分の苦手なところと比較的できているところを確認した上で、勉強法を教えてくれた。
- ◎よくできているところを「今の調子で頑張ろう」と認めてくれた上で、できていないところについて、「この部分を伸ばすようにしよう」と言われた。
- ◎どうしたら学年上位に食い込めるのか、ミスを減らしていくにはどうすればよいのかを教えてもらった。
- ◎ミスが多かったところの解き方などを詳しくアドバイスしてくれた。
- ◎苦手な教科をどのように頑張るべきかを具体的に示してくれた。
- ◎教科担当の先生から、「あなたは質の高い家庭学習をしているから、点数がよく伸びているんですよ」と言ってもらえた。
- ◎数学で、学校指定の問題集にしっかり取り組んでテストに臨んだら、いつもより高い点数が取れた。その時、「問題集に取り組んだ成果が出たね」と褒めてもらった。

できているところを  
まずは認めた上で、克服すべき  
弱点を指摘している

苦手なことや弱点に対して  
具体的なアドバイスをしている

結果だけではなく、  
日々の学習の  
様子を基に褒めている

■返却された時などに先生からアドバイスをしてもらったり、声をかけてもらったりしたことで、その後の学習姿勢や学習方法に最も**マイナスの影響を与えたもの**



### 先生からアドバイスをしてもらったり、声をかけてもらったりしたことの具体的な内容

- ◎「こんな問題もできないのか」と言われた。
- ◎「今の志望大学は諦めた方がよいかもしれない」と言われた。
- ◎「この教科のここを直せ」とだけ言われても、直し方が分からない。
- ◎「もっと頑張れ」など、具体的ではないアドバイスもらった。
- ◎自分なりに勉強をしているつもりなのに、「勉強していない」と決めつけられた。
- ◎順位や偏差値が下がっているのに、「頑張っているね」と言われ、自分に甘くなってしまった。

頭ごなしに否定されている

具体的な行動に結びつく  
声かけになっていない

プロセスや結果を  
正確に把握していない

すが、私が考える「『できるかもしれない』という気持ちにさせる支援」のポイントをお伝えします(図2)。まず、褒めるといふ言語での支援です。褒めると言っても、ただやみくもに褒めればよいというものではありません。根拠がないのに褒めても、きつと生徒に見透かされるでしょう。褒める際には、その生徒をほかの生徒と比較するのではなく、その生徒自身の過去と比較すること、そして、小さな成長でもよいのでそれを見逃さず、具体的に、結果だけでなくプロセスにも目を向けた上で褒めることが大切です。そのようにして生徒を褒めるためには、一人ひとりの生徒の詳細なモニタリングが重要になります。そして、生徒のモニタリングにおいては、結果とプロセスが表された模擬試験などのアセスメントやポートフォリオは、有効な手段となるのです。さらに、生徒と面談を重ねるなどして、生徒自身が自分の学習状況をメタ認知できるように支援することが必要です。

**石黒** 私も、生徒にただ「頑張れ」というのではなく、その生徒の学習状況を把握した上で、具体的なアドバイスをできるように心がけています。その意味で、詳細なモニタリングは不可欠だと思います。ただ、その分、「あなたはこうしたらいいんじゃないかな」と、私の考えを押しつけることになっていく時もあるかもしれません。もつと生徒の言葉を待つことも必要だと感じています。

**鈴木** おっしゃる通り、どれだけ生徒を詳細に把握したつもりでも、その見取りが常に正しいとは限りませんし、具体的なアドバイスをしたからと言って、生徒が教師の予想通りに変化するわけではありません。そこで求められるのが、「見張る」のではなく「見守る」というスタンスへと転換した関係性での支援です。具体的なアドバイスをした上で、判断は生徒に委ね、必ずしも教師の思った通りに変化しない生徒も受容する。そして、学校行事や委員会活動など、一見、学習とは関係がなさそうな場面での成功体験も見取って褒める。教師が生徒を信じ、待つ態度を貫く中で、生徒は高校生活での様々な経験と成功体験をほかの場面にも転移できるようになります。言語での支援、関係性での支援の積み重ねが、生徒に「私にもできるかもしれない」という気持ちを育みます。

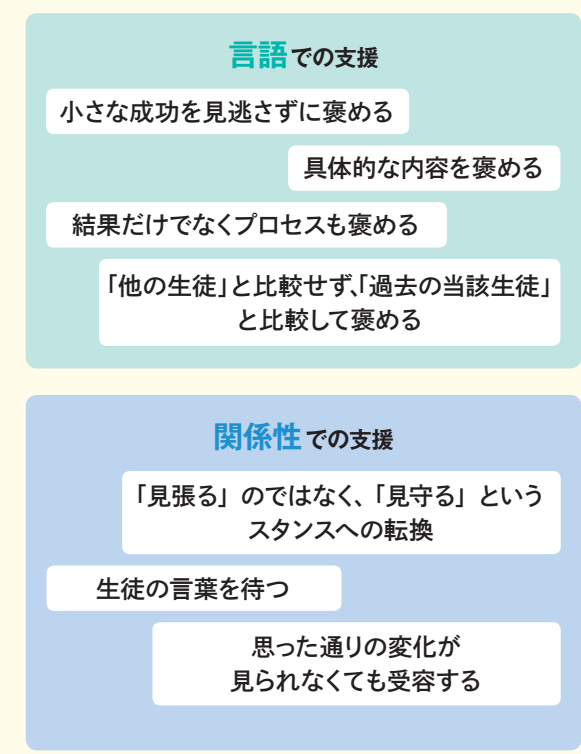
**自校の「評価」をよりよく機能させるために**

**河野** 鈴木先生は、生徒に「私にもできるかもしれない」という自信・信念を育むため、高校教師の支援を行っています。

**鈴木** 山形県立米沢興譲館こうじょうかん高校は、スーパーサイエンスハイスクール、事業の評価指標として、私が開発した「自己効力測定尺度」を取り入れました。自己効力とは、「私にもできるかもしれない」という自分の知識や技能への自信や信念のことであ

り、自己効力測定尺度は、自己効力を通して生徒の学習意欲を測定する尺度です(図3)。具体的には、「私はやる気になれば、理科は難しいことでも分かる」「私は集中して理科の授業を受けることができる」「私は自分の目標を決めて理科の勉強をしている」「先生は理科の勉強において私に期待していると思う」など、生徒が高校生活での目標を達成する上で物差しとなりうる30以上の項目で測定されます。同校は、自己効力を、育成を目指す資質・能力の中心に置き、生徒の自己効力の測定を

図2 「できるかもしれない」という気持ちにさせる支援



\*鈴木名誉教授への取材を基に編集部で作成。

図3 自己効力測定尺度

| 設問番号                        |    |   | a01                               | a02                            | a03                         | a04                                   | b01                      | b02                              | b03                                   | b04                         | b05                        | b06                      | b07                    | b08                               | b09                           |   |
|-----------------------------|----|---|-----------------------------------|--------------------------------|-----------------------------|---------------------------------------|--------------------------|----------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------|----------------------------|--------------------------|------------------------|-----------------------------------|-------------------------------|---|
| 2020/12/25<br>～<br>2021/1月末 | ID |   | 私はテストなどで失敗しないと決めた<br>ら、本当に失敗しません。 | 私はやる気になれば、勉強は難しいこと<br>でもわかります。 | 私は勉強で間違えないと決めたら、間違<br>えません。 | 私は学校で良い成績を取ろうと思えば、<br>良い成績を取ることができます。 | 私は集中して授業を受けることができま<br>す。 | 勉強をすると決めたら、私はすごくがん<br>ばることが出来ます。 | その気になれば、先生の言うことをとて<br>も注意して聞くことができます。 | がんばらなくても、学校の勉強はすぐわ<br>かります。 | 私はわりと頭が良いので、勉強はよくで<br>きます。 | 学校の勉強なら、私はとてもよくできま<br>す。 | 私はだいたい先生方に好かれていま<br>す。 | 私が先生に何か聞きたいとき、いつでも<br>先生は答えてくれます。 | 私は先生に、よくがんばっているとと思わ<br>れています。 |   |
|                             |    | 前 | 1                                 | 3                              | 2                           | 2                                     | 2                        | 3                                | 1                                     | 4                           | 3                          | 3                        | 3                      | 3                                 | 3                             | 2 |
| Aさん                         | 1  | 後 | 2.0                               |                                |                             |                                       | 2.0                      |                                  |                                       | 3.3                         |                            |                          | 2.7                    |                                   |                               |   |
|                             |    | 前 | 1                                 | 2                              | 1                           | 3                                     | 3                        | 3                                | 3                                     | 1                           | 2                          | 2                        | 1                      | 4                                 | 3                             |   |
| Bさん                         | 2  | 後 | 1.8                               |                                |                             |                                       | 3.0                      |                                  |                                       | 1.7                         |                            |                          | 2.7                    |                                   |                               |   |
|                             |    | 前 | 2                                 | 3                              | 3                           | 4                                     | 4                        | 4                                | 4                                     | 4                           | 3                          | 4                        | 3                      | 3                                 | 2                             |   |
|                             |    | 後 | 3.0                               |                                |                             |                                       | 4.0                      |                                  |                                       | 3.7                         |                            |                          | 2.7                    |                                   |                               |   |
|                             |    | 前 | 2                                 | 2                              | 2                           | 2                                     | 3                        | 3                                | 2                                     | 2                           | 3                          | 3                        | 1                      | 2                                 | 2                             |   |
|                             |    |   | 2.0                               |                                |                             |                                       | 2.7                      |                                  |                                       | 2.7                         |                            |                          | 1.7                    |                                   |                               |   |
|                             |    |   | 1                                 | 3                              | 1                           | 1                                     | 2                        | 3                                | 1                                     | 4                           | 1                          | 1                        | 2                      | 3                                 | 1                             |   |

生徒の自己効力を測定するために鈴木名誉教授が開発した自己効力測定尺度の一部。統制感(自信や信念)、手段保有感(努力、能力、教師)、社会的関係性(教える役割、周囲の期待)、メタ認知(自己評価、自己制御)などから、自己効力の状況や推移を把握する。

\*鈴木名誉教授提供資料を基に編集部で作成。

行っています。自己効力の育成においては、周囲からの言語での支援が大きな影響を与えます。米沢興譲館高校では、診断的評価と形成的評価の場面で生徒の自己効力を測定し、生徒との面談での声かけなどに役立っています(米沢興譲館高校の実践は、P.18～21で紹介)。

**河野** 学校として育成を目指す資質・能力を設定することで、進学を重視する学校でも、授業のあり方と評価観を変えることができています。好例ですね。今回の座談会を通じて、これからの評価において求められる先生方のあり方が見えてきたように思います。

**石黒** 人は誰もが、いつでも右肩上がりでの成長するわけではありません。生徒一人ひとりのことをしっかりと見て、その生徒に必要な支援をしていくことが、私たち教師には求められます。そして、教師は自分が知っている一面だけがその生徒のすべてであると捉えてはいけません、私という1人の教師の価値観だけで評価してしまわないようにしたいと思えます。

**鈴木** 1人の教師の目だけでは生徒を一方的に捉えてしまうのではない

かという懸念を抱くのは当然です。だからこそ、「教師がまだ知らない生徒の姿」を追い求めることも大切です。私は高校で学年主任を務めた時、学年団の先生方に、担当教科以外の授業を見に行くようお願いをしました。教科が変われば生徒の様子も変わりますから、自分の知らない生徒の姿を見ることは、自分の思い込みを修正する好機になります。一人ひとりの生徒について多様な視点で語り合うような教師の連携が、今後は一層求められると思います。

**山田** 教師の連携によって、生徒を評価する「物差し」を複数準備してあげることが出来るのではないのでしょうか。私たち教師が、知識・技能を測る物差しはもろろん、主体的に学習に取り組む態度などの非認知能力を測る物差しを手にして生徒に向き合えば、それは生徒にとっては、「私にもできるかもしれない」という自信・信念が芽生えるチャンスが増えることにつながると思います。

**鈴木** 教育は種まきです。いつ、どんなふうにも芽が出るのかは、簡単には予想できないから、「私にもできるかもしれない」という自信・信念を生徒に育むことが大切なのです。

# 転換を図った評価観に基づく実践で、 評価を生徒のさらなる成長の機会に 山形県立米沢興譲館高校

山形県立米沢興譲館高校は、2015年度より、従来のペーパーテスト中心の学習評価からの脱却を図ってきた。育成を目指す資質・能力「興譲館3DOC」を策定するとともに、学習評価に関する校内研修や、多様な評価方法の実施週間などの取り組みを通じて、教師の評価観の転換を促進。18年度にシラバスを改訂し、全教科・科目で観点別学習状況の評価を実施している。

## 探究学習をきっかけに 多面的な評価の必要性が高まる

山形県立米沢興譲館高校が観点別学習状況の評価（以下、観点別評価）に関する校内研修を初めて行ったのは、2015年度のこと。12年度にSSH（\*）の指定を受けて始めた探究学習をきっかけに、学習評価の見直しの機運が校内で年々高まっていた。教務主任の石黒吉寛先生は、当時の教師たちの変化を次のように語る。

「探究学習では、課題を見いだし、情報の収集とその整理・分析を行うと、まとめ・表現する、そのプロセスが重要です。探究学習を続ける中で、

結果を評価するペーパーテストだけでなく、プロセスにおける成長も可視化する評価方法も必要ではないかと、多くの教師が感じていました」

18年度の探究科新設が決まり、探究学習が同校において一層重要な教育活動として位置づけられることになったことから、多面的な評価の開発に全校で取り組むことになった。最初に着手したのが、学習評価に対する教師の意識転換だ。

「生徒を多面的に評価する大切さを分かっていても、定期考査や小テストの得点を基に成績や評定をつけるのが『学習評価』だとする評価観から抜け出すことは、なかなか難しい様子でした。それは、評価方法を

変えることへの抵抗感や、進学校としての責任を果たせなくなるのではないかとといった不安があったからだと思います。学習評価に対する思い込みの払拭や多面的な評価への理解促進が課題でした」（石黒先生）

そこで15年度、学習評価のあり方や、ペーパーテスト以外の評価方法などを改めて学ぶ校内研修を、北海道大学高等教育推進機構の鈴木誠名誉教授を講師に迎えて実施した。

「学習評価は、評価の内容を生徒にフィードバックし、生徒がさらに伸びるための指針となるものにするべきだと、鈴木名誉教授は強調しました。ペーパーテストの結果を見るだけでは学習評価の目的は達成できない

いこと、学習評価を生徒の学びや教師の指導の改善に活用することなどを学びました」（石黒先生）

それ以来、評価に関する校内研修を年2〜4回実施してきた。教科ごとにグループを組んで評価項目や評価方法、ポートフォリオの活用について検討したり、担当教科・科目が異なる教師から成るグループで評価の観点やルーブリックの内容について議論したりと、教師同士で対話し、評価観の共有を進めた。週1回の教科会で、評価方法を研究した教科もあつた。

校内研修を活性化させるために工夫もしてきた。

「本校では、それまで校内研修を

\* 文部科学省「スーパーサイエンスハイスクール」。

行う文化がなかったもので、最初は研修の実施自体に戸惑う教師もいました。講師の予定などを優先して急に研修日程が決まることもあり、それがさらに教師を困惑させる要因になっていました。そこで、17年度からは実施時期を決めて年間行事計画に組み込み、研修の内容や進め方も事前に伝えるようにしました。心の



校長  
柿崎悦子  
かきさき・えつこ  
教職歴35年。同校に赴任して2年目。

教務主任  
石黒吉寛  
いしぐろ・よしひろ  
教職歴21年。同校に赴任して12年目。

**山形県立米沢興譲館高校**

- ◎1776（安永）年、米沢藩中興の祖とされる上杉鷹山が再興した藩校・興譲館を起源とする。文部科学省「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」指定は現在3期目。20年度、SSHのうちの「科学技術人材育成重点校」の指定を受ける。
- ◎設立 1886（明治19）年
- ◎形態 全日制／普通科・探究科／共学
- ◎生徒数 1学年約200人
- ◎2020年度入試合格実績（現役のみ）  
国公立大は、東北大、山形大、筑波大、東京大、新潟大などに115人が合格。私立大は、東北学院大、慶應義塾大、法政大、明治大、早稲田大などに延べ222人が合格。
- ◎URL <http://www.yonezawakojokan-h.ed.jp/index.html>

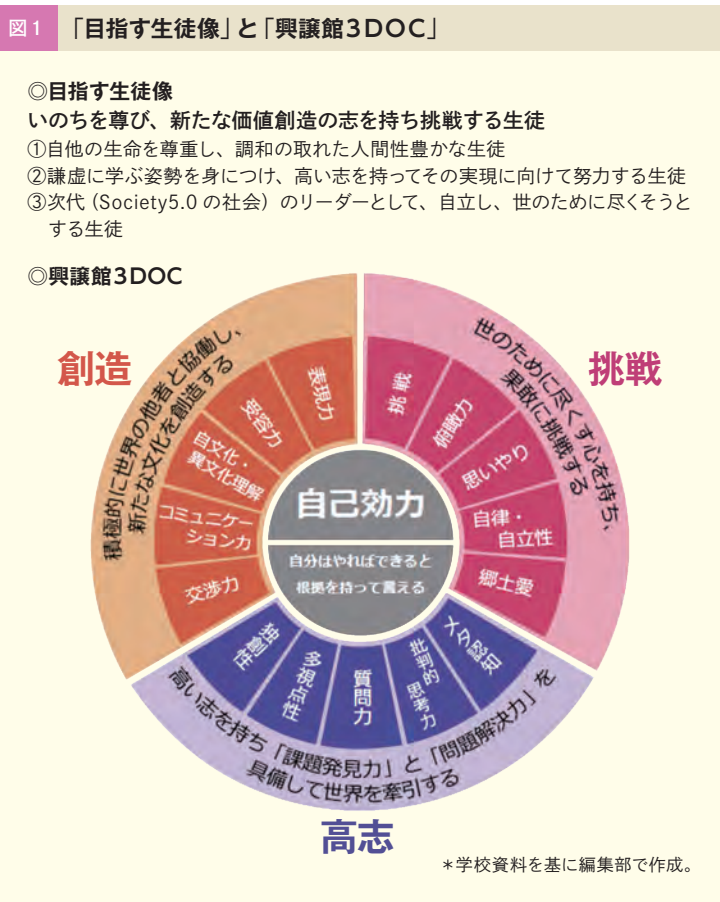
準備をした上で研修に臨めるようにしたところ、戸惑いの声はなくなっていました」（石黒先生）

**目指す生徒像を見直し、「興譲館3DOC」を策定**

学習評価のあり方を見直す過程で同校が改めて着目したのは、目指す生徒像だった。柿崎悦子校長は、その理由を次のように語る。  
「本校は藩校・興譲館からの歴史

の中で、常に時代に即応した人材育成に努めてきました。テストで高得点を取れることだけが、激変する現代社会においてリーダーシップを発揮する力につながるとは思いません。生徒にどのような資質・能力を育成し、それをどう評価すべきかを検討する前に、本校が目指す生徒像を見直す必要があると考えました」

そこで、校内研修と並行して、有志の教師が立ち上げた「興譲館将来構想委員会」において、目指す生



徒像とそれを実現するために育成する資質・能力を検討。16年度、自己効力を中心に「高志・創造・挑戦」を3本柱とする資質・能力から成る「興譲館3DOC（Domain Of Competence）」（図1）を策定した。

「興譲館3DOC」の中心に位置づけられている「自己効力」は、「私にもできるかもしれない」という自分の知識や技能への自信や信念」と定義し、「興譲館3DOC」の育成を通じて生徒のそれを高めることを、学校教育目標とした。

「生徒は、テストの得点だけで評価されると自信を失い、本来の力を発揮できなくなってしまうことがあるのではないだろうか。多様な資質・能力を評価し、『自分にも何かできるかもしれない』といった自信を生徒一人ひとりに持たせて社会に送り出すことが、教育の果たすべき責務だと考えています」（石黒先生）

**シラバスに評価の観点・方法と「興譲館3DOC」を明記**

18年度、全学年同時に全教科・科目のシラバスを改訂し、観点別評価を導入した。1年次から学年進行で

図2 2020年度シラバス 1学年「物理基礎」

| 令和2年(2020年)度年間授業計画表                 |   |  |     |              |      |                          |     |
|-------------------------------------|---|--|-----|--------------|------|--------------------------|-----|
| 学年                                  | 1   | 科・系  | 普通科 | 単位           | 2    | 教科                       | 理科  |
| 学習目標                                | ① 日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高める。<br>② 観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を身に付ける。<br>③ 物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。 |  |     |              |      |                          |     |
| 単元と内容                               |   |  |     |              |      |                          |     |
| 1学期                                 | 速度<br>加速度<br>物体の運動<br>力とそのはたらき  | 速さと速度の違いの理解、加速度的な変化や速さの意味の理解<br>(1)速さ、(2)速さによる等加速度直線運動の式の導出と公式の活用<br>力の要素と種類、力の合成や分解の仕方、質量<br>運動の法則とその理解、エネルギー、仕事の理解と有用な力の理解 |     |              |      |                          |     |
| 観点別に評価の趣旨を明記                        |   |  |     |              |      |                          |     |
| 評価の観点                               |   | 評価の趣旨  |     | 評価のフィードバック   |      |                          |     |
|                                     |   |  |     | 1学期末         | 2学期中 | 2学期末                     | 学年末 |
| ①                                   | 関心・意欲・態度  | 自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。   |     | ○            | ○    | ○                        | ○   |
| ②                                   | 思考・判断・表現  | 自然の事物・現象の中に問題を発見し、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。   |     | ○            | ○    | ○                        | ○   |
| ③                                   | 観察・実験の技術  | 観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技術を身に付けている。  |     | ○            | ○    | ○                        | ○   |
| ④                                   | 知識・理解   | 自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。  |     | ○            | ○    | ○                        | ○   |
| 各観点の評価方法を明記                         |   |  |     |              |      |                          |     |
| ①                                   |   | ②  |     | ③            |      | ④                        |     |
| ・授業態度 30%<br>・小テスト 40%<br>・課題提出 30% |   | ・ペーパー試験 70%<br>・実験レポート 30%   |     | ・実験レポート 100% |      | ・ペーパー試験 50%<br>・小テスト 50% |     |
| 評価方法                                |   |  |     |              |      | 年間時数                     |     |
|                                     |   |  |     |              |      | 予定                       |     |
|                                     |   |  |     |              |      | 実施                       |     |
| 育てる典拠館DOC                           |   | 「批判的思考力」「質問力」「多視点性」「表現力」「コミュニケーション力」   |     |              |      |                          |     |
| D                                   |   | 「メタ認知」「批判的思考力」「質問力」「多視点性」「自律性」「受容力」「表現力」「交渉力」  |     |              |      |                          |     |
| C                                   |   | 「コミュニケーション力」「自己理解」「異文化理解」「自律・自立性」「思いやり」「質問力」「協働力」「柔軟性」   |     |              |      |                          |     |
| 「興譲館3DOC」のうち、当該教科・科目が育成を目指す資質・能力を明記 |   |  |     |              |      |                          |     |

\*学校資料を基に編集部で作成。

実施する案も検討したが、学校全体で学習評価の意識改革を図ろうと、全校一斉で実施することにした。それまでのシラバスは、学習目標や使用教材、進度などが記載され、生徒が自分で学習を進めるためのツールとして位置づけられていた。その様式を見直し、新しいシラバスには、学習目標、単元とその内容に加えて、現行課程の評価の4観点である「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」とその趣旨、各観点の評価方法（授業

態度、課題提出、小テストなど）を明記。さらに、19年度からは、「興譲館3DOC」のうち、当該教科・科目で育成を目指す資質・能力を示した(図2)。そのように、資質・能力ベースの教育目標と学習評価の観点・方法を見える化したことで、生徒にとっては学習改善、教師にとっては授業改善に生かせるツールとなった。「多様な観点で学習評価を行うと同時に、本校が育成を目指す資質・能力と各教科・科目の授業がどのように結びついているのかを、常に教

師が意識しながら授業を行えるようにしました。生徒も、評価方法が分かり、多様な資質・能力が評価されていることを実感できます。『この科目は、発表が重視される』『小テストも気が抜けない』などと、学習に取り組むモチベーションにもつながっていると思います(石黒先生) 教師の評価観の変化とともに、評価方法の多様化が進んでいる。例えば、OPP(ワン・ページ・ポートフォリオ)は、1時間の授業や各単元の学習内容とその理解度、授業の感想などを記入するプリントだ。日々の授業において、主に「関心・意欲・態度」を評価するために運用している。「多様な資質・能力を評価するためには、生徒の日々の活動を記録する必要があります。定期考査の得点だけでなく、生徒が何を考え、授業にどのように向き合っているのかといった点も評価する必要があるという、先生方の評価観の転換があったからこそ、多様な評価方法を導入できたのだと思います(石黒先生) 定期考査では、どのような資質・能力を測る問題なのか、設問ごとに評価の観点を示す教科・科目が増えている。知識の定着度のみを見てい

たペーパーテストも、多様な資質・能力を測るツールになりつつある。

### 1学期の中間考査を、多様な評価方法の実施期間に

教師の意識改革を促す上で大きな役割を果たしたのが、1学期の中間考査を多様な評価方法で多面的な評価を行う「1学期中間評価期間」(以下、評価期間)だ。ペーパーテスト以外の評価方法を開発・浸透させるとともに、同様に異動直後の教師への多面的な評価の普及も兼ねて設定した。

実施期間は7日間で、通常の定期考査と同様に、期間中の部活動は休止としている。同期間の授業中は、パフォーマンステストや口頭試問、面談、グループワーク、発表など、各教科・科目が、教科特性や評価対象に応じた評価方法を選んで実施。1年目の18年度は、ペーパーテストを実施した教科・科目が目立ったが、19年度以降は、ペーパーテストの比率が低くなり、パフォーマンステストを実施する教科・科目が増えた。例えば、英語科では、以前から実施したいと考えていたパフォーマ

ンステストを導入。評価期間が設けられたことで、生徒一人ひとりにスピーキングテストを行う時間を確保できた。それをきっかけに、1学期以外の中間検査や期末検査でもパフォーマンステストを実施できる方法を考えるようになった。

「各教科・科目が様々に工夫する様子を見て、ペーパーテストだけが学習評価の方法ではないと、多くの教師が実感しました。生徒にとって、ペーパーテスト以外の方法で自分の力を示す機会があることが分かり、学習意欲の向上につながっています」(石黒先生)

その一方で、多面的な評価はペーパーテストを決して否定するものではないと、柿崎校長は強調する。

「ペーパーテストは、知識の定着の確認には適した評価方法です。教師が長年をかけて研究し、ノウハウを積み上げてきた評価方法であり、必要性があるにもかかわらず、全く実施しないのは本末転倒です。これからのペーパーテストは、知識の定着を確認する問題、思考の過程を見る問題といったように、評価する資質・能力を明確にした上で作問することが求められるのだと思います」

## 評価は自分を見つめる機会 果敢に挑戦する生徒たち

「興譲館3DOC」の中心に位置づけられている自己効力の測定も、教師の評価観の転換に大きな役割を果たした。

同校では、鈴木名誉教授が開発した自己効力測定尺度による評価を、同名誉教授の指導の下で自校用にアレンジし、6月と11月に実施している。そこでは、「統制感」「手段保有感」「社会的関係性」「メタ認知」の4つの尺度の全37項目を設定。生徒はそれぞれの項目について4段階で自己評価し、質問群ごとの平均値を算出することで、一人ひとりの自己効力を可視化している。結果は全教師で共有し、特定の項目の数値が低い生徒や、全体的に数値が下がった生徒には、教師が面談や声かけを行うなど、生徒指導に活用している。

「本校の学校教育目標である自己効力の到達状況が可視化されたことは、『興譲館3DOC』の理解と多面的な評価の浸透につながりました」(石黒先生)

一連の取り組みにより、教師の評価に対する意識は大きく変化。明確

な根拠を基に評価できるようになったことで、観点別評価の意義を多くの教師が実感している。

生徒の意識も変化している。学習意欲が高まり、授業中の質問が増えている。生徒へのアンケートでは、「自分を見つめる機会を多く得ることができた」「自分が成長するためには、どうしたらよいかを確認するきっかけになった」といった声が寄せられ、評価を前向きに捉える姿勢がうかがえた。鈴木教授によると、自己効力測定尺度の数値は通常、学年が上がるにつれて下がるが、同校の場合、1回目より2回目の方が数値が上がるが多いという。

「『生徒が明るくなり、学校の雰囲気が変わりましたね』と、保護者からよく言われるようになりました。学校行事や課外活動、進路選択などの場面で果敢に挑戦する生徒が増えているのも、大きな変化です。そうした生徒の変容を感じているからこそ、教師は観点別評価に意義を感じ、前向きに取り組むようになったのだと思います」(柿崎校長)

観点別評価が浸透しつつあること、そして評価は本来、期間を設けて一斉に行うものではないことか

ら、評価期間を取りやめ、多面的な評価の実施時期は、各教科・科目に判断を任せることも検討中だ。

今後の課題は、教科外活動と「興譲館3DOC」を関連させることだ。学校行事や課外活動などにおいても評価の観点を示し、ルーブリックを作成して評価することで、生徒の成長を可視化していきたい考えだ。

「学校行事を始めとする教科外活動も、生徒の大きな成長の機会であるにもかかわらず、何のための活動か、各活動の目的が明確になっていない状況です。『興譲館3DOC』の中のどの資質・能力を育成する活動なのかを明らかにすれば、各活動の内容や質も変わっていくことでしよう。学校生活のあらゆる場面で生徒の成長の機会にしていきたいと考えています」(柿崎校長)

引き続き、評価方法の多様性を追求していくことも課題だ。

「本校の観点別評価は、以前から行ってきた評価方法を観点別に振り分けたという状態であり、新しい評価方法の開発までには至っていません。試行錯誤を重ね、生徒の前向きな姿勢を引き出すような評価方法を見いだしていきます」(石黒先生)

# 模擬試験を軸としたPDCAサイクルを構築し、プロセス評価を通じて学習意欲を喚起

## 愛知県立豊野高校<sup>ゆたかの</sup>

生徒に主体的な学習姿勢を身につけさせようと、愛知県立豊野高校は、模擬試験の事前・事後指導の改善に学校一丸となつて取り組んでいる。模擬試験の評価を学習改善に結びつけるために、学習プロセスを可視化。その学習プロセスを声かけの際にも重視し、生徒の学習意欲の向上につなげている。

### 模擬試験の活用を見直し、 主体的な学習姿勢を育む

愛知県立豊野高校は、2020年度から、主体的な学習姿勢の育成を目指し、模擬試験を軸とする学習のPDCAサイクルを生徒が回せるようになるための取り組みを始めた。教師は、各過程において生徒の様子を丁寧に見取り、学習意欲の向上につながる声かけを行っている。

それまでも、教師は生徒の希望進路の実現のために力を尽くしていたが、生徒の学習意欲を高める指導にはなっていなかったと、進路指導主事の谷口明正先生は、課題意識を次のように語る。

「宿題を大量に課し、未提出の生徒は放課後に残して取り組ませる指導を行っていました。生徒は宿題をこなすのに精いっぱい、内容の理解は伴っていないのでしよう。学力はなかなか向上せず、生徒の学習姿勢は受け身になる一方でした。指導方針の転換が必要だと考えるようになりました」

そこで、谷口先生は、進路指導の3年間の流れがひと目で分かる形に、進路指導の方針を1枚の紙にまとめた。「生徒が行けるところを探す進路選択」ではなく、「自分の夢から一番近い進路選択」ができる学校」を目指す学校像に掲げ、その実現のために、各学年で重要な観点、

時期ごとに重点を置くべき指導、主要アセスメントとそれをういた声かけ例を示した。それを教師間で共有するため、20年2月、希望者を募って研修会を実施した。

「若手を中心に約30人の教師が集まり、生徒を何とか伸ばしたいという意欲を感じました。進路指導主事として、私は本校の進路指導の方針を明確に伝え切れていなかったと反省しました」（谷口先生）

生徒の学習姿勢の改善の軸にしようとして着目したのが、模擬試験だ。各学年で複数回実施していたが、事前・事後の学習は生徒に任せていた。そこで、LHRで模擬試験に向けた目標得点の設定や学習計画の立案、振

り返りを行い、生徒が学習のPDCAサイクルを回せるようになるための支援策を模索した。

「本校の卒業生の進路は、大学進学が6割、専門学校進学が3割、就職が1割ですが、入学時に卒業後のビジョンを明確に持つ生徒は多くありません。自身の将来を見いだすための1つの基準となる『学力』に向き合わせ、将来を見据えて、学習に取り組む姿勢を身につけさせることを目指しました」（谷口先生）

### 学習状況を自己分析し、 模擬試験の目標得点を設定

6月中旬、7月の模擬試験に向け

教育の「これから」を考える②  
次につながる学習評価

愛知県立豊野高校

◎校訓は「真心」。学校教育目標を「社会をたくましく生き抜く人間」とし、その達成に向け、社会を見据えるキャリア教育に重点を置く。「総合的な探究の時間」にSDGsを切り口とした探究学習や、豊田市や地元企業と連携した社会人と生徒の交流プログラム「ジョブカフェ」などを行った。

◎設立 1986（昭和61）年

◎形態 全日制/普通科/共学

◎生徒数 1学年約320人

◎2020年度入試合格実績（現浪計） 国立大は、岐阜大、名古屋工業大、公立鳥取環境大に4人が合格。私立大は、東京理科大、愛知大、中京大、名城大、近畿大などに延べ344人が合格。

◎URL <https://yutakano-haichi-ced.jp>



1学年主任  
足立 祥太  
あだち・しょうた  
教職歴8年。同校に赴任して1年目。数学科。



1学年主任  
平野 大地  
ひらの・だいち  
教職歴5年。同校に赴任して6年目。英語科。



進路指導主事  
谷口 明正  
たにぐち・あきまさ  
教職歴14年。同校に赴任して10年目。数学科。

て、生徒が自身の目標得点の設定と学習計画の立案に取り組み事前指導を行った。目標得点設定には、「合格ライン」（\*）を活用。また、学習計画表の作成には、事後指導で計画の実施状況を振り返らせて生徒の

図1 1年生の「自己分析・学習計画表」

模擬試験の前に、学習事項の到達度を自己分析。受験後の自己採点を踏まえて、同じ項目について事後評価を行い、その差異に注目させる。 \*学校資料をそのまま掲載。

メタ認知能力を向上させることと、教師が模擬試験の結果だけでなく、学習プロセスに基づいた声かけをできるようにするねらいもあった。谷口先生は、学習プロセスを評価する意義を次のように語る。

「面談で、模擬試験の成績が伸び悩んでいた生徒に、『今まで頑張ってきたことを振り返り、今までの頑張りをまとめてきたノートや取り組みのプリントを持っておいで』と声をかけると、10冊以上のノートを持ってきた生徒もいました。そうして生徒の努力を再確認するとともに、教科担当としてアドバイスをすると、悲

痛な面持ちだった生徒が自信に満ち溢れた顔になっていきました。模擬試験の結果だけを見てアドバイスをするのではなく、学習プロセスを評価する大切さを実感したことから、生徒の学習状況を見取る材料として学習計画表を大事にしています」

1年次の事前指導では、国語・数学・英語の各教科担当が模擬試験までにすべき学習項目を一覧化したプリントを配布（図1）。生徒は、各学習項目を3段階で自己分析した上で学習計画を立てた。受験後は、自己採点と、改めて各学習項目を事後評価し、今後強化すべき分野を挙げて、次の模擬試験の目標を立てた。その一連の活動によって、生徒の学習プロセスを見取る仕組みができたこと、1学年主任の平野大地先生は語る。

「本校の生徒にとって、『教師に見守られている』という実感を持っていることが、学習意欲の喚起につながっています。生徒が最初に書いた学習計画の多くは、漠然とした内容だったため、対策が必要な分野や取り組むべき問題集などを具体的に書けるように支援し、少しでも計画を具体化することができた生徒は褒めようと、学年団で目線合わせをしました」

\* 各大学に合格した生徒の進研模試における平均偏差値と平均得点。豊野高校では、同校から進学が想定される東海・中部地区の大学・学部をピックアップして、学問系統別に目標得点を一覧化。それらを記載した進路便りを生徒に配布している。

## 保護者の協力の下、生徒を支援する雰囲気を三者面談で醸成

8月の三者面談では、7月の模擬試験の自己分析を踏まえた、次回の模擬試験に向けての目標と学習計画を、生徒が保護者にプレゼンテーションする場を設けた。教師と保護者は、①それぞれの考えの違いを受け入れて楽しむ、②生徒の発言やアクションを保護者・担任は支援する、③失敗を歓迎する、④全体を否定しない(否定は代替案とセットで)、⑤伝えることを諦めないというルールをあらかじめ共有し、生徒が「発表してよかった」と思えるような環境づくりに配慮した。1学年担任の足立祥太先生は、その意義をこう語る。

「今回の模擬試験の結果が芳しくなかった生徒でも、次回に向けた自分なりの決意が認められれば、それを実行しようという意欲が湧いてくるのだと思います。保護者にとって子どもの思いを知る場となり、家庭も含めて生徒を支援する雰囲気を醸成することができました」

2年生では、7月の模擬試験の成績表を返却する際に、事後指導を実施。事前学習や自己採点、成績結果

図2 模擬試験の成績表返却時に行った振り返りプリント

\*学校資料を基に編集部で作成。

などを踏まえて次の模擬試験の目標点を設定し、その達成に向けた学習内容を具体化する活動を実施するとともに、学年団から進路指導部により、各教科担当による模擬試験の振り返りのポイントの解説を生徒に向けて行いたいという提案があった。

「各教科担当が生徒の弱点を踏まえた振り返りのポイントをまとめたプリント(図2)を生徒に配布しました。自分たちをよく知る教師からの指摘を、生徒は自分事として受け止めていました。一方、学年団は、自分たちが提案したという当事者意識

から、意欲的に事後指導に取り組みました。学年団から新たな提案がなされることに、学校としての組織力の向上を感じます(谷口先生)。

なお、学年会では、各教科担当から模擬試験の結果分析と今後の指導方針を説明。担任が担当外の教科の状況についても把握し、生徒にアドバイスできるようにしている。

## 努力も課題も見えやすくなり声かけの内容が多様

一連の取り組みによって、生徒一

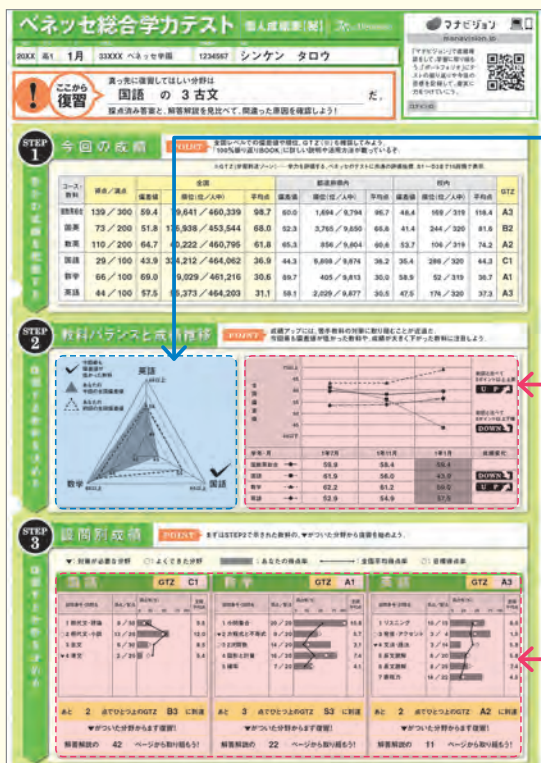
人ひとりの学習プロセスを見取りやすくなったことで、模擬試験の個人成績表を生徒が振り返る際にも、教師は学習姿勢の改善につながるような声かけを行いやすくなった(図3)。

例えば、国語が得点できていないにもかかわらず、国語の各分野の自己評価が高かった生徒がいた。その矛盾を担任が指摘すると、生徒は初めて現実と自己評価のずれに気づき、学習の見直しにつながった。的確な振り返りができるように、以前から生徒が学習プロセスに注目できるよう意識した面談をしてきたという足立先生は、次のように語る。

「面談では、『なぜ、その結果になったのか』と生徒に問いかけ、自身の言葉でその原因を語らせ、結果に至るまでのプロセスを生徒と共有しています。そこから継続すべき学習行動と改善すべき学習行動を見いだせるように、さらに生徒自身を考えさせたり、アドバイスをしたりしています」

谷口先生は、「はい・いいえ」で答えられるような質問は避け、また、信頼関係がまだ構築できていない生徒には、「なぜ」と問いかけすぎないように留意している。そして、生

図3 模擬試験の成績表を活用した生徒への声かけの具体例



効果的な声かけ  
生徒の学習意欲を削ぐ声かけ

苦手教科は生徒自身が十分認識している。「国語が苦手だね」というような、「はい」としか答えられないことに言及するのは、生徒の学習意欲を削ぐ。

得点の推移を見て、上がってれば、「ほかの生徒にも教えたいから、どんな勉強をしているのかを教えてください」というように努力を認める。一方、下がっている場合には、「これまでよかった教科の成績が下がってしまうほど、別の教科に集中して取り組んでいたの?」というように、生徒自身が学習状況を振り返られるような声かけをする。

生徒が弱点分野を認識しているかを確認。「これまでの勉強法を確認しよう」と、学習計画表を基に学習プロセスを振り返るように促す。さらに、今後どう改善するのかを掘り下げて聞き、「家に帰ったら1問でも取り組んでみようか」などと、具体的な行動に導く。

\*「効果的な声かけ」は、「1年生 ベネッセ総合学力テスト 個人成績表」(見本)を用いて、豊野高校の教師が行っている例を記載。

生徒が発言するまで待つことを大事にしていると言う。

「苦手分野を聞いても、生徒がなかなか答えなから教師が指摘してしまう」ということは、よくあると思います。しかし、生徒の顔を見て、考えている様子が分かっただけで、生徒から言葉が出るまで待ちます。

生徒から言葉として苦手分野が出てきたら、『家に帰ったら1問でもやってみようか』と声をかけるのです。そして、生徒が実際に取り組んできたらすぐに褒める。これからの教師には、そうしたコーチングの姿勢が求められると感じています」

プロセスを認め、生徒との信頼関係

「模範試験の振り返りでは、それまでの本校では見られなかった、生徒同士が答案を見せ合って、記述式の問題について話す姿が見られました。一連の取り組みを通じて、誰にも見せたくないはずの模範試験の結果が、自分が成長するための材料に変わったのです。その様子を見て、

### 生徒の変容を受けて 指導改善への意欲が高まる

今後は、生徒の学習方法や答案の中からよい例を提示し、生徒間で共有するなど、生徒同士が刺激を与え合う機会をつくることも検討中だ。

「模範試験の振り返りでは、それまでの本校では見られなかった、生徒同士が答案を見せ合って、記述式の問題について話す姿が見られました。一連の取り組みを通じて、誰にも見せたくないはずの模範試験の結果が、自分が成長するための材料に変わったのです。その様子を見て、

本校の生徒も切磋琢磨して伸びていけると確信しました。生徒に任せれば失敗することもあります。それが糧となり、その後の学習姿勢により影響があると思っています」(谷口先生)

生徒の変容を受けて、同校の教師たちも指導改善への意欲が高まっている。授業の最後に振り返りを行い、コメントをつけて返却する取り組みを始めた教師もいる。振り返りを生徒の成長の機会と捉え、そこで行われている評価の工夫を校内で共有し、さらなる指導改善の活性化を図るのが自分の役目だと、谷口先生は語る。

「生徒は様々な評価を受けますが、それを学習行動の改善に生かせるような教師の支援が必要です。振り返りの際に、ポートフォリオなどの記録は、自身の成長に気づく重要な材料となります。そこから生徒の努力を見取り、声かけを行うと、『実は、こんな学習をしています』と自信がなさそうに話してくれる生徒もいます。そうした小さな声も丁寧に拾い、生徒の学習意欲を喚起する機運をさらに校内で高めていきたいと思いま

## 第2回レポート

# 自校の教師同士の対話を通じて、 「主体的・対話的で深い学び」を考える

新学習指導要領の実施まで2年を切った今、自校の教育の「これから」について、教師同士がそれぞれの考えや思いを率直に語り合う場が求められている。そこで、VIEW21 編集部は、自校の教師同士で自校の教育の「これから」について考え、語り合うオンライン・ワークショップを企画。その第2回を11月25日に実施した。

## 第2回オンライン・ワークショップ の概要

日時 2020年11月25日(水)  
15時30分～17時30分

形式 オンライン(ライブ配信)

テーマ 「主体的・対話的で深い学び」

## 主な内容

- VIEW21 編集部による本誌10月号の特集記事についての解説
- 本誌10月号の特集の末尾に掲載のワークシート(P.32～33)を活用した、校内での対話  
「①私が育成を目指す資質・能力」「②①の資質・能力を育む、私が考える『主体的・対話的で深い学び』」の2点について、それぞれ自校の教師同士で語り合い、そこでの気づきや疑問をオンライン上のシートに書き込むことで、参加校がお互いの状況や課題を共有。講師の國學院大学・田村学教授が参加者の疑問に回答・助言を行った上で、「主体的・対話的で深い学び」について解説した。

## 現場の率直な疑問に

### 講師が答えながら対話を展開

本誌は、特集の内容を踏まえて、自校の教師が教育の「これから」について語り合うオンライン・ワークショップを実施している。11月25日に行われた第2回も、特集のテーマについて自校の教師同士で語り合い、実践につなげるためのワークシート(10月号は、P.32～33に収録)を使って対話が展開された。

まず、「①私が育成を目指す資質・能力」と「②①の資質・能力を育む、私が考える『主体的・対話的で深い学び』」の2点について、それぞれ自校の教師同士で語り合い、そこでの気づきや疑問をオンライン上のシートに書き込んだ。参加者からは、「深い学びとはどのような学びか」「受験勉強は主体的な学びと言えるのか」といった率直な疑問が提示された。それらの疑問に対して、今回の講師である國學院大学・田村学教授が、「知識が関連づけられて、駆動する状態、自由に使いこなせる状態に向かう学びが深い学びです」「受験勉強で各教科の面白さに気づき、入試を経た後もその学びが続け



写真 「主体的・対話的で深い学び」について、学校現場での事例を挙げながら解説する田村教授。田村教授は、「今、学校という社会資本の価値が問われている。学校には『未来社会を創造する主体は自分だ』という自覚を生徒に育む教育が求められている」と語った。

ば、主体的な学びと言えます」などと丁寧に回答しながら、「主体的・対話的で深い学び」に対する理解を深めるための助言を行った。そして、田村教授は、「身につけた知識が未知の状況でも使えるようになる体験をさせることで、知識ははがれ落ちにくくなります。習得と探究は二項対立するものではないのです」と強調し、「専門性の高い高校教師は、深い学びを実現させることができる力をお持ちだと思います」と、参加

イベントのご案内

## VIEW21 PRESENTS

## 第3回オンライン・ワークショップ

# 自校の教師同士の 対話を通じて、 「次に繋がる学習評価」を考える

2021年  
2月9日(火)  
オンラインで  
開催!

新学習指導要領では、学習評価（以下、評価）を生徒の学習改善や教師の指導改善につながるものにしていくよう、その改善が求められています。生徒が評価を次の学習に向かうためのものとして受け止められるかどうかに影響を与える要因の1つと思われるのが、評価を伝える際の教師からの「声かけ」です。そこで、本ワークショップでは、模擬試験を軸とした学習のPDCAサイクルを構築する取り組みを自校で牽引している、愛知県立豊野高校（本号P.22～25）の谷口明正先生を講師に招き、模擬試験の結果返却時の声かけ例などをご紹介いただきながら、谷口先生と編集部のファシリテーションの下、自校の教師同士で、「次に繋がる学習評価」について考え、語り合うオンライン・ワークショップを開催します。

本号P.28～29のワークシートを用いながら、  
自校の教師同士の対話を通じて、自校の教育の「これから」を考えます

## 講師・ファシリテーター

愛知県立  
豊野高校  
進路指導主事  
谷口明正



◎教職歴14年。同校に赴任して10年目。数学科。主体的な学習姿勢の育成を目指し、模擬試験を軸とする学習のPDCAサイクルを生徒が回せるようになるための支援として、「自己分析・学習計画表」「模擬試験の振り返り」などの全校一丸の取り組みを牽引している。

## ワークショップの主な内容

## ① 12月号の特集について解説

12月号の特集について、谷口先生と編集部が解説

## ② 自校の教師同士で対話

谷口先生と編集部のファシリテーションの下、本号P.28～29掲載のワークシートを用いた、自校の教師同士による対話を通じて、「次に繋がる学習評価」と、その実現に向けて取り組むべきことについて考える

## ③ 質疑応答、議論内容共有

記事についての質疑応答と、各校の対話の内容の共有を行う

|               |  |
|---------------|--|
| 日時            | 2021年2月9日(火) 15時～17時<br>* 14時40分からベネッセ教育情報センターによる新学習指導要領に関する情報提供を予定しています。  |
| 形式            | オンライン(ライブ配信) 申し込みいただいた方に、詳しい参加方法をご案内します  |
| 参加申し込み方法・締め切り | QRコード、またはURLから登録してください<br>参加申し込みは2021年2月4日(木)まで<br><a href="https://enquete.benesse.ne.jp/forms/o/we9d5f65f8/form.php">https://enquete.benesse.ne.jp/forms/o/we9d5f65f8/form.php</a> |
| 参加費           | 無料   |

本号P.28～29のワークシートにお取り組みの上、  
自校の先生方と一緒に(2人以上)ご参加ください

者にエールを送った。  
第1回に引き続き続き参加した石川県・私立星稜中学校・高校の教師は、「田村教授の説明を聞きながら同僚

と話し合う中で、『主体的・対話的で深い学び』の各学びが相互につながっていくイメージが持てた」と、ワークショップで得た成果を語っ

た。  
自校の教師同士の対話を通じて特集のテーマに対する考えを深めるオンライン・ワークショップの今回の

テーマは、「学習評価」だ。新学習指導要領に基づき学習評価の実施に向けて、本ワークショップを役立てていただきたい。

# NEXTを 語り合う ワークシート

『VIEW21』 高校版  
2020年12月号特集

テーマ

## 生徒を次の学習に向かわせる、学習評価時の声かけ

新学習指導要領では、学習評価（以下、評価）を、生徒の学習改善や教師の指導改善につながるものにしていくことが求められている。そして、生徒の評価の受け止め方を左右するのが、評価を伝える際の教師からの「声かけ」だ。生徒を次の学習に向かわせるのは、どのような声かけなのか、自校の教師とともに本ワークシートを使って考えてみていただきたい。

### ワークシートの使い方

本ワークシートを複写、またはダウンロードし、各自が、下記①を記入した上で集まる。教師役と生徒役に分かれ、教師役は①で記入した声かけを実際に行い、生徒役からもらった助言を②に記入する。次に、教師役と生徒役を交替し、同様のことを行う（自分が助言したことも②に記入）。そして、②で記入した内容を踏まえて、実際に生徒に評価を伝える際の声かけや心がけたいことなどを③に記入する。

1

近々、生徒に評価を伝える機会（通知表や定期考査の結果、模擬試験の結果の返却など）を1つ選び、自分が手厚くフォローすることが必要だと思う生徒を1人思い浮かべる。そして、下の「次の学習に向かわせる言語」での支援を参考にしながら、その生徒を次の学習に向かわせる声かけを考え、記入する。

【例】模擬試験の結果の返却

- 評価を伝える機会
- 思い浮かべた生徒の特徴
- 評価を伝える際の声かけ

次の学習に向かわせる言語での支援

小さな成功を見逃さずに褒める

具体的な内容を褒める

結果だけでなくプロセスも褒める

「他の生徒」と比較せず、「過去の当該生徒」と比較して褒める



ファシリテーター役の先生へ

生徒を次の学習に向かわせる声かけは、面談はもちろん、授業やホームルームといった学校生活の様々な場面で、教師によって日常的に行われています。声かけには、その人の個性が表れますから、同僚とは言え、「あなたの声かけは、ここを改善した方がよい」といったアドバイスを受け入れてもらえるかが心配で、踏み込んで助言しにくい場合もあるでしょう。話し合いに先立ち、ファシリテーター役の先生が、「どんなによい声かけだったとしても、さらによくすることはできるはずですから、必ず1つは改善のヒントを助言するようにしましょう」と、他者の声かけにアドバイスをするのはその場のルールであることを宣言してもよいでしょう。

オンライン・ワークショップのご案内

本ワークシートを活用した自校の教師同士による対話を通じて、教育の「これから」を考えるオンライン・ワークショップを開催します。詳しくはP.27をご覧ください。

3

②で記入した、ほかの教師からの助言や自分が行った助言を踏まえて、実際に生徒に評価を伝える際の声かけやその時に心がけたいことなどを記入する。

2

ほかの教師に生徒役になってもらい、①で記入した声かけを実際に行う。①の「次の学習に向かわせる言語での支援」を参考に、生徒役教師から、よかった点や改善した方がよい点について助言をもらい、それを上段に記入する。同様に、自分もほかの教師の声かけを生徒になったつもりで聞き、よかった点や改善した方がよい点を下段に記入し、助言する。

●自分の声かけに対するほかの教師からの助言

●ほかの教師の声かけに対して自分が行った助言



# 育成したい生徒像から コンピテンシーを設定し、 教科を超えた指導体制を構築

## 北海道函館中部高校



◎函館尋常中学校として設立。「函中スピリット」として「白楊魂」を掲げる。北海道教育委員会「医進類型指定校」。2020年度から、文部科学省「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」指定校。22年度に理数科を設置予定。

◎設立 1895（明治28）年

◎形態 全日制・定時制／普通科／共学

◎生徒数 1学年約240人（全日制）

◎2020年度入試合格実績（現役のみ） 国公立大は、旭川医科大、北海道教育大、北海道大、東北大、筑波大、一橋大、京都大、公立ほこだて未来大、札幌医科大などに137人が合格。私立大は、慶應義塾大、東京理科大、明治大、早稲田大、同志社大、関西学院大などに延べ167人が合格。

◎URL <http://www.kanchu.hokkaido-c.ed.jp/zennichi/index.html>



### 学校教育目標の達成に向けた グランドデザインを策定

2020年度にSSH（\*）の指定を受けた北海道函館中部高校は、今、変革期を迎えている。

18年度、社会状況の変化や大学入試改革、新学習指導要領の趣旨を踏まえて、自校が目指す教育の方向性を打ち出そうと、田尻勝敏前校長の下、「白楊魂チャレンジ」をキャッチフレーズに掲げてグランドデザインの策定に着手した。進路部長や教務部長、有志の教師によって、学校の未来を考える委員会「KFC（函中フューチャーコミッティ）」を設置。教育の質の保証と向上を目指し、まず、目指す生徒像の検討から始めた。

KFCは、18年度の夏、全教師が参加して学校の方向性を定める研修会を実施。担当教科・科目や年代が多様な5〜6人ずつのメンバーから成るグループをつくり、学校教育目標の「高い志を持ち、次代を創造する人間の育成」の達成に向けて、育成したい生徒像と、そうした生徒が備えるべき資質・能力について語り合った。当時KFCのメンバーだった現総務部長の弦木裕先生は、研修会の様

子を次のように振り返る。

「普段は自分の思いを吐露するよ  
うな教師はそう多くありませんが、  
本音で語り合う場を設けると、『自  
分で未来を切り拓く、視野の広い生  
徒を育てたい』『もっと深く考えさ  
せる授業をすべきではないか』など  
と、育成したい生徒像や理想の教育  
のあり方につながる根本的な議論が  
展開されました。国公立大学の合格  
者数などの短期的な目標にとらわれ  
る教師は、1人もいませんでした」

研修会は2回実施し、出された意  
見や情報をKJ法などを用いて整理  
し、後日、それらをKFCが集約。「育  
成したい生徒像」を明文化し、育成  
を目指す資質・能力である「函中コ  
ンピテンシー」を、「傾聴力・思考力・  
協働力・先見力」の4つとした。そ  
して、それらを育成する教育活動と  
して教科指導、キャリア教育、生徒  
指導、特別活動などを位置づけ、同  
校のグランドデザイン「白楊魂チャ  
レンジ」を形にした（図1）。

### 「最低限保証する学習内容」 を単元ごとに明文化

次に行ったのは、「函中コンピテ

\* 文部科学省「スーパーサイエンスハイスクール」。



**主幹教諭**  
白鳥宏之  
しらとり・ひろゆき  
教職歴33年。同校に赴任して16年目。英語科。

**1学年主任**  
関崎淳二  
せきざき・じゅんじ  
教職歴28年。同校に赴任して5年目。理科(生物)。

**総務部長**  
弦木裕  
つるぎ・ひろし  
教職歴20年。同校に赴任して9年目。英語科。

ンシー」の育成を踏まえた各教科・科目のシラバスの作成だ。従来のシラバスには、教科・科目の目標と学習内容、評価方法が明記されていた。それを改訂した新しいシラバスには、指導計画や単元ごとに最低限保証する学習内容を「函中スタンダード」として示した(P.32図2)。

英語科では、数年前からCAN-DORリストを作成し、育成を目指す資質・能力と到達目標、評価方法を、教師だけでなく、生徒とも共有していた。「函中スタンダード」の策定においては、到達目標の設定とその共有の重要性、CAN-DORリストに基づいた授業改善の進め方など、英語科が蓄積してきたノウハウを学

図1 北海道函館中部高校グランドデザイン「白楊魂チャレンジ」



\*学校資料をそのまま掲載。

進めているところだ。主幹教諭の白鳥宏之先生は、今後の展開について次のように語る。

「現在は、授業や学校行事などにおいて、『函中コンピテンシー』がどれだけ達成できているかを測る指標として、『函中コンピテンシブルック』をどのように運用するか検討を進めています」

校全体で共有し、各教科の相談に乗ることで、「函中スタンダード」の策定に役立て、19年3月には全教科・科目分ができた。また、「函中スタンダード」の特徴は、具体的な記述にある。例えば、「コミュニケーションシミュレーション英語Ⅱ」では、「ペアで2分間程度、Follow-up Questionを用いて会話を継続できる」(スピーキング)、「入試を想定し、理由もつ

けて100ワード程度で書く」(ライティング)といったように、単元ごとに4技能のそれぞれの到達度を、活動内容や到達すべき数値目標とともに明文化した。

「物理基礎」では、「アルキメデスの原理を導くことができる」(運動の法則)、「 $v = t + a$ 及び $f = ma$ 」の公式を導くことができ、それらを用いて簡単な計算ができる」(波の性

質)など、語尾を「できる」に統一し、最低限の到達度を明確化した。そして、19年度は、KFCを中心に、育成を目指す資質・能力を評価するための「函中コンピテンシブルック」を作成した。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大防止のための臨時休業やSSHの準備などの影響もあり、施行は延期され、現在、佐竹卓校長の下、運用に向けた最終調整を

図2 「函中スタンダード」1学年 物理基礎 (抜粋)

|                       |  | 前期  |  |  |
|-----------------------|--|---|--|--|
|                       |  | 4月  | 5月   | 6月   |
| 年間行事                  |  | 始業式<br>入学式<br>模擬試験  | 高体連地区大会<br>耐久レース   | 前期中間考査<br>模擬試験   |
| 単元                    |  | ◎運動の表し方<br>●速度<br>●加速度  | ●落体の運動   | ◎運動の法則<br>●力とそのはたらき<br>●力のつり合い   |
| 学習内容                  |  | ●速さと速度<br>●v-tグラフ<br>●合成、相対速度<br>●加速度<br>●等加速度直線運動  | ●自由落下<br>●鉛直投げ下ろし<br>●鉛直投げ上げ   | ●力の定義<br>●力の種類<br>●力の合成、分解<br>●力のつり合い                                      |
| 函中スタンダード(最低限保証する学習内容) |  | ●グラフから速度や移動距離を求めたり、与えられた条件からグラフを書いたりすることができる。<br>●直線上で運動する2物体の相対速度を求めることができる。<br>●加速度の意味を正しく説明でき、等加速度直線運動の3公式を導くことができる。 | ●自由落下の実験を行い、記録テープの目盛りの読み方、実験結果からの速度、加速度の求め方を理解するとともに、重力加速度の値を確認できる。<br>●等加速度直線運動と①自由落下、②投げ下ろし、③投げ上げの違いを確認し、それぞれの形に合わせた式に変形させることができる。 | ●力の種類を理解し、物体に加わっている力を正しく図示することができる。<br>●物体に加わっている力を分解し、力のつり合いの式を立てることができる。 |

\*学校資料を基に編集部で作成。

## 育成したい生徒像の共有が コラボ授業の活性化を促す

育成したい生徒像や資質・能力の共通認識が教師間で図られたことで活発に行われるようになってきているのが、教科・科目を横断したコラボ授業だ。

ここ数年、英語科では、他教科・科目とのコラボ授業を積極的に進めてきた。例えば、公民科とのコラボ授業では、政治・経済の授業で社会課題をテーマに調べ学習を行い、英

語の授業では、その内容をまとめて英語で発表。さらに、各グループの発表を基にディスカッションを実施した。そのように生徒の考えを深めてから、公民科の政治・経済の授業に戻った(図3)。

全10時間の最後には、生徒に振り返りのアンケートを実施。「教科の枠を超えた授業に意義がある」という項目の肯定率は、約9割にも上った。授業を担当した教師の振り返りでは、「担当者間の連携がスムーズにできた」という総括があった一

方で、「ペーパーテストだけでなく、生徒が理解した内容やポイントを日本語で語ったり、書いたりするリフレクションがあってもよかった」といった意見も出された。

英語の「バイオディーゼルカー」を扱う単元では、化学とのコラボ授業を行った。油の再利用について理解を深める実験動画を化学の教師に製作してもらい、それを英語の副教材として活用。英文だけでは得られない、視覚的な情報が加わったことで、生徒のより深い理解に結びつけることができた。

「多くの教師が、他教科・科目のシラバスと担当の教科・科目の学習内容を照らし合わせて、連携できる部分を見いだそうとしています。育成したい生徒像や資質・能力を教師間で共有したことが、その後押しとなりました。『函中スタンダード』や『函中コモンルーブリック』によって、資質・能力の育成に向けた教科横断型の取り組みが、一層進むことを期待しています」(弦木先生)

今年度始まったSSHの活動でも、教科横断型の探究学習が進められている。例えば、1・2学期に1年生を対象に実施した近隣の大沼国

定公園での環境調査では、事前学習において、化学や生物に加え、地理や英語、家庭科などでも調査に向けた授業を行った。生物では、公園内の動植物の生態系と大沼の水質についての調べ学習を実施。英語では、公園の自然・観光・食物・歴史・地形について、グループに分かれて調べ学習を行い、その成果を英文でポスターにまとめ、体育館で発表会を実施した。さらに、地理では、大沼が作られる要因となった駒ヶ岳の噴火の経緯を学ぶなど、教科・科目を超えてSSHの活動を推進した。

1学年主任としてSSHを主導する関崎淳二先生は、教科連携の効果を次のように述べる。

「SSHによって、教科横断で教育活動を進めようという機運が高まり、ここ数年間進めてきた教科間の連携が加速しました。育成したい資質・能力を共有しているからこそ、各教師がその育成に向けて役割を担い、協力して教科横断型授業を作ることで相乗効果を上げています。答えが1つとは限らない問題の探究は、特定の教科・科目の授業だけでは完結するものではないことを、多くの教師が実感していると思います」

**見いだした生徒の課題を  
日々の指導に生かしていく**

SSHのカリキュラムも、グラ  
ンドデザインと「函中コンピテンシー」  
を土台に作成した。同校では、SSH  
の研究課題に「科学的リテラシー  
を備え、地域及び世界をイノベート  
する科学技術系人材の育成」を掲げ、  
科学的探究心を育てる「SS研究」

と、文理融合型の「SS英語表現」、  
先進的な科学技術研究を行う「SS  
特講」を3本柱としている。

「SSHのカリキュラムは、育成  
したい生徒像や『函中コンピテン  
シー』を踏まえて作成しました。S  
SHは、本校が育成したい生徒像を  
実現するための手段です。今後は、  
効果検証も、『函中コンピテンシー』  
や『函中コモンルーブリック』と照

らし合わせながら実施し、取り組み  
を改善していきます」（関崎先生）

同校では、SSHを1学年団全体  
で推進している。必ずしも理系の教  
科・科目が得意な生徒ばかりではな  
く、環境調査では、観光や教育など  
のテーマを研究する生徒もいた。し  
かし、科学技術系人材の育成を目的  
とするSSHの趣旨に照らし合わせ  
て、活動ではどのような研究テーマ  
であったとしても、必ず仮説を立て、  
調査や実験から得た数値データを用  
いて考察・検証し、プレゼンテーショ  
ンを行うこととした。

また、調査や実験で得たデータを  
基に問題点を探り、環境改善の方策  
について検討する探究学習を行った  
が、その過程で、生徒の問題発見能  
力に課題が見られた。

「データを見ても、何が問題なの  
かが分かっている生徒が目立ちま  
した。問題点を見いだす力は、物事  
を改善するためには不可欠であり、  
社会で求められる資質・能力の1つ  
です。それは、知識を習得させるだ  
けで身につくものではないことを、  
SSHの活動を通じて多くの教師が  
改めて実感しました。普段の授業か  
ら、疑問を持たせ、生徒に問題を見

い込させるような問いかけを、教師  
一人ひとりが意識して行う必要があ  
るという共通認識を教師間で持てま  
した。そのため、『函中コンピテン  
シー』に問題発見能力を加えること  
は、これから検討したい事項の1つ  
です」（関崎先生）

今後は、SSHの活動などを通じ  
て新たに見えた課題を踏まえて、グ  
ランドデザインや育成を目指す資  
質・能力の見直しを図るとともに、  
「函中スタンダード」や「函中コモ  
ンルーブリック」の教育活動への落  
とし込みも一層進めていく。着手す  
べき課題は山積していると、白鳥先  
生は語る。

「22年度に新設予定の理数科のあ  
り方も含めたグランドデザインと教  
育活動との整合性を図り、それを校  
内に定着させていくことが当面の課  
題です。その後は、グランドデザイ  
ンや『函中コンピテンシー』などを  
地域にも発信し、本校の教育が地域  
の方々にも理解されるよう努めてい  
きます。育成したい生徒像とその実  
現に向けた教育活動を地域や中学校  
と共有することで、よりよい中高接  
続ができれば、地域の教育の質の向  
上にもつながると考えています」

図3 英語科と公民科とのコラボ授業の概要

■目的・ねらい

- 1 現代社会にかかわる様々な課題について、主体的に学習に取り組むことで、課題解決のために必要な知識を身につける。
- 2 グループワークによってほかの生徒と課題を共有することで、思考力、判断力とともに協力して物事を進める力（協働性）を育む。
- 3 理科や社会的な分野の様々なコンテンツについて、課題解決のために思考したことを英語で表現することで、英語を伝達ツールとして活用する。

■授業の流れ（全10時間）

| 教科                            | 授業内容   |
|-------------------------------|--|
| 1<br>~<br>3<br>公民科<br>(政治・経済) | 6グループに分かれ、下記の6つのテーマから1つを担当し、調査・研究を行う。<br>①中小企業、②農業・食料、③公害防止と環境保全、④消費者問題と消費者保護、⑤労使関係と労働市場、⑥少子高齢化社会と社会保障 |
| 4<br>~<br>6<br>英語科            | 公民の授業で調べた内容を、英語でプレゼンテーションするために準備を行う。   |
| 7<br>~<br>9<br>英語科            | グループごとに英語で発表。発表後には質疑応答の場を設け、そのやりとりもすべて英語で行う。その後、英語科教師がファシリテーターとなり、英語でディスカッションを実施。生徒はそれぞれの考えを深めていく。     |
| 10<br>公民科<br>(政治・経済)          | 単元の振り返りを実施。ペーパーテストで学習内容の定着度の確認と、授業アンケートを行う。  |

\* 学校資料を基に編集部で作成。

11:55 前時の復習と本時のテーマの提示



吉田先生は、前時に学習した「企業活動の根底には、経営理念（目標）がある」ことを改めて説明し、本時のテーマ「望ましい組織形態を考える」を提示。組織内で役割分担をする「分業」について説明した後、「みんなも組織に所属しているよね」と問いかけ、生徒会や部活動も企業と同じように、目標を持った分業制の組織であることを意識させた。

### 授業 ハイライト

●1年生「ビジネス基礎」の「企業活動の基礎」の全9時間のうちの2時間目。組織でビジネスに取り込むメリットを個人・グループで考え、生徒会や部活動など、自分が所属する組織の問題解決策を考えた。（P.37に単元の指導計画を掲載）

主体的・対話的で  
深い学びへ

## 実践 アクティブ・ラーニング

### 商業

答えが1つではない問いを  
自分事化させた上で向き合わせ、  
課題解決力を養う

#### 吉田先生のアクティブ・ラーニング

答えが1つではない問いに直面した  
ことをきっかけに、授業を見直す

富山県立富山商業高校は、生徒への育成を目指す資質・能力を「富商スキル」とし、「愛され、信頼される人間力」「課題解決力」「ビジネスの理解力・実践力」を掲げている。その中の「課題解決力」は、アクティブ・ラーニング（以下、AL）の視点を取り入れた授業で育成を図っている。



#### 富山県立富山商業高校

#### 吉田 壮志 よしだ・そうじ

教職歴13年。同校に赴任して9年目。企画部副部長、流通経済科主任、商業科担当、1学年担任。販売実習「TOMI SHOP」の担当に就いてから、アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業づくりに本格的に着手。

#### 富山県立富山商業高校

◎1950年、富山県立富山東部高校として独立。「自主協調・明朗誠実・進取敢闘」を校訓として、「富商ブランド」を担う人材を育成する。カリキュラム・デザイン、PDCAサイクル、内外リソースの活用の観点から学校改革を推進。

◎設立 1897（明治30）年

◎形態 全日制／流通経済科・国際経済科・会計科・情報処理科／共学

◎生徒数 1学年約280人

◎2020年度進路実績（現役のみ）

国公立大は、新潟大、富山大に11人が合格。私立大は、駒沢大、中央大、東洋大、日本大、神奈川大、南山大、名城大、同志社大、立命館大、関西大などに延べ73人が合格。短大、専門学校進学70人。就職116人。

◎URL <http://tomisho.el.tym.ed.jp/>

## 12:20 グループワーク



グループワークを行う際の4つのルールを、吉田先生が伝えてから4人1組となり、1人2分間で組織と個人の活動のメリットを発表し合った。「組織的に取り組むと、個々の負担が減る」「集団の方が達成した時の喜びが大きい」などの意見が出され、ほかのメンバーはそれをワークシートに記入。吉田先生は、「『なぜならば』というところまで深めて話そう」と呼びかけた。

## 12:08 個人ワーク



目標達成に向けた望ましい組織形態を考えるために、まずは個人ワークで、「組織」と「個人」で取り組むメリットをそれぞれ2つずつ挙げ、それらをワークシートに記入させた。吉田先生は、机間指導をしながら、「スポーツにはなぜ、ポジションがあるのかな？」といった部活動の例などを提示した。

1年生の必修科目「ビジネス基礎」では、「商業」を構成する「マーケティング」「マネジメント」「会計」「ビジネス情報」の4分野の基礎となる横断的な知識を学ぶ。そして、同科目の学習内容を実践する場として毎年11月に開催しているのが、「TOMISHOP」だ。それは生徒が模擬株式会社を設立し、仕入れから販売までを行う販売実習で、「課題発見↓解決策の立案↓実行↓評価・改善」のサイクルを回す。

しかし、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、「TOMISHOP」は中止となった。そこで、同科目の到達目標を「解決策の立案」までとし、単元の最後は「理想の企業」についてグループで考え、発表する活動を行うことにした。吉田壮志先生が、ALの視点を意識し始めたのは、「TOMISHOP」の担当となったことがきっかけだった。

「販売実習を通じて、生徒は『どうしたらお客様が喜ぶか』といった、答えが1つではない問いに取り組めます。そうした問いを通じて生徒の資質・能力を育成するためには、指導する私自身が、自分なりの答えを見いだせるようになることが必要だと感じました」

例えば、「TOMISHOP」でのゴミ問題を考える場合、ゴミの量なのか、来場者のマナーなのか、生徒が何に焦点をあてるかによって「紙コップを廃止する」「マナー向上を啓発する」などと解決策が異なってくる。

「こうした問いに挑むために必要な課題解決

力の育成には、例年の状況を調査したり他者と話し合ったりしながら、自身の考えを深めていくような体験的な学びが欠かせません。そこで、授業にALの視点を取り入れることにしました」

### 思考の活性化・深化への配慮

#### 社会課題を自分事として捉えさせ、理想と現実の差に目を向けさせる

思考を深める前提として、吉田先生が重視するのが基礎知識の定着だ。まずは知識を身につけ、次にそれらを活用する活動へと移行することで、思考の深化につながると考えるからだ。今年度の1年生も、1学期は知識の定着を優先し、吉田先生と生徒の1対1の対話の場面を増やして知識の定着を確認した上で、2学期からはグループワークを行った。

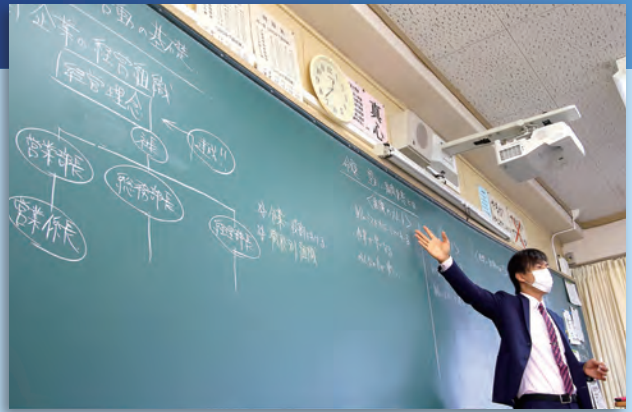
そして、生徒の思考を深めるために最も大切にしてるのが、生徒にとって身近な例を示して、課題を自分事化させることだ。本時では、望ましい組織について考える前に、生徒に学校生活で自分が所属する組織を思い起こさせた。

「課題を自分事として捉えられなければ、表面的な意見しか出せず、他者と話し合っても思考は深まりません。理想と現実の差に目を向けさせ、解決すべき問題を浮き彫りにしてこそ、生徒は課題を自分事化することができます」

続いて、個人ワークで個人と組織それぞれで働くメリットについて書かせてから、グループ



本時のまとめとして、「2年生になったら、部活動など、自分が所属する組織をどのようにしたいか」を考えて、ワークシートに記入。「自分ができることを最低1つは書こう」と、吉田先生は呼びかけた。最後に、社員が本音で対話する社風の世界的企業を紹介。「基本的に企業も人間関係の中で動いている。みんなも、できることからやってみよう」と締めくくった。



吉田先生に指名された生徒が、自分のグループの意見をまとめて発表した。発表に対して、吉田先生は「何がよいのかな?」「どうして?」と問いかけた。例えば、「組織的に取り組むと役割分担ができる」と発表した生徒に、「分担すると何がよいのかな?」と質問すると、生徒は少し考えてから「作業が速くなる」と答えた。

ワークを実施した。

また、自分の意見が出せるよう、本時のテーマについて考えが深まる事例は、授業の最後に例示する。以前はそれを最初に示してから、個人・グループワークを行っていたが、生徒の考えが事例の内容に引つ張られることが多かったため、授業のまとめの中で示すようにした。

「まず自分の意見を持ち、それを他者の意見や社会状況と比較することで、類似点や相違点を見いだせるようになりました。本時の最後には、活動を経て深めた思考から、自分が所属する組織をよりよくする方法をまとめさせました。答えが複数ある問いに挑む活動を繰り返し経験することで、情報を論理的に整理し、自分の意見を客観的に捉える力が身につくことを期待しています」

#### 場づくりへの配慮

### 4つのルールを設定・徹底することで、発言しやすい安心・安全の場に

グループワークでは、生徒が安心して自分の意見を述べ、他者の意見を傾聴できるよう、「(相手の話を)最後まで聴く」「(相手の意見を)否定しない」「(相手の意見を)受け入れる」「(相手に)伝わるように話す」の4つのルールを話し合いの前に必ず伝え、生徒に徹底させている。

また、グループワークは基本的に4人1組で行う。それより人数が少ないと意見が偏り、多量と議論に参加しない生徒が出てきやすいため

だ。さらに、1年生では、グループのメンバーは単元を通じて固定にしている。

「1年生はまだグループワークに慣れていないため、1つの単元が終わるまではグループワークのメンバーは変えませんが、2年生以降は授業ごとにメンバーを変え、多様な意見や発想に触れられるようにしています」

#### 成果と課題

### 膨大な情報に流されず、自分の意見を持てるように

課題解決型の授業を繰り返すうちに、生徒は自分の意見を述べられるようになり、他者の意見を受け入れる態度を身につけていく。また、部活動における自身の問題を踏まえて、その解決のための練習内容を計画し、実行に移す生徒も少なくないという。

「様々な問題を自分事として捉え、どうすればそれを解決することができるのかを主体的に考えて行動するようになっていきます」

今後の課題は、生徒が情報に流されずに自分の意見を持てるようにすることだ。

「インターネットやSNSなどが普及し、生徒が受け取る情報量は格段に増えました。知識や経験が少ない生徒は、聞いた情報をそのまま信じる傾向があります。生徒が情報の真偽やその質を見極めながら、自分の意見を持てるような授業を追究していきます」

## 単元の指導計画

【教科・科目】商業・ビジネス基礎 【分野・単元】企業活動の基礎 【テーマ・作品】理想の企業像と働き方 【設定時数】全9時間の中の2時間目 【単元目標】事例や議論を通じて、自身の生き方やあり方について考える。

| 時数 | 学習内容  | 身につけさせたい<br>資質・能力  | 授業の流れ  | 教師の配慮   | 評価方法  |
|----|---|--|--|---|---|
| 1  | <ul style="list-style-type: none"> <li>「企業の役割」について考える。</li> <li>企業の根底にある「経営理念」について理解する。</li> </ul>    | <ul style="list-style-type: none"> <li>企業が行う活動を整理し、把握することができる。</li> <li>企業の役割について、「誰のため」「何のため」「なぜ」の3つに分けて考えることができる。</li> <li>グループ内の他者の意見を聞き入れることができる。</li> </ul> <p>【知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性】</p>                          | <ol style="list-style-type: none"> <li>身近な企業を挙げながら、「誰に対して」「どのようなことをしているか」をまとめる。</li> <li>企業の役割について、「誰のため」「何のため」「なぜ」の3つに分けて個人の意見を出す。</li> <li>4人グループで、意見を述べ合い、他者の意見を知る。</li> <li>経営理念が根底にあることを理解する。</li> </ol>                      | <p>【主体的な学び】・身近な事例を使うことで、自分事として課題に取り組むことができるようにする。・ワークシートを使用し、思考を見える化できるようにする。【対話的な学び】・「話し手のルール」「聞き手のルール」を設定し、生徒が自分の意見を安心して発表できる環境をつくる。【深い学び】・机間指導をしながら、個人に質問して、より具体的に深めていく。</p>                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート</li> <li>グループ内発表</li> </ul>               |
| 2  | <ul style="list-style-type: none"> <li>「組織で取り組むことのメリット」について考える。</li> <li>「よい組織」のあり方について知る。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>個人で取り組むことと組織で取り組むことのメリットについて、意見を出すことができる。</li> <li>グループ内の他者の意見を聞き入れることができる。</li> <li>事例を通じて、「よい組織」のあり方について考えることができる。</li> </ul> <p>【知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性】</p>                    | <ol style="list-style-type: none"> <li>「目標達成」を目指す際の「個人で取り組むことのメリット」と「組織で取り組むことのメリット」が何か、個人の意見を出す。</li> <li>4人グループで、意見を述べ合い、他者の意見を知る。</li> <li>「組織で取り組むことのメリット」の代表が「分業」であると知る。</li> <li>事例を通じて、「よい組織」のあり方について考える。</li> </ol>        | <p>【主体的な学び】・部活動などを例にすることで、個人や組織についてイメージを持ちやすくする。・ワークシートを使用し、思考を見える化できるようにする。【対話的な学び】・「話し手のルール」「聞き手のルール」を設定し、生徒が自分の意見を安心して発表できる環境をつくる。【深い学び】・机間指導をしながら、個人に質問して、より具体的に深めていく。</p>                            |   |
| 8  | <ul style="list-style-type: none"> <li>理想の企業について考える。</li> </ul>                                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでの学習を踏まえ、自身が働く上で重要視することを考える。</li> <li>働くことが楽しみとなるような企業について考える。</li> <li>グループ内の他者の意見を聞き入れることができる。</li> <li>グループの意見をまとめ、発表資料を作成する。</li> </ul> <p>【知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性】</p> | <ol style="list-style-type: none"> <li>これまでの学習を振り返り、自身が働く上で重要視することについて、個人の意見を出す。</li> <li>働くことが楽しみとなるような企業について、個人の意見を出す。</li> <li>4人グループで、意見を述べ合い、他者の意見を知る。</li> <li>4人グループで、理想の企業についてまとめる。</li> <li>発表資料を作成し、発表の準備を行う。</li> </ol> | <p>【主体的な学び】・生徒自身の将来像を考えさせることで、自分の課題として意識できるようにする。・ワークシートを使用し、思考を見える化できるようにする。【対話的な学び】・「話し手のルール」「聞き手のルール」を設定し、生徒が自分の意見を安心して発表できる環境をつくる。【深い学び】・机間指導をしながら、個人に質問して、より具体的に深めていく。・KJ法などを利用し、意見を分類し、深めやすくする。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート</li> <li>グループ内発表</li> <li>発表資料</li> </ul> |
| 9  | <ul style="list-style-type: none"> <li>理想の企業について発表する。</li> <li>多様な考え方のなかにある共通項を捉える。</li> </ul>        | <ul style="list-style-type: none"> <li>理想の企業について、効果的に発表することができる。</li> <li>多様な考え方のなかから、共通する項目を見いだすことができる。</li> </ul> <p>【思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性】</p>   | <ol style="list-style-type: none"> <li>各グループ3分間で、全体発表をする。</li> <li>発表で気づいたことや、自分のグループで出なかった意見をワークシートに記入する。</li> <li>共通する言葉などから、根底にある土台となる考えを捉える。</li> </ol>  | <p>【主体的な学び】・発表の評価を随時行うことで、発表に対する意欲が向上するようにする。【対話的な学び】・「話し手のルール」「聞き手のルール」を設定し、生徒が発表を安心してできる環境をつくる。【深い学び】・発表内容の要点などを板書し、生徒がより他者の意見を理解しやすくする。</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>全体発表</li> <li>発表資料</li> </ul>                    |

\* 吉田先生作成の単元の指導計画を基に編集部で作成。単元の指導計画の全9時間分は、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト (<https://berd.benesse.jp>) からダウンロードできます。「HOME→教育情報→高校向け」をご覧ください。

### 同僚の声



安田 隆  
教頭

安田 グループワークの際、「なぜ?」「どういうこと?」と問いかけてクリティカル・シンキングを促していたことは、生徒の考えの明確化や具体化につながっていました。例えば、「個人の方が楽」とつぶやいた生徒に、「なぜ、楽なの?」と質問すると、「思い通りにできるから」と明確な理由が出てきたり、「よい組織をつくるために、雰囲気をよくする」と発言した生徒に、「どうやって?」と聞き返すと、「笑顔を増やす」と具体的な方法が出てきたりしていました。また、生徒の発言を構造的に板書するなど、ロジカル・シンキングを高める工夫も見られました。

吉田 発言を具体化させることで、相手に伝わる発信力が身につくようにしています。また、発表時に多様な意見が出るよう、各グループで出した意見を机間指導で把握して、発言者を意図的に指名しています。

安田 授業の最後により組織をつくるための方法を問いかけた際には、授業冒頭に伝えた「組織には目標(企業理念)が必要」という前提を改めて確認できるとよかったです。自分の組織の悩みだけを考え、「組織の目標を達成するためにはどうしたらよいか」に目を向けられていない生徒が少なからずいました。

吉田 大前提に立ち戻り、様々な意見を聞いて拡散していた思考に軸を持たせる必要がありますが、授業の終了時刻が迫っていたため、割り愛してしまいました。重要事項は意識的に繰り返して伝えるなど、構造的に授業をデザインできるようにしていきたいです。

12:00 本時のめあての確認



福島先生が、「本時のめあては、発展問題の大問4と5の解法を自分の言葉で説明できるようになることです。そのために、自分に必要な行動を選択してください」と、生徒に伝えた。問題は前日までに各生徒のタブレット端末に配信されており、事前に問題を確認できる。紙で解くことを希望する生徒には、プリントが配布された。

## 授業 ハイライト

●1年生「数学I」の「図形と計量」の全19時間のうちの15時間目。提示された5つの大問に、「グループで話し合う」「教師に質問する」など、どのような方法で取り組むのかを生徒自身に決めさせるのが特徴。(P.41に単元の指導計画を掲載)

主体的・対話的で  
深い学びへ

## 実践 アクティブ・ラーニング

### 数学

「分かる」ための方法を  
生徒自身が選ぶ主体的な学びを通じて、  
社会に生きる力を育む

### 福島先生のアクティブ・ラーニング

クラス全員の理解を目指し、  
「学び合い」を授業に取り入れる

公立中学校に勤務して5年目を迎えたころ、福島哲也先生は一斉授業に限界を感じ始めていた。「どんなに丁寧な指導を心がけても、すべての生徒の意欲を伸ばしながら、生徒全員に授業内容を理解させることはできませんでした。成績下位層の生徒たちに力を注ぐと、理解度は担



大阪府・私立追手門学院大手前中・高校  
福島哲也 おうてもん ふくしま・てつや

教職歴17年。同校に赴任して3年目。主幹教諭。数学科。公立中学校教諭を経て、同校に着任。2020年度から高校の数学科を担当。

### 大阪府・私立追手門学院大手前中・高校

◎教育理念は「独立自強・社会有為」。社会に貢献する人材育成を目指し、グローバルサイエンス教育、探究学習、英語教育・国際理解教育の充実に力を注ぐ。チアダンス部やロボットサイエンス部が国際大会に出場するなど、部活動も盛ん。

◎設立 1950(昭和25)年

◎形態 全日制/普通科/共学

◎生徒数 1学年約180人

◎2020年度入試合格実績(現浪計)

国公立大は、筑波大、富山大、和歌山大、大阪教育大、兵庫県立大などに13人が合格。私立大は、慶應義塾大、同志社大、立命館大、追手門学院大、大阪医科大、関西大、近畿大、関西学院大、兵庫医科大などに延べ326人が合格。

◎URL <https://www.otemon-js.ed.jp>

## 12:15 「学び合い」が始まる



大問2以降は、多くの生徒がグループで相談し合ったり、解答を終えた生徒に解き方を教えてもらったりしていた。福島先生は机間指導を行い、生徒からの質問に適宜答えた。本質を突いた質問をされると、「こんな質問がありました。みんなは説明できるかな?」と、質問内容を全体に共有。解答を終えた生徒への発問につなげた。

## 12:05 個別に問題に取り組む



生徒は、既習事項の復習となる大問1にまずは個人で取り組んだ。本時の問題は難易度が高く、苦戦する生徒が多いと予想していた福島先生は、問題と併せて解答の手がかりを示しておいた。本時の学習事項となる大問2や3に入ると、解答の糸口を見つけれない生徒が出てきて、先生が示した手がかりを参考に考えたり、教科書を開いたりしていた。

保できたとしても、成績上位層の『もっと上を目指したい』といった意欲には応えられずいたのです。よい指導法はないかと何冊も書籍を讀む中で出会ったのが、『学び合い』でした」

それは、教師が提示した問題の解法を、生徒が自分で調べ、考え、生徒同士で教え合うことで解法を見いだしていく学び方だった。教師は、生徒に求められた際には解説をするが、一斉授業とは異なり、生徒全員が教師の説明に耳を傾ける必要はない。

「理解できていなかったことが理解できるようになるプロセスは、生徒によって異なるはず。教師よりもクラスメートに教えてもらった方が理解が深まることもありますし、他者に頼らず自力で問題を解いた方がよい場合もあるでしょう。そこで私は、問題を解くために何をすべきかを、生徒が自分で考えて選択できる授業をすることにしました」

福島先生が「学び合い」の実践で最も大切にしているのは、数学の力を伸ばすことに加え、授業を通じて1人も見捨てない集団づくりをすることだ。それを実現する手立ての1つとして、授業では、個人の到達度だけでなく、クラス全員が本時のめあてを達成することを重視している。そのため、生徒は問題が解けたら、行き詰まっている生徒に解法を教える。教えてもらった生徒はもちろん、教えた生徒も他者に教えることで学びがより深まる。

『「学び合い」を通じて、生徒全員が満足する

授業が成り立つようになっていきました。さらに、他者と対話し、協働する中で、知識・技能だけでなく、主体性や協働性、判断力、表現力などの資質・能力も育まれます」

### 思考の活性化・深化への配慮

### 生徒の学びの状況を把握しながら、より本質的な問いを発する

授業中、生徒は「グループで話し合う」「教師や解答できた生徒に質問する」「インターネットからヒントを得る」など、問題を解くために必要な行動を自ら選択し、実行する。もちろん、福島先生は、生徒に学び方を委ねるだけではなく、折に触れて生徒に「学び合い」をする理由や学び方を学ぶ重要性を説明している。

「問題が解けただけでは、『分かった』とは言えません。解法を自分の言葉で他者に説明できて初めて『分かった』と言える」と、生徒に繰り返して伝えていきます。解法を見つけ出す方法を生徒自身に選択させているのは、学び方を学んでほしいからです。『これからの社会では、今の自分には何が必要なのかを自身で考えて選択しなければならないから、その練習を授業でしているのだ』と、生徒に説明しています」

福島先生は、より本質的な問いを発すること、生徒の思考を深めることも心がけている。本時では、「三角形の面積を求めると、辺の長さを導き出せること」に対する理解が不十分な

## 12:45 リフレクション



生徒が本時のリフレクションを書いている間、福島先生は生徒の理解度を測るために、「なぜ、 $\sin$  を使って三角形の高さを出せるのかな」「なぜ、三角形の面積を求めたら辺の長さが分かるのかな」と発問を行った。生徒はタブレット端末にそれらの問いの解答を書き込んだ。福島先生は後日、生徒の解答状況を参考に、次時の課題設定や展開を検討した。

## 12:30 福島先生の解説



福島先生は、大問2を解答できない生徒が多い状況を見て、「大問2を解説します」と全体に声をかけ、それに反応して集まった生徒十数人に解法を解説した。ほかの生徒は、グループで話し合ったり、個人で考えたりと、自身で選択した方法で引き続き問題に取り組んでいた。福島先生は、「解法の解説が聞きたくなった人は、いつでも声をかけてください」と伝えた。

### 場づくりへの配慮

#### 「人の力を借りる力」と 「人に力を貸す力」の大切さを伝える

「学び合い」で重要になるのは、クラス全員が学びに向かう集団づくりだ。

「生徒には、分からない時に『教えて』と頼んで『人の力を借りる力』と、分からない人を放っておかずに声をかけて『人に力を貸す力』の両方が大切だと常々話しています」

授業では、普段の人間関係にとらわれずに、「クラス全員が本時のめあてを達成する」という目標を第一に考えて協力し合おうと、福島先生は伝えている。他者との対話を通じて「分かる」体験を積み重ねていくと、次第に性別や普段の人間関係などを超えて、学び合う集団に

なっていくという。

「社会に出たら、自分の好き嫌いに関係なく、多様な他者と仕事をすることになる」と、私自身の体験などを交えて伝えていきます。授業を通じて社会で生きるために必要な力を身につけていることを、生徒に実感してほしいと思います」

### 成果と課題

#### 生徒の発達段階や理解度に応じた適切な働きかけをしていきたい

福島先生は、これまでの実践で、生徒の知識・技能を高める上でも、学びに向かう力を育む上でも、「学び合い」は有効だという手応えを得ている。また、「学び合い」では、教師は生徒の主體的な活動を客観的に見取ることができ、学習集団としてのクラスの状況や、生徒一人ひとりの理解度を把握しやすいというメリットもある。

今後の課題は、生徒への声かけや授業のペー配分を、生徒の発達段階や理解度に応じて適切に行うようにすることだ。高校での指導経験が浅い福島先生は、高校生への指導に必要なことはたくさんあると語る。

「生徒に委ねる活動や生徒への発問の内容には、まだ検討の余地があります。それらの改善を通じて、生徒に第1志望を実現できる学力と、これからの社会で必要とされる資質・能力の両方を、着実に育むことを目指していきます」

## 単元の指導計画

【教科・科目】数学・数学I 【分野・単元】図形と計量 【テーマ・作品】三角形の面積 【設定時数】全19時間の中の15時間目  
 【単元目標】いろいろな図形の計量ができる。

| 時数            | 学習内容   | 身につけさせたい<br>資質・能力   | 授業の流れ   | 教師の配慮  | 評価方法  |
|---------------|--|---|---|--|---|
| 1             | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 三角比の導入。</li> <li>• 三角比は何を表すかを理解する。</li> <li>• 三角比の値を求められる。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 新しい考え方を理解することができる力。</li> <li>• 自分の理解を言語化できる力。</li> <li>• 理解したことを使い、値を求める力。</li> </ul> <p>【知識、技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性】</p>   | ①基礎・基本となる知識の習得（習得方法は各自で選択）。<br>②本時の課題に対して自分の考えを持つ。  | <p>【主体的な学び】これから学ぶ新しい単元について、生徒が見通しを持って取り組めるよう、授業のスケジュールを示し、情報を与える。</p> <p>【対話的な学び】自らの理解について、他者と対話することで確認する。</p>     |   |
| 2<br>〜<br>4   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 三角比の相互関係を理解する。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 新しい考え方を理解することができる力。</li> <li>• 自分の理解を言語化できる力。</li> <li>• 自らの問題を明らかにし、その問題を解決するために必要な行動を自ら選択し実行できる力。</li> </ul> <p>【知識、技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性】</p>                | ③本時の課題についてのつまずきを明らかにし、解決のために必要な行動を自分で選択する。<br>④本時のリフレクションを行う。   | <p>【主体的な学び】基礎・基本となる知識・技能が定着しているかを確認するために、知識の習得を確認する問題の解答をギャラリートークで行う。</p> <p>【対話的な学び】自らの理解について、他者と対話することで確認する。</p> | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 確認テスト</li> <li>• 課題レポート</li> </ul> |
| 12<br>〜<br>13 | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 正弦定理と余弦定理を使って解を求められる。</li> </ul>                                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 新しい考え方を理解することができる力。</li> <li>• 自分の理解を言語化できる力。</li> <li>• 与えられた条件から値を求める力。</li> </ul> <p>【知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性】</p>                                      | ①基礎・基本となる知識の習得（習得方法は各自で選択）。<br>②本時の課題に対して自分の考えを持つ。<br>③本時の課題についてのつまずきを明らかにし、解決のために必要な行動を自分で選択する。<br>④本時のリフレクションを行う。 | <p>【主体的な学び】確認テストの振り返りとして、行動面を検証する。</p> <p>【対話的な学び】自らの理解について、他者と対話することで確認する。</p> <p>【深い学び】パフォーマンス課題にチームで取り組む。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• パフォーマンス課題をルーブリックで評価</li> </ul>     |
| 14<br>〜<br>16 | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 三角形の面積を求められる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 新しい考え方を理解することができる力。</li> <li>• 自分の理解を言語化できる力。</li> <li>• 与えられた条件を図に表すことができる力。</li> <li>• 与えられた条件から値を求める力。</li> </ul> <p>【知識、技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性】</p>          |   | <p>【対話的な学び】自らの理解について、他者と対話することで確認する。</p>   |   |
| 17<br>〜<br>19 | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 空間図形への応用ができる。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 新しい考え方を理解することができる力。</li> <li>• 自分の理解を言語化できる力。</li> <li>• 解を導くために着目すべき点を適切に判断できる力。</li> <li>• 理解したことを使い、値を求める力。</li> </ul> <p>【知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性】</p> |   | <p>【対話的な学び】自らの理解について、他者と対話することで確認する。</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>• 確認テスト</li> <li>• 課題レポート</li> </ul> |

\*福島先生作成の単元の指導計画を基に編集部で作成。単元の指導計画の全19時間分は、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト(<https://berd.benesse.jp/>)からダウンロードできます。「HOME → 教育情報 → 高校向け」をご覧ください。

### 同僚の声



林 信宏  
数学科主任

林 本時で印象的だったのは、リフレクションです。私は、リフレクションで演習問題を解けるようになったかを確認し、次時の冒頭でもその定着度を確認しています。福島先生は授業で質問された「なぜ、三角形の面積を求めたら辺の長さが分かるのか」といった、本質的な問いを生徒全体に投げかけていました。思考力を育むために非常に重要な問いだと感じました。

福島 林先生は、リフレクションでも、大学入試を見据えて、今の時点で身につけておくべき知識・技能の定着を推し量ることを重視して、生徒に声をかけていると思います。私は、大学入試に対応する指導経験がまだ浅いので、林先生から学ばせていただいています。

林 福島先生とは、「教師は教える存在」という固定観念を覆したいとよく話していますよ。私は以前、野球部の顧問を務めていた時に、教師が指示してチームを動かすよりも、練習でも試合でも生徒に考えさせた方が生徒は伸びるという経験をしました。授業でも同様で、自分に必要な学びを考えさせ、何をすべきなのかを選ばせた方が、学力の伸びは速いと感じています。

福島 それは私も実感しています。林先生とは「学び合い」のあり方についてもよく話し合っていて、今度、林先生が担当する2年生と、私が担当する1年生で数学の合同授業を行います。多様性がある集団で「学び合い」を行えば、生徒は自分により合った学び方を選択できるようになります。また、多様性を受け入れる意識も、さらに高められるのではないのでしょうか。

福井県立武生高校

チームで挑む授業改善

# 教科指導力の向上を目指した 自主研修活動で、公開授業と 教科横断型授業の文化を醸成

## 変革のステップ

### 背景と課題

- 大学入試改革や新学習指導要領の実施などの環境変化を前に、生徒が自ら考え、協働する授業への転換が必要だった

### 実践内容

- **授業改善プロジェクトチーム（以下、PT）を結成**  
アクティブ・ラーニング（以下、AL）やICT活用、教科横断型授業などの研究を行う自主研修の組織を、ボトムアップで立ち上げた
- **公開授業と自主研修を定期的実施**  
日常的に授業を公開し、月1回のPT会議で公開授業の報告と自主研修を実施。その活動をまとめて職員会議で報告し、「武高アクティブニュース」としても発信
- **教科横断型のコラボ授業を実践**  
物理と世界史、化学と美術、国語と家庭科など、多様な教科・科目間でコラボ授業を実施

### 成果と展望

- 教師間で指導方法の共有が進み、ALが浸透。生徒にも協働して学ぶ姿勢が定着した
- PTの教師が異動しても、PT発足時のような熱意を持って取り組みを継続させる工夫が課題

**若手教師のボトムアップで  
授業改善の自主PTが始動**

毎年200人以上が国公立大学に合格する福井県立武生高校は、2017年度から、有志の教師による自主研修の組織「授業改善プロジェクトチーム（以下、PT）」を中心に、教科・科目や世代を超えて授業力向上を図っている。その背景には、大学入試改革や新学習指導要領の実施を控え、講義型授業から、アクティブ・ラーニング（以下、AL）の視点を取り入れた授業へと転換しなければならないという思いがあった。

発起人は、同校卒業生の中堅教師2人。職員会議で自校の現状と、生徒の思考力や主体的に学習に取り組む力の弱さといった課題、社会で

## PROFILE



福井県立武生尋常中学校として開校。2019年度から文部科学省「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」3期目の指定を受ける。SDGsを主なテーマとした探究学習と海外研修を実施する探究進学科を20年度に設置した。

|     |                          |
|-----|--------------------------|
| 設立  | 1898（明治31）年              |
| 形態  | 全日制・定時制／普通科・理数科・探究進学科／共学 |
| 生徒数 | 1学年約300人（全日制）            |

**2020年度入試合格実績（現浪計）** 国公立大は、北海道大、東北大、東京大、金沢大、名古屋大、京都大、大阪大、福井県立大などに227人が合格。私立大は、慶應義塾大、中央大、明治大、早稲田大、同志社大、立命館大、関西大、関西学院大などに延べ442人が合格。

住所 〒915-0085 福井県越前市八幡 1-25-15

電話 0778-22-0690

Web site <https://www.takefu-h.ed.jp>



**川内邦央** かわうち くにお  
教頭  
教職歴36年。同校に赴任して2年目。「直接話す。自分から動く。大目に見る」

**野村幸史** のむら こうじ  
生徒指導部  
教職歴14年。同校に赴任して4年目。前PTリーダー。「嫌いな教科、数学」を、1年後には「楽しい教科、数学」に」

**小原崇裕** おはら たかひろ  
SSH研究推進部  
教職歴9年。同校に赴任して5年目。前PTリーダー。「教師自身が学ぶことを忘れず、何事も楽しみ、全力で取り組む」

**杉坂卓哉**すぎさか たくや  
PTリーダー  
教職歴9年。同校に赴任して3年目。「生徒指導部。「謙虚に、素直に、丁寧」」

**今川大輔** いまがわ だいすけ  
PTリーダー  
教職歴7年。同校に赴任して7年目。「授業でも、学校生活でも、生徒が楽しむためには、まず自分が楽しむ」

求められる資質・能力などを踏まえて、学校を挙げて授業改善に取り組む意義を説明した。以前から同校に存在した、若手教師が指導に関する情報交換をする「B活」を基に、世代を超えた15人によってPTが結成された。

PTは、校務分掌ではなく、あくまで現場の教師による自主組織だ。ここでは、進学実績を支えてきた教材研究や進路指導のノウハウを継承しつつ、同校が生徒に身につけさせたい資質・能力として掲げる「TKF（\*）」（T＝思考力、

K＝知識、F＝情熱・行動）の育成に向けて、ALの視点を取り入れた授業やICT活用、教科横断型授業などの研究を行っている。創立メンバーの1人で前PTリーダーの小原崇裕先生は、PTを通じて自身の意識が変化したと語る。

「生徒が楽しみながら学力を高められる授業をしたいという思いから、PTに参加しました。PTの活動を通じて、これからの大学入試や社会では、思考力や表現力、協働性が求められるということを理解するにつれて、それらを高校時代に伸ばすことができる授業に変えなければいけないと、使命感を抱くようになっていきました」

現PTリーダーの今川大輔先生は、生徒の思考力に課題を感じてPTに参加した。

「数学は、条件から論理を組み立てて解答を導き出します。しかし、パターン化した解法を暗記すればよいと考えている生徒が少なからずおり、そうした生徒は少しでも条件が変わると解答できなくなることに課題を感じていました。PTを通じて授業改善によって、生徒が考える場面を増やしていくことができれば、そのような問題を解決することができ

るのではないかと期待しました」  
PTリーダーは、若手教師の2人が担当。PT会議の実施連絡や研修内容の企画など、PTの運営を担う。また、リーダーから、企画内容の検討や校外への発信、講師の人選などの相談を受けるベテラン教師2人が顧問となった。

図1 PT（授業改善プロジェクトチーム）の主な活動

|                  |  |
|------------------|--|
| リーダー             | 若手教師2人が担当。PT会議の運営や研修の企画立案などを行う。年度ごとに交代。                                    |
| メンバー             | 自由に公開授業やPT会議へ参加し、授業改善を図る。  |
| 公開授業             | 自身の指導に対してアドバイスがほしい教師が、日常の授業を公開。公開前日までに公開日時や授業のポイントなどを伝えるメールを全教師に送信。        |
| PT会議             | 月1回、放課後に1時間実施。その月に行われた公開授業の振り返りと意見交換、ICT活用など特定のテーマでのワークショップ、講師を招いた研修などを実施。 |
| 職員会議での活動報告       | PT会議で発表した教師のうち代表の1人が、職員会議でPTの活動を5分間で報告。                                    |
| 「武高アクティブニュース」の発行 | PT会議で発表した教師のうち代表の1人が、PTの活動内容を伝える通信を作成。教師全員への配信に加え、同校のウェブサイトでも公開。           |

\* 学校資料を基に編集部で作成。

### 指導案や1コマ通した見学を求めない、負担の少ない公開授業を実施

PTの主な活動は、①公開授業、②月1回のPT会議、③職員会議での活動報告、④活動内容をまとめた「武高アクティブニュース」の発行だ（図1）。

そのうちの公開授業は、授業を見学してほしい教師が日常的に行う。事前に指導案などの資料の作成・配布は求めず、授業者は、授業の日時や内容、見てほしいポイントなどを全教師にメールで伝える。19年度にPTリーダーを務めた野村幸史先生は、公開授業実施のハードルの

\* 「Thinking Knowledge Forward&Frontier」の略称で、武生（TaKeFu）にちなんで「TKF」とした。

低さが、取り組みが定着したポイントだと語る。

「公開授業の意義を感じているものの、最初は自ら手を挙げる教師は多くなく、PTリーダが意欲のありそうな教師に声をかけて実施を促していました。本校の公開授業では、指導案などの作成を求めず、新しい活動を取り入れたタイミングや、ほかの教師からアドバイスがほしい時などに公開すればよいので、負担が少なく、実践的です。そうした点が浸透していくにつれて、公開授業の実施に自ら手を挙げる教師が増えていきました」

19年度は、「価格決定のメカニズムを2次関数で考える」(数学)、「喫煙者の雇用停止の是非」(公民)、「効果的なプレゼンテーションのため(レイアウト)」(美術)などの授業が公開された。物理担当の小原先生は、公開した思いを次のように語る。

「私が公開授業を行ったのは、自分が取り入れた新しい指導方法を他教科・科目の視点で見てもらい、意見やアドバイスをがほしいからです。授業について否定的な意見は言わないというルールがあるので、安心して授業を公開できます」

現PTリーダで地理歴史科担当の杉坂卓哉先生は、自身の授業改善について次のように語る。

「公開授業やPT会議で刺激を受け、私も授業で答えが1つではない問いを生徒に投げかけたり、生徒同士のグループワークを増やしたりしました。すると、クラスの雰囲気や

生徒の人間関係にまで変化がありました。生徒たちが仲間の声に耳を傾け、自分の思いを言葉にするようになった姿を見て、もっとPTを生かして指導力を高めていきたいと思うようになりました」

### 参加自由のPT会議 職員会議や通信で内容を共有

一定例のPT会議では、その月に公開授業を行った教師が、授業内容やそのねらい、手応え、生徒の様子などを振り返る実践報告を行う。続いて、教科横断型授業やICT活用などをテーマとしたワークショップ、校内外の教師を講師として招いた研修なども実施する。会議は原則月1回で、定期考査終了後の午後

など、部活動の顧問の教師も参加しやすいタイミングで約1時間行われる。参加は自由で、関心のあるテーマの時だけ参加する教師もいる。

20年9月に実施したPT会議では、学習評価をテーマとし

て、「生徒がつくる評価基準」についての研究発表をし、ゲストで参加した他校の教師とも意見交換を行った。川内邦央(くわい くにづな)教頭は、PT会議の意義を次のように語る。

「関心のある研修にだけ参加できる負担感の少なさが、先生方を引きつけるのでしよう。私は参加しても、極力発言をせず、聞き役でいるよう努めています。議論の方向性を変えたり、話をまとめてしまったりすれば、先生方の自主性が損なわれます。PT会議は、先生方が参加を楽しみつつ、自らの成長を実感できる場であってほしいと思っています」

毎回のPT会議の結果は、その時の会議で授業や研修テーマについて発表した教師のうちの



公開授業やPT会議などの内容を伝える通信を、PT会議でPTの活動を発表した教師のうちの1人が担当となり、月1回作成・発行している。全教師にメールで配信するほか、学校のウェブサイトでも公開している。  
\*学校資料を一部改訂して掲載。

1人が代表して職員会議で報告することで、全教師にPTの活動を共有、周知している。

「職員会議での報告は5分以内で収まるようにしてもらっています。制限時間がある中で必要事項を伝えるスキルは、指導にも役立つはずですよ。また、発表にはプロジェクトを用いることにし、ICT活用のスキルを高める場にもなっています」（杉坂先生）さらに、PT会議でPTの活動を発表した教師のうちの1人が、活動内容を伝える通信「武高アクトイブニュース」（図2）の作成を担当。担当者は、ほかの発表者や公開授業を行った教師に原稿執筆を依頼するなどした上で、自身の視点で記事をとめる。同通信はメールで配信するほか、学校のウェブサイトで一般公開もしている。

### 目指す資質・能力の育成に向け、教科横断型授業が活発に

公開授業やPT会議への参加がしやすい設計にしたことから、PTの活動には同校の9割以上の教師がかかわるようになった。

現在、公開授業は毎月3人以上の教師が実施し、19年度からは教科横断型のコラボ授業が度々公開されている。コラボ授業の実施は、「TKF」をより効果的に生徒に身につけさせることがねらいだ。例えば、物理担当の小原先生と世界史担当教師とのコラボ授業では、2時間連続でローマの水道橋をテーマに探究学習を実施した。1時間目の世界史では、水道橋にアーチ

構造が用いられた理由をグループで考えさせ、2時間目の物理では、建築様式による構造の違いを調べた上で、グループで話し合いながらブロックを利用した丈夫な橋を作成し、アーチ構造の強度の物理的な解析などを行った（写真）。20年度に探究進学科が新設されてからは、コラボ授業の実施がさらに増えている。

「PTの活動によって、教科・科目間の意思疎通を図りやすくなったことが、コラボ授業の活発化につながっています。授業づくりでは、各教科・科目の立場から、授業で生徒に身につけさせたい力を語り合い、どのように教科・科目間で協力するかを練っています。多様な視点から物事を捉えることで、生徒の科学的思考力や問題発見力の伸びを期待しています。また、教師が協働する姿は、生徒にもよい刺激になるでしょう」（小原先生）



写真 2年生の文系クラスでは、ローマの水道橋に用いられたアーチ構造をテーマに、物理と世界史の教科横断型のコラボ授業が行われた。文系クラスには物理が苦手な生徒が少なくないため、教師の想定外の答えも出てきたが、建築史を物理の視点から学ぶ文理融合の学習となった。

### PTの活動を校外にも公開 授業改善の波が他校へ波及

PT発足から4年目となり、校内に自主的な授業改善の文化が根づいてきた。1年次から多くの教科・科目でALの視点を取り入れた授業が行われるようになり、教師が特にルールを教えたり、場づくりを工夫したりしなくても、生徒には他者と協働して学ぶ姿勢が定着している。全校体制でALに取り組んだことによる相乗効果の表れと言えよう。

毎年11月には校外向けに公開授業を実施しており、19年度は県内外から約150人が参加。参加者と同校の教師が熱い議論を交わした（20年度は、PT会議のみ公開予定）。同校を訪れた他校の教師の中には、PTを参考に授業改善の組織づくりに取り組む者もいたという。

今後の課題は、教師が異動により入れ替わってもPTを文化として継承していくことだ。

「PTが全校的な取り組みとなったのは、発足に尽力した教師の熱意があったからこそです。無理のない範囲でありつつも、PTへの参加を促して取り組みの効果を実感してもらい、成果を学校内外に発信してきました。しかし、各教師が意義を理解していなければ、取り組みは形骸化していくでしょう。異動により教師の顔ぶれが変わったとしても、指導力向上の活動を継続させていくための工夫を考えていきたいと思えます」（今川先生）

校内の教師同士による対話を通して、自校の指導ツールの改良を図る本コーナー。  
今号は、福岡県立東筑高校の2年生が3月の二者面談前に記入する  
学年振り返りシートについて検討した。

福岡県立東筑高校

◎「文武両道」「質実剛健」を校是として、グローバル社会をリードする卓越した人材の育成を目指す。部活動も盛んで、野球部は甲子園大会春夏計9回出場、ラグビー部は全国大会に計4回出場、ボート部は国体18回出場を誇る県内有数の強豪である。

◎設立 1898 (明治 31) 年

◎形態 全日制/普通科/共学

◎生徒数 1学年約 280 人

◎2020年度入試合格実績(現役のみ) 国公立大は、東京大、京都大、大阪大、九州大などに183人が合格。私立大は、慶應義塾大、中央大、東京理科大、早稲田大、同志社大などに延べ264人が合格。

◎URL

http://tochiku.fku.ed.jp/



キャリア教育部情報班主任  
**安部弘敏** あべ・ひろとし  
教職歴9年。同校に赴任して7年目。



キャリア教育部進路指導班  
**阿部啓** あべ・けい  
教職歴13年。同校に赴任して7年目。



主幹教諭・教務主任・教育推進部長  
**辻本貢士** つじもと・なほと  
教職歴23年。同校に赴任して12年目。  
2016年から4回、本コーナーに登場している。

改良会議実施校

福岡県立  
東筑高校



〇〇第 2年〇組 学年振り返りシート

と 氏名( )

1. 個人情報の確認(あなたたちの1年間の実績を記録しておく)

(1) 自分の性格(長所、どんな人なのか) 自分で思う自分について自信を持って詳細に記入してください。

(2) 部活動 ( ) 部  
実績・活動内容 (正式な大会、実演白熱、成績など詳細に記入すること)・頑張ったこと。

(3) クラス役員 ( ) 委員(何) (どんな活動をしたように頑張ったか)

(4) 生徒会活動 ( ) (〇〇部会でどう頑張ったか、やってほしいこと記入)

(5) 課題研究 ( ) 班  
・テーマ  
(どんなことに取り組んだか、どんな力が出たのか、立派な資料を提出したか)

(6) 学習の1年間の振り返り(どんな目標を立てたか、達成したか)

(7) 持っている資格(英語、数学、その他の科目、資格、ピアノ等も資格が取得できたら記入する。)

(期間満了日、資格の正式名称など記入すること)

(8) 参加したイベント( ) (実施時期、内容、感想など) 全学校の外観を記入する。

(9) その他参加した活動  
(各種体験活動、遠征イベント、むかしの学習研究など) 写真等添えて参加したものはすべて記入する。どんな力が身についたか、どのような変化があったか必ず詳細に記入すること。

II. 2年生として過ごしたこの1年を振り返って。

(1) この1年で頑張ったこと、(何をどのように頑張ったか、どんな力が出たのか) (得意なこと)

(2) うまくなったこと、反省、今後の目標など。

III. 3年生としての1年を振り返って。

(1) どんな1年だったのか、目標と現状の比較を記入してください。

(2) 3年生に向けて、悩んでいること、不安に思っていること、おぼろげなこと。

IV. 自由記入欄 (いろいろ書いてください)

Before

A4サイズ2枚のシートは、2年生の1年間で生徒が取り組んできたことを尋ねる部分が大半を占めている。春季休業に取り組みたいことや、3年生への進級に向けて課題だと考えていることなどを記入するスペースは、全体の3割程度にとどまっていた。

課題

- 1 3年生への進級を前に現在の自分の課題を考えさせ、春季休業に取り組む具体的なアクションを担任と共有させたい。
- 2 活動内容の振り返りが、事実関係の整理だけにとどまりがちであるため、その活動を通じてどんな力が身についたのかまでを生徒に記述させたい。

ねらい

2年次3月に行われる担任との二者面談の前に、本シートへの記入を通じて、1年間を振り返り、充実した春季休業の過ごし方を考えさせる。また、指導要録作成のために、生徒が取り組んできた活動を担任が整理、把握することもねらいの1つ。

# 2年生 学年振り返りシート

## After

### 改良ポイント

- ① 具体的なアクションへと結びつけるために、春季休業や3年生進級直後など進路指導上も重要な節目における目標を設定させる。
- ② 重点的に振り返りたい項目を生徒自身に選ばせて、頑張ってきたことや身についた力を詳述させる。



2年生 学年振り返りシート 組 \_\_\_\_\_ 番 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

**I. 1年間の実績を記録しておこう**

①自分の性格(長所、どんな人物か) 自分が思う自分自身について自信を持って詳細に記入してください。

②部活動 ( ) 部の活動内容・実績 ※正式な大会名、実施日時、成績などを詳細に記入すること

③クラス役員 ( ) 委員(係)の活動内容・実績

④生徒会活動 ( ) 委員の活動内容・実績

⑤2学年の1年間に新たに取得した資格 ※正式な資格名、取得した日時などを詳細に記入すること

⑥持っている資格 ※柔道、剣道、その他の段や級、書道、ピアノなども正式な資格名、取得日時を記入すること

⑦参加したボランティア(参加時期、内容など) ※学校内外問わず記入すること

⑧各種体験活動、進路イベント、ひびきの学問探究など、参加した活動 ※希望して参加したものはすべて記入すること

⑨上記②から⑧で特に頑張ったことを1つ選んで詳しく書いてください

⑩課題研究 ( ) 班 テーマ ( )

**II. 3年生としての1年を見据えて**

①どんな1年にしたいですか。目標など、具体的に詳細に記入してください。

②3年生に向けて、悩みや不安、心配事、決意や期待などを記入してください。

**III. 春休みのく \_\_\_\_\_ 大学 \_\_\_\_\_ 学部**

過去問題挑戦に向けての学習ポイント


**IV. 3年生 総合学力記述模試・7月までにクリアしたい課題や目標**


|           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|
| 2年生3月末までに | 3年生4月末までに | 3年生6月末までに |
|-----------|-----------|-----------|


シートの右半分では、3年生への進級を前にした自身の課題と今後取り組むべきことを書かせる。春季休業に挑戦する志望大学の過去問題や、3年生7月模試など、同校教師が進路指導上重視していることも、今後自分が取り組むべきことを具体的に考えやすくするために盛り込んだ。


1年間の活動の記録はシートの左半分に収める。頑張ったこと、身についた力を書く項目は生徒自身に選択させる。



 少々あらが目立とうと、3年生への進級に向けて自分なりの見通しやプランを持って面談に臨む生徒の方が、私たちは多角的な視点からのアドバイスがしやすいものです。2年次3学期以降の節目となる進路行事を意識させることで、生徒がより具体的なアクションを考えやすい改訂ができたと思います。

 先生方との対話を通じて、ツールのねらいが今まで以上に整理できました。私は特に、クラスの中で生徒がこの1年間どのような成長をしてきたかを言語化させたいので、例えば、「学校行事の中でクラスの一員として頑張ったこと」を記入させるなど、さらにシートをアレンジしてみようと思いました。

 学年全体で使うツールは、学年団で1つのひな型を作った上で、各担任がクラスの実情に合わせてアレンジを加えていくのがよいと思います。そうした気持ちを教師一人ひとりが今以上にしっかりと持つことで、チームとしての強みと担任の個性の両方を生かせるのだと、改良会議を通じて実感しました。

 このマークのある図版は、加工可能なデータとして、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト (<https://berd.benesse.jp>) からダウンロードできます。「HOME → 教育情報 → 高校向け → 生徒指導・進路指導ツール集」をご覧ください。

## 実録

## 改良会議

先生方の  
対話のダイジェスト進路指導上の重要な節目を意識させ、  
今後の具体的なアクションを  
考えやすくする

## 具体的な行動を考えやすい問いかけにする

**河野** 改良会議に先立って、実際に生徒が記入したシートを拝見しましたが、どれもびっしりと書き込まれていました。先生方はどのような課題をお感じなんでしょうか。

**安部** 記入内容として、今後取り組むべきことの具体化に至っていないものが多いこと、これまでの活動の振り返りが、事実ベースの記述にとどまり、その活動を通じてどのような力が身についたのかを書けていないものが少なくない、という2点です。

**阿部** 生徒たちは真剣に考え、しっかりと記入してくれていますし、シートを基にした面談も生徒たちは楽しみにしていて、いつも時間が足りないくらいです。アウトプットする場を生徒は求めているのだなあと感じます。

**辻本** 本校の生徒は、自分の頑張りを教師に伝えたのだと思います。だから、面談でも生徒はよく話してくれます。面談期間中の部活動の時に、面談の後の気持ちを聞くと「面談をしてもらってやる気が出ました」と、多くの生徒が答えます。そのやる気

を具体的な行動にしっかりとつなげたいです。

**河野** 具体的な行動につながる振り返りとは、どのようなものですか。

**安部** 目標やプロセスを具体的に書けるかどうかのポイントになると思います。これまでは、それらを具体的に書いていない生徒に対しては、面談で聞くようにしていました。「数学を頑張る」といった程度にしか書いていない生徒も、面談で話す中で具体的な計画を立案することができず、そこに至るまでにはある程度の時間を要してしまいます。

**阿部** シートを通して具体的な行動計画を考えた状態で面談に臨ませて、面談でさらに深掘りしたいですね。シート上の問いを具体的な目標や取り組みたいことが答えやすいものにすれば、記入内容がこれまでとは違ってくるかもしれません。例えば、進路指導上私たちが重視している3年生7月の模擬試験をシートの中で意識させるのはどうでしょうか。

**安部** 本校では、2年生の春季休業中に、その時点での志望大学の過去問題に挑戦させます。3年生への進級前の生徒により影響を与えてきた伝統的な取り組みですから、それも目標設定させる項目として



## 改良会議ファシリテーター

VIEW21編集部  
高領域担当責任者  
**河野仙一**  
こうの・せんいち

「読者と編集部には申し訳ないが、とにかく自校の指導について語り合う時間にした」と開口一番、辻本先生。それは編集部としても本望です。指導ツールの改良に向けた検討の過程を記事にさせていただくことを通じて、自校の教師同士の対話の有用性を読者にお伝えすることが、本コーナーの趣旨の一つです。

## 改良会議を振り返って



生徒のために改良できる指導ツールはまだありそうだと感じました。「あの生徒ならどう書くかな」と、生徒の顔を思い浮かべながら先生方と対話することができ、楽しい時間でした。

先生方と話す中で、1人で考えるだけでは得られない気づきがありましたし、私の考えを辻本先生や安部先生が言語化してくださったおかげで取り組むべき課題が明確になりました。

各分掌の先生方から「これってもっとよくなりますかね?」と気軽に相談され、ともに考えることが、主幹教諭としての私の役割だと確信しました。



**河野** 振り返りシートが改良されることで、面談でのシートの活用の仕方も変わりそうでしょうか。  
**辻本** シートに書かれた具体的なアクションは、あくまでも生徒が1人で考えたものですから、当然、

### 3年生担任との連携強化にもつなげる

シートに盛り込み、取り組むべき具体的なアクションを考えさせたいですね。  
**辻本** 具体的なアクションについて考えさせるスペースが増えた分、1年間の活動の振り返りについては、事実関係の整理はコンパクトにして、特に自分が詳しく書きたいと思う項目を生徒に決めさせましょう。その項目についてであれば、身についた力は記述しやすいはず。ただ、本校の教育活動の軸である課題研究については、全員に振り返ってもらいたいですね。

面談を経て修正が入ることもあるでしょう。そう考えると、このシートは面談後、どのように活用すべきだと先生方は考えますか。  
**安部** これまでは、指導要録作成の資料としての価値を重視していたこともあり、面談で生徒から預かって、そのまま保管していましたが、面談での気づきなどを生徒に書かせて再提出させるのもよいと思いました。  
**阿部** 再提出後、記入内容が気になった生徒に関してはもう一度面談をして、行動の具体化を支援していきたいですね。  
**辻本** 3年生への進級前にどのような課題意識を持って、どのようなアクションをしてきたのかをこのシートを通じて3年生の担任に引き継げば、学年間の指導の連続性も高まりますね。忙しい中でも、ちよつとした工夫で、生徒とのかかわりをさらによいものにするのができそうだと思います。

改良したいのに、どうすべきか分からない……

### 指導ツールを募集しています!

「改良! 指導ツール ビフォーアフター」では、取材にご協力いただける学校及び取材で検討させていただく「指導ツール」を募集しています。「自校で長年使っているツールを見直したい」「ツールのより効果的な活用法を検討したい」といった、課題意識をお持ちの学校のご応募をお待ちしております。

〈個人情報の取り扱いについて〉をご確認いただき、必要事項①~④をご入力の上、指導ツールを添付して下記のe-mailアドレスにご送信ください。

※送信前に一度、生徒情報が削除されているかご確認ください

- ①学校名・お名前
- ②分掌・ご教職歴
- ③ツールの内容(目的・活用時期・活用方法)
- ④ツールに対する課題意識、改善要望

view21\_since-1975@mail.benesse.co.jp

〈個人情報の取り扱いについて〉 この「改良! 指導ツール ビフォーアフター」のツール募集でご提供いただく個人情報は、今後の企画を検討する目的で利用いたします。お客様の意思によりご提供いただけない部分がある場合、手続き・サービス等に支障が生じることがあります。また、商品発送等で個人情報の取り扱いを業務委託しますが、厳重に委託先を管理・指導します。個人情報に関するお問い合わせは、個人情報お問い合わせ窓口(0120-924721、通話料無料、年末年始を除く、9時~21時)にて承ります。(株)ベネッセコーポレーション CPO(個人情報保護最高責任者) 上記をご承諾くださる方はご送信ください。

トレンド・ワード

# 働き方改革

生徒の学びや進路選択、そしてその後の人生に影響を与えるような革新的な技術や価値観を「社会のトレンド」として、「働く」「暮らす」「学ぶ」の観点から解説する本コーナー。今回は「働き方改革」を取り上げる。日本で今、働き方改革が推進されている背景には、多様な価値観の尊重に加え、旧来の日本型雇用から脱却し、日本の社会や経済に活力を取り戻すねらいがある。働き方改革によって、働き方に加え、人々の暮らしや学びはどのように変わるのか。労働や雇用などに関する調査研究を行うパーソル総合研究所上席主任研究員の小林祐児氏に話を聞いた。

サマリー

## 個人の多様な生き方を認め、支えることで、 少子高齢化が進む日本に活力を取り戻す

**労働や雇用に関する法律制度を改革し、働き方を変える**

2019年4月から、労働基準法を始めとする8つの法律、いわゆる「働き方改革関連法」が順次施行され、国は法制度の面から働き方を変える環境を整えた。中でも、労働基準法は、「70年に1度の改革」と言われるほど見直された。

それらの法改正により、企業には、残業時間の上限規制や有給休暇の取得の義務化、同一労働同一賃金の実現など、様々なルールや目標が課せられた(図1)。企業がそれらを順守することで、働き過ぎによる健康被害を防いだり、ワーク・ライフ・バランスを整えて可処分時間を充実させたりと、働く人がそれぞれの価値観や事情

に応じた働き方を選択できる社会の実現が期待されている。

マクロ的な視点で見ると、働き方改革が求められる背景には、日本が直面する様々な問題がある。その1つは、「日本型雇用」がととの昔に限界を迎えていることだと、パーソル総合研究所上席主任研究員の小林祐児氏は指摘する。「終身雇用や年功序列などに代

図1 国による「働き方改革」の主な取り組み

|        |                                    |                            |
|--------|------------------------------------|----------------------------|
| 勤務時間改善 | ◎残業時間の上限規制                         | ◎フレックスタイム制の拡充              |
|        | ◎「勤務時間インターバル」制度の導入促進               | ◎年5日間の年次有給休暇の取得(企業に義務づけ)   |
| 待遇改善   | ◎労働時間の客観的な把握(企業に義務づけ)              | ◎月60時間超の残業の、割増賃金率の引き上げ     |
|        | ◎労働者に対する、待遇に関する説明義務の強化             | ◎不合理な待遇差の禁止(同一労働同一賃金の実現など) |
|        | ◎「高度プロフェッショナル制度」の新設                | ◎産業界・産業保健機能の強化             |
| 労働環境改善 | ◎行政による事業主への助言・指導等や裁判外紛争解決手続きの規定の整備 |                            |

\*厚生労働省のウェブサイトの情報を基に編集部で作成。

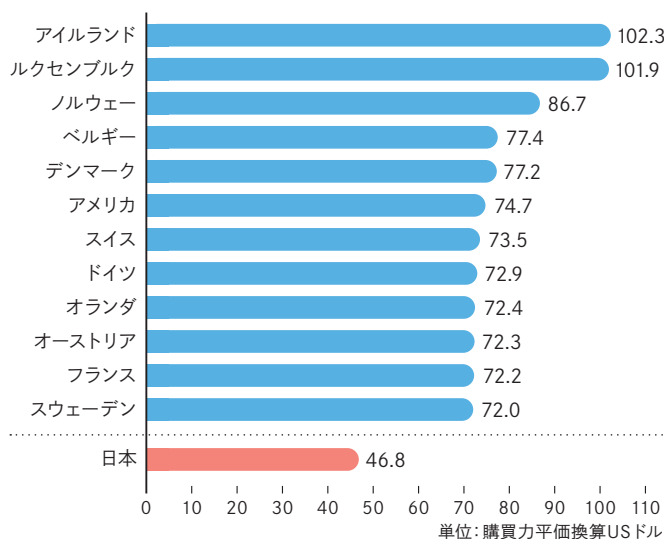
解説者



**小林祐児**  
 パーソル総合研究所  
 上席主任研究員

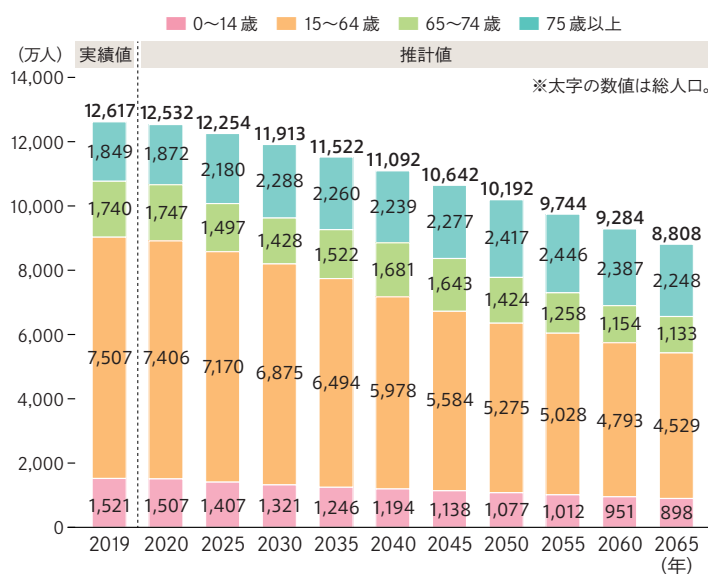
こばやし・ゆうじ  
 NHK放送文化研究所、市場調査会社を経て、2015年からパーソル総合研究所所属。主な研究領域は、働き方改革、ミドル・シニア層の活性化など。

図2 OECD加盟諸国の時間あたりの労働生産性(2018年)



36か国比較のうち、上位12か国と日本を掲載。  
\*公益財団法人日本生産性本部「労働生産性の国際比較2019」を基に編集部で作成。

図3 日本の将来推計人口



\*内閣府「令和2年版高齢社会白書(全体版)」を基に編集部で作成。

表される日本型雇用は、製造業がけん引した高度経済成長期に定着し、80年代まで日本経済の発展を支えてきました。しかし、生産年齢人口の減少や国内市場の縮小によって、日本企業は海外から人材を雇用したり、海外に進出したりすることが必要になりました。その時、文字通り『日本型』雇用は、世界的には特殊なシステムで、グローバルな経済活動の障壁となり、いまや日本経済の低成長の一

因となつていきます。また、イノベーションは、多様な技術、価値観を持つ人々が集まると起こりやすく、同質性の高すぎる集団からは生まれにくいものです。同じ企業に長年勤める正社員以外の知見を企業が取り入れやすくなるという意図も、働き方改革にはありません

**日本型雇用から脱却し、多様な人材の安定的な雇用を図る**

諸外国に比べ、日本企業の時間

あたりの生産性が低いことは、各種調査から分かっている(図2)。「これまでは、意欲が重視され、『挑戦したい』と手を挙げた人ほど評価される仕組みでした。しかし、それは長時間労働を招きやすく、多様な人々が労働市場に加わることを難しくしていました」

日本の将来推計人口を見ると、人口減少による労働力不足が加速するのは明らかだ(図3)。その状況に対して、国は「一億総活躍

社会」の実現を掲げ、女性や高齢者などの労働参加を後押ししているが、企業の日本型雇用が変わらなければ、多様な人材を安定的に雇用するのは難しい。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、テレワークや時差出勤など、企業は働き方の変革を迫られた。働く場所や時間に関する意識、さらには労働のあり方そのものが揺さぶられ、期せずして働き方改革が加速した一面もある。

「社会全体を見ると、日本型雇用からの脱却は始まったばかりです。働き方改革がきっかけの一つとなり、企業の意識が変わって雇用制度が変革され、より多様な人々が活躍しやすい社会へと変化していくことを期待しています」

働き方改革は、人々の多様な生き方を支え、日本の社会・経済に活力を取り戻すという面から、さらなる進展が期待されている。

次ページからは、「働く」「暮らす」「学ぶ」の3つの切り口で、働き方改革の進展による、社会や生活の変化を具体的に見ていく。

# 働く

## 「会社主導」から「個人主導」のキャリア形成に

人に仕事を割りあてる形態から  
仕事に人を割りあてる形態へ

働き方改革が進むと、仕事や会社への向き合い方は大きく変わる。これまでは、人に対して仕事を割りあてる「日本型雇用」が一般的であり、仕事のノウハウはその会社に長く勤めた人に蓄積されるため、年功序列は一定の価値を保っていた。

しかし、海外ではむしろ、仕事に対して人を割りあてる「ジョブ型雇用」が一般的だ。働き方改革の重点項目の1つ、同一労働同一賃金が広まると、ジョブ型雇用が定着すると予測される(図4)。

「社内で長年経験を積むと自動的に昇進する制度は次第に廃れ、役職が空いた時にその遂行能力を持つ人材を募集するジョブ型雇用が広がるでしょう。そうした雇用形態では、会社に育ててもらおうのではなく、能力を伸ばし、人脈を

広げるような環境を自ら整えていかなければなりません」

日本型雇用でのキャリア形成は「会社主導」だが、ジョブ型雇用では「個人主導」になる。会社の方針に従い、業務を遂行するだけでなく、常に自分の専門性を磨き、積極的にチャンスを求める姿勢がより重要になる。

日本型雇用では、新卒採用で入社した社員は、勤続年数などに応じて横並びで昇給する給与体系が一般的で、その基準に中途入社社員を適用しづらい点が、企業の採用競争力の妨げになっていた。ジョブ型雇用では、職務内容に応じた給与が明確に設定されていることなどから、スキルがマッチする人にとっては、転職によってキャリアが開かれやすくなる。

属性の異なる人々が一緒に働く  
多様性のある職場環境に変化

テレワークを始めとした多様な

働き方によって、人材の多様化も、一層進むと考えられる。

「これまでは、長時間働いた人ほど出世しやすかったことなどから、男性が仕事を担い、女性は家庭を守るといった性別役割分業が合理的と捉えられてきました。また、非正規社員は、どれだけ頑張っても待遇が向上しない実態も見られました。そういった状況が是正されると、年齢や性別、国籍などの属性に左右されずに雇用されるよ

# 暮らす

## 柔軟な働き方で得た時間をどう過ごすか

働き方改革が暮らしにもたらすこととして期待されているのは、可処分時間の増加だ。残業時間が少なくなったり、テレワークが導入されて通勤の必要がなくなった

うになります。つまり、多様な人たちが一緒に働くことが実現されやすくなるのです」

りすれば、自由に使える時間が増えることが予測される。

自由な時間の過ごし方によって、生活の質は大きく変わる。家庭や地域で過ごす時間に充てた

図4 「日本型雇用」と「ジョブ型雇用」の特徴

| 雇用形態   | 日本型雇用                          | ジョブ型雇用                       |
|--------|--------------------------------|------------------------------|
| 考え方    | 人に仕事を割りあてる                     | 仕事に人を割りあてる                   |
| 業務内容   | 勤続年数や能力、希望などを考慮して判断される。総合的・全般的 | 職務内容や必要なスキルが明確に設定される。専門的・限定的 |
| 労働時間   | 長時間になりやすい                      | 決められた職務を果たせば定時で終わる           |
| 給与形態   | 職能給(年齢や勤続年数に応じる)               | 職務給(仕事内容に応じる)                |
| 勤務地    | 転勤の可能性あり                       | 原則、転勤はない                     |
| キャリア形成 | 会社主導                           | 個人主導                         |

\*小林氏への取材を基に編集部で作成。

# 学ぶ

## 強みを持つために職業を意識した学びを

り、自分のスキルを高める勉強をしたり、あるいは副業を行ったりと、自分らしい過ごし方によって、ワーク・ライフ・バランスは充実することだろう。さらに、「ワーケーション（\*1）」「プレジャー（\*2）」といった働き方の多様化は、自分らしい生き方を確立する上で大きな支えになるに違いない。もちろん、そのためには、「自分にとって大切なものは何か」「どのような人生を送りたいのか」と、自己と向き合う姿勢がこれまで以上に大切になるだろう。

暮らしの満足度に大きく影響する居住地域の選び方も、変化すると考えられる。「従来の職住近接の前提が崩れ、都心から離れて郊外や地方に住居を構える人が増えるでしょう。コロナ禍において、既にそうした傾向が表れ始めています。また、ジョブ雇用では、基本的に企業の意向で業務内容や勤務地を変えられないため、転勤も減るはずです」ICT環境の整備などにより、企業が都市から地方へと拠点を移す動きも出ている。そうした社会環境の変化が重なり、地方創生につながることも期待される。

雇用形態や労働環境が変わると、学びにも変化があるのだろうか。キーワードの1つは「専門性」だと、小林氏は指摘する。「ジョブ型雇用では、専門性が求められるようになります。オーラル4の成績より、得意分野では5を超えて、6や7の力を持つ人材

が活躍しやすくなります。子どもの頃から、得意なことや好きなことをさらに伸ばす学びが重要になると思われます」自身の専門性を見だし、磨いていくためには、これまで以上に職業を意識した学びが重要になるという。

「大学だけでなく、小・中学校や高校でも職業体験やインターンシップが行われるようになりまして、国際的に見ると、日本では学校と社会との距離がまだまだ遠いと感じます。多様な職業を体験し、働くことへの理解が深まれば、社会の中で自分をどう生かせるかを具体的にイメージできるように

なり、学習意欲の向上にもつながるのではないかと考えます」変化が激しい時代においては、社会に出てからも学び続ける姿勢が大切だ。人材の流動性が高まり、キャリア形成も個人で行うため、生涯にわたって自身の価値を高める努力がますます求められることになるだろう。

### Column 生涯学習で「マルチステージ」の人生をより豊かに



文部科学省  
総合教育政策局  
生涯学習推進課  
専修学校教育振興室長  
かねしろ  
**金城 太一**

これまで日本人の人生は、「教育→仕事→定年退職後」の3つのステージに分かれるのが一般的でした。それが、「人生100年時代」と言われる長寿社会が到来し、技術革新で社会や産業のあり方が大きく変容する

中で、その人の能力や将来像に応じて仕事や活動を組み合わせる「マルチステージ」という考え方が浸透しつつあります。働き方改革は、そうした人生のあり方に合わせて働き方を柔軟に変えていくための改革とも位置づけられるでしょう。

マルチステージの人生をより豊かにするためには、社会に出てからの学び、すなわち生涯学習が欠かせません。学校を卒業した後の長い人生を、生活や仕事に求められるスキルが刻々と変化する状況で過ごすわけですから、生涯、学び続ける必要があるのです。

そうした社会状況に対応して、大学や大学院、専門学校などでは、社会人の受け入れ体制を強化しつつあります。現在、正規課程・短期プログラムにおける社会人の年間受講者数は約50万人で、文部科学省では、それを2022年までに100万人に増やすことを目指して生涯学習の基盤整備を進めています。その一環として、文部科学省では、2020年8月に産学と連携した「いまスタ！社会人の学び応援プロジェクト」をスタートさせ、動画シリーズを公開中です。

年齢にかかわらず、自己の成長を実感することは大きな喜びになります。これからは社会人が前向きな姿勢で学び続けられるような支援を続けていきます。

「いまスタ！社会人の学び応援プロジェクト」

いまスタ 動画 検索

[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/activity/topics/2020/20200825.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/activity/topics/2020/20200825.html)

\*1 「ワーク」と「バケーション」を組み合わせた造語。観光地などで働きながら休暇を取る仕事スタイルを指す。  
\*2 出張日の前後に休暇を取り、仕事と併せて観光などを楽しむ過ごし方。

# SDGsの視点で見る大学の学び



SDGsの達成に向けた取り組みや研究の視点で、大学の学びを紹介する本コーナー。今号では、クリーンエネルギーの実現を目指す目標7と、気候変動への対策を行う目標13に関する大学の学びを取り上げる。まずは、それぞれの目標について、世界と日本の状況を解説した後、目標7は県立広島大学、目標13は創価大学の学びを紹介する。

- 1 貧困をなくそう
- 2 飢餓をゼロに
- 3 すべての人に健康と福祉を
- 4 質の高い教育をみんなに
- 5 ジェンダー平等を実現しよう
- 6 安全な水とトイレを世界中に
- 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- 8 働きがいも経済成長も
- 9 産業と経済発展の推進をこころ
- 10 人や国の不平等をなくそう
- 11 住み続けられるまちづくりを
- 12 つくる責任つかう責任
- 13 気候変動に具体的な対策を
- 14 海の豊かさを守ろう
- 15 陸の豊かさも守ろう
- 16 平和と公正をすべての人に
- 17 パートナリーシップで目標を達成しよう

## 解説



**目標7**  
すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する

### 世界の状況

消費量が増加する中、資源枯渇や環境への対策が急務

世界のエネルギー消費量が年々増え続ける中、エネルギー問題の解決は、人々の生活や経済活動を支える持続可能な社会を構築する上で欠かせません。

現在、世界の人口の1割の人々が電力を使えていません。特にアフリカのサハラ砂漠以南では、約6億人が電気を利用していないという現

状があります。そうしたインフラが未整備の地域では、石炭や木炭、場合によっては動物の排泄物をエネルギー源としており、不便だけでなく、不衛生な生活環境を強いられています。

そのため、目標7の取り組みの柱の1つは、世界中の人々が電力を利用できるようにすることであり、インフラ整備の国際的な支援が進められています。

再生可能エネルギー（\*1）の割合を、大幅に拡大させることも重要

## 解説



**目標13**  
気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる

### 世界の状況

温室効果ガス排出量の多い国の取り組みが必須

温室効果ガス（\*3）の排出により、世界の平均気温は産業革命以前に比較して約1℃高くなり、気候変動による極端現象が、今までにない規模での豪雨や洪水、猛暑による干ばつなどの災害を引き起こしています。

そうした気候変動を抑えるためには、国際社会が一体となって温室効果ガスの排出削減に取り組む必要

があり、2015年12月、第21回国連気候変動枠組条約締約国会議において、パリ協定が採択されました。

産業革命以前との比較で、世界の平均気温の上昇を2℃未満を目標とし、努力目標としては1.5℃未満に抑えることに、すべての国が合意したのです。

中でも温室効果ガスの排出量の多い上位（中国、米国、EU、インド、ロシア、日本。\*4）は、排出削減に積極的に取り組む必要があります。排出量1位の中国は、20年の

\* 1 自然界に常に存在するエネルギーのことで、常に補充されるもの。環境に優しく、枯渇する心配がない。日本の法令では、太陽光・風力・水力・地熱・太陽熱・大気中の熱その他の自然界に存在する熱・バイオマスとされている。 \* 2 「安全性 (Safety)」を前提として、「安定供給 (Energy Security)」「経済効率性 (Economic Efficiency)」「環境保全 (Environmental Conservation)」を目指す取り組み。

な取り組みです。化石燃料は、およそ100年後には枯渇すると試算されていますが、現在、世界のエネルギー源は、化石燃料や原子力が主力で、太陽光や風力、地熱などの再生可能エネルギーは、20%台にとどま

ります。技術革新などにより、再生可能エネルギーをどれだけ電気エネルギーに変換できたかという発電効率を高めることも、エネルギー問題の解決に寄与します。

### 日本の状況

## 再生可能エネルギー普及には一人ひとりの意識改革が必要

エネルギー資源をほとんど持たない日本は、エネルギー政策が生命線と言えます。しかし、目標7の達

### 解説者



県立広島大学  
生物資源科学部  
生命環境学科教授  
大竹才人  
おおたけ・としひと

光エネルギー変換を中心として、新規太陽電池研究や太陽光水分解による水素生成の研究に取り組む。太陽誘電(株)に勤務後、愛知工科大学工学部機械システム工学科教授などを経て、2016年から現職。

成度は低く、特に電気をつくる構成を示す電源構成のうち化石燃料の割合の高さが大きな課題です。東日本大震災以後は、原子力発電所の操業停止が相次ぎ、火力発電の割合が9割近くに達しました。化石燃料依存度を下げるために、再生可能エネルギー普及に向けた取り組みの必要性が叫ばれていますが、現状では、再生可能エネルギーの依存割合は2割に満たない状況です。

エネルギー問題は、エネルギーが枯渇してから対応しようとしても解決は不可能です。政府は「エネルギー基本計画」を策定し、いわゆる「3E+S(\*2)」を掲げ、様々な政策を推し進めています。高効率のソーラーパネルなどの技術革新を進める必要があるでしょうし、取り組みの推進には、国民の意識改革が欠かせません。電力買い取りの制度も始まりましたが、再生可能エネルギー利用のコストを国民が負担していくことも必要でしょう。

P.56〜57で、目標7の達成に向けた「**県立広島大学**」の学びを紹介します。

国連総会の一般討論演説で、国内の温室効果ガスの排出量を、60年までに実質ゼロ(\*5)にする方針を表明しました。同3位のEUでも、欧州議会での政策演説で、30年までに温室効果ガスの排出量を少なくとも1990年比で55%削減することを発表しています。

### 日本の状況

## 再生可能エネルギーへの大胆な転換が必要

日本の温室効果ガスの排出量は、EUを除くと世界5位で、責任は非常に重いと言えます。国内の温室効果ガス総排出量に占める割合は、エネルギー分野が約9割弱で(\*6)、主に燃料の燃焼によるものです。そして、電源構成のうち76%が天

### 解説者



創価大学  
経済学部経済学科  
准教授  
掛川三千代  
かけがわ・みちよ

専門分野は、環境政策、環境管理、環境経済学。国連開発計画(UNDP)、在ラオス日本国大使館、外務省、JICAベトナム事務所、環境省地球環境局国際連携課課長補佐などを経て、2017年から現職。

然ガスや石炭などの化石燃料(\*7)によるものであるため、それらを再生可能エネルギーに迅速かつ大きく転換していく必要があります。

環境省は、国内での二酸化炭素排出の実質ゼロを目標とし、自治体による達成への努力を働きかけています。20年11月25日時点で175の自治体がその方針を表明するなど、各自治体の意識は高まってきています。また、リコグループが50年までに再生可能エネルギー100%化を目指すなど、企業の取り組みも始まっています。

そうした動きを受け、菅総理大臣は20年10月、所信表明演説で「50年までに、温室効果ガスの排出量を実質ゼロにする」と表明し、革新的技術の研究開発を促進するなど、経済と環境の好循環をつくっていく方針を示しました。今後、国や自治体企業の脱炭素化を加速させるためには、特に学生や青年の行動が重要になってくると言えます。

P.58〜59で、目標13の達成に向けた「**創価大学**」の学びを紹介します。

\*3 大気中に含まれる二酸化炭素、一酸化二窒素、メタン、フロンガスなど、地球温暖化の原因とされるガスの総称。 \*4 IEA「CO<sub>2</sub> EMISSIONS FROM FUEL COMBUSTION」2019 EDITION \*5 二酸化炭素などの温室効果ガスの人為的な排出と、森林等による吸収が均衡する状態。 \*6 「日本国温室効果ガスインベントリ報告書 2020年」、温室効果ガスインベントリオフィス編、環境省地球環境局総務課監修。 \*7 経済産業省「2019年度エネルギー需給実績(速報)」(2020.11.18)。

この学びに  
関する  
SDGsの  
目標



## 大学の学び

# 革新的な太陽電池の開発をチームで 目指す中で、問題解決力や協働性を育む

## 県立広島大学 生物資源科学部 生命環境学科 大竹研究室

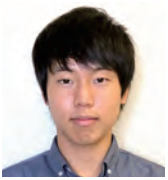
### 理論と技術の両面から 幅広く環境問題を学ぶ

県立広島大学生物資源科学部生命環境学科は、持続可能な社会の視点から、地球環境について広く深く学ぶ学科だ。その学びは、「環境科学」「環境技術」の大きく2つに分けられる。環境科学では、化学や生物、物理などの学問を活用して、環境に

### 私たちが紹介します



生命環境学部  
環境科学科4年  
安保裕貴  
あほ・ゆうき  
広島県・私立尾道中学校  
高校卒業。



生命環境学部  
環境科学科4年  
清水大雅  
しみず・たいが  
静岡県立浜松南高校卒業。

かかわる物質循環や生態系などの本質的な理解を目指す。環境技術では、エネルギーや大気・水質汚染、放射能除染の問題などを解決するための先進的な技術を学ぶ。

1年次は、環境科学と環境技術の基礎事項や実験技術を学び、2年次以降は、専門科目を履修する。3年次に研究室に所属し、1・2年次での学びを土台としながら、自身が関心のあるテーマの研究に取り組む。

生命環境学部環境科学科（\*1）4年の清水大雅さんは、環境技術が社会でどう利用されているかを体験的に学ぶ1年次の導入科目「環境科学セミナー」の授業での気づきを次のように語る。

「ものづくりが盛んな浜松で生まれ育った私は、技術開発を通じて環境問題の解決に貢献したいと考え

て入学しました。『環境科学セミナー』の授業では、地域の浄水場や製鉄所を視察し、多くの環境技術が用いられていることを知りました。自分が開発を目指す技術が、どのように人々の生活につながっていくのかを具体的にイメージできました」

同学科では、環境分野を広く扱うため、SDGsに関連する科目も多いため、1年次から履修可能な「環境システム学」では、様々な環境問題をSDGsの視点から捉え、グループで議論する。同学科4年の安保裕貴さんは、次のように振り返る。

「例えば、ガソリン自動車と電気自動車では、どちらの方が環境負荷が小さいかをグループで話し合いました。私は電気自動車だと思っていましたが、話し合いの中で、自動車の製造過程でどれくらいのエネル

ギーが使われているのかも考えないと、どちらの負荷が小さいかは一概には言えないという結論に達しました。イメージだけで判断してはいけないことに気づかされました」

### 研究室のゼミ全員で、 革新的な太陽電池を開発

2年次の終わりには、研究室の説明会や研究室訪問があり、学生は所属する研究室を選ぶ。安保さんと清水さんは、大竹研究室に所属し、「目標7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに」に貢献するため、新たな太陽電池（\*2）の開発に取り組んでいる。

大竹研究室では、3年次の最初に3か月間の研修があり、太陽電池の原理を学ぶとともに、実際に太陽電

### この学びに関する 他のSDGsの目標



\* 1 2020年度、生命環境学部環境科学科・生命科学科は、生物資源科学部生命環境学科・地域資源開発学科に再編。安保さんと清水さんが所属している生命環境学部環境科学科の学びの多くは、生物資源科学部生命環境学科に引き継がれている。

池を作製することで、その構造の理解を深める。研修後は、エネルギー問題の解決に向けて、現在の化石燃料を主体としたエネルギーをすべて太陽光で置き換えるという大きな課題に取り組んでいる（目標13）。

それは、人類全体が1年間で消費するエネルギーの総量が、地球に降り注ぐ1時間の太陽エネルギーと同量であることから、理論的に可能だと示されているためだ。しかし、現状の太陽電池の発電効率が非常に低いことが、その実現を阻んでいる。

そこで、同研究室では、発電効率の高い超高性能な新素材の開発を目指し、10人のゼミ生が基礎と応用の両面から研究に取り組んでいる。週1回は全員が集まって進捗を報告し、問題点を議論するなど、協働して研究を進めている。

### 新技術の開発で、エネルギー問題の解決への貢献を目指す

基礎研究を担当する安保さんは、超高効率な太陽電池の生命線である新素材、コロイド量子ドット（\*3）を研究中だ。

「発電効率を高められるかは、太



写真 研究室で、フラスコを使って太陽電池に用いる新素材を作製している様子。

陽光をいかに余すことなく吸収できるかにかかっています。現在主流のシリコンを用いた太陽電池は、その発電効率が最大で27%までしか達しないことが理論的に求められています。それは、太陽光は虹の7色のように、様々な色の成分を含んでおり、そのうちシリコンは、27%までしか吸収できない性質を持っているためです。一方、コロイド量子ドットは、75%以上の太陽光を吸収することが理論上示されているため、それに着目して研究しています（写真）（安保さん）

応用研究を担当する清水さんは、基礎研究で得られたコロイド量子ドットを用いて「コロイド量子ドット太陽電池の作製」のための実験を重ねている（図）。

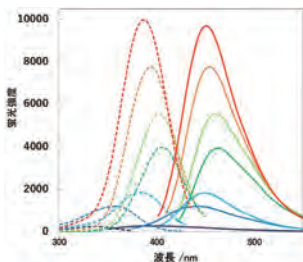
「これまで、世界中で量子ドット

ト太陽電池の研究が進められてきましたが、その作製は困難を極めているのが現状です。我々が開発したコロイド量子ドットを利用すれば、そのような作製上の問題は解決できるはずです。人類の夢を形にする超高効率太陽電池の完成に向けて、応用研究を続けています（目標9）」（清水さん）

清水さんは、卒業後は大学院に進学予定で、「将来的には、身につけた知識と経験を生かせる環境関連の職業に就きたい」と語る。安保さんは、屋外パネルを用いた製品を扱う企業への就職が決まっている。

「4年間で培った環境問題にかかわる知識や問題解決力を生かして、その解決に少しでも寄与する仕事に携わりたいです」（安保さん）

### 合成されたコロイド量子ドットの量子サイズ効果



合成された量子ドットの粒子サイズを変化させることで、蛍光特性の制御ができることを実験で実証。

### 学びとSDGs

### 新技術の開発に取り組み、社会で役立つ問題解決力を育む



生物資源科学部  
生命環境学科  
教授  
大竹才人  
おおたけ・としひと

私の研究室では、革新的な太陽電池の開発という目標に向かって、ゼミ生全員がそれぞれ役割を担って研究に取り組んでいます。新技術を開発するためには、基礎から応用までの多様な研究が必要で、それぞれが密接に関連しています。そこで、報告会を週1回行い、実験結果を共有し、議論を行い、全員でよりよい方法を探ります。また、世界に例のない研究に取り組んでいるという自負心が、学生を本気で研究に向かわせています。

そうした研究活動を通じて、単に太陽電池に関する専門知識・技術が得られるだけではなく、問題解決力や協働性、さらには組織の構築手法やリーダーシップ、将来のビジョンへ向けた戦略立案力と構想力、実行力といった様々な力が身に付いていきます。

自身の適性や能力を發揮して可能性を広げていくために、高校時代から広い視野と知的好奇心を持ち、あらゆる分野の学習に向かう態度を大切にしてください。そうした志を持っていれば、高校時代にまいた夢の種は、大学で立派に開花するに違いありません。

\* 2 半導体を貼り合わせたパネルに太陽光をあてると、表面と裏面が正と負の電荷を帯びた状態になることを利用し、両面を回路でつないで電流を取り出すもの。電気を蓄える機能はない。 \* 3 量子ドットは、原子が10～50個集まってできた微細な半導体の結晶。溶液の中に混じり合うコロイド状態にすると、素材によって異なる波長の光に反応する。

この学びに  
関する  
SDGsの  
目標



大学の学び

環境問題と経済を結びつけて学び、  
議論・表現を通じて問題解決力を身につける  
創価大学 経済学部 経済学科  
掛川ゼミ

1 年次からSDGsについて  
学べる科目群を開講

創価大学経済学部は、グローバルな経済社会を担うリーダーの育成を目指している。同学部経済学科3年の平野美輝さんは、入学の動機を次のように話す。

「高校時代から難民問題や貧困問題に関心があった私は、経済の視点

私たちが紹介します



3年 経済学部経済学科  
古賀誠人  
こが・まこと  
千葉県・私立流通経済大学  
付属柏高校卒業。



3年 経済学部経済学科  
平野美輝  
ひらの・みき  
秋田県立能代高校卒業。

からそれらについて学びたいと考えていました」

1 年次は、学部必修科目の「ミクロ経済学」などのほか、全学部共通科目「世界市民教育科目群」での「環境と開発」など、SDGsに関連した内容を学ぶ。経済学科3年の古賀誠人さんは、同科目群の1つである「環境科学B」を2年次春学期に履修し、気候変動などの環境問題について関心を持った。

『環境科学B』では、少数数でのディスカッションを通じて、環境問題への考えを深めていきました。その授業中、先輩から、アルバイト先の上司にゴミの新たな分別方法を提案したという話を聞きました。自分もその先輩のように、環境問題の解決に向けて行動を起こせるように、もっと勉強したいと思いました」

同学部では、高等教育レベルの英語力の育成にも力を入れており、英語で経済学を学ぶ「インターナショナルプログラム」を実施している。古賀さんは1年間、平野さんは2年間、同プログラムに参加した。

「英語で書かれた経済学の教科書を要約し、その内容を発表する課題などを通じて、英語の4技能すべてが鍛えられました」（平野さん）

ゼミでは、多角的に考える力  
や解決策の創造を重視

2 年次秋学期には、自分の関心に応じて、経済理論・統計学、現代経済、グローバル地域経済、SUCCEED（\*1）の4つのクラスター（科目群）から1つを選択。また、ゼミにも所属し、専門的な学

びをスタートさせる。

古賀さんは、環境問題や開発問題を学びたいと考え、環境経済学や農業経済学が学べる現代経済クラスターを選択。平野さんは、1年次に参加したフィリピンでの語学研修やケニアでの海外研修も踏まえ、グローバル地域経済クラスターを選択した。

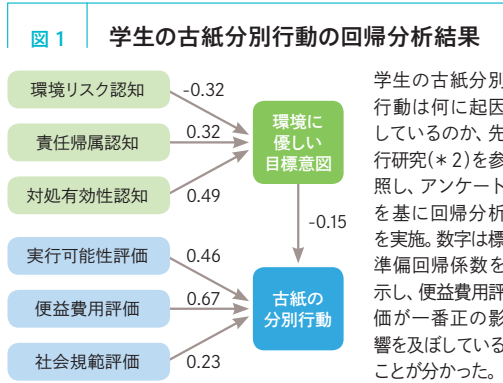
「研修中に受けた講義で、地球温暖化による海面上昇のために自国を離れなければならない『環境難民』の存在を知り、衝撃を受けました。経済と貧困問題とのつながりだけでなく（目標1）、環境問題とのつながりも学びたいと考えました（目標13）」（平野さん）

ゼミは、古賀さん、平野さんとも、国際的な開発問題や環境問題を研究し、「目標13 気候変動に具体的な対策を」にも貢献する研究に取り組

この学びに関する  
他のSDGsの目標



\*1 英語による講義のみで構成されるコース。基準を満たした人のみが受講でき、留学生と一緒に英語で経済学を学ぶ。



\*平野さんの資料を基に編集部で作成。

む掛川ゼミに入った。ゼミでは、2年次秋学期は主にディスカッションを通じて、環境経済学について学ぶ。3年次は、開発経済学を学びながら、卒業論文の草稿を各自作成。加えて、各ゼミから1グループが出場できる、学部内のゼミ対抗研究発表大会への出場権獲得を目指し、3グループに分かれて研究を進める。発表大会への準備の中で、社会問題の分析や議論を通じて、発表力や多角的に考える力、解決策を導く力を鍛えていく。

今年度の大会に出場したのは、大学のキャンパスがある東京都八王子市の古紙の回収率を上げるための研究を行った平野さんのグループだ。

## 将来の進路に結びつく研究を卒業論文のテーマに

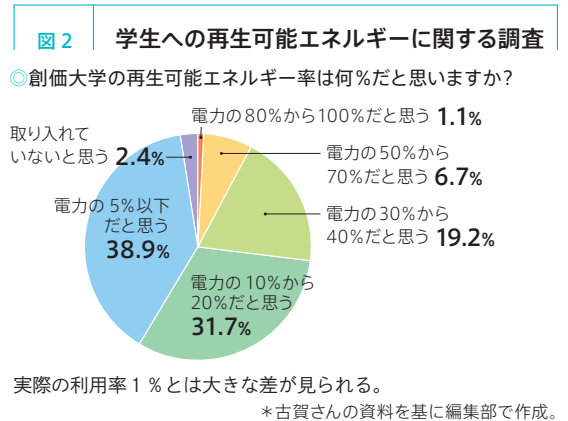
4年次は、卒業論文に向けて各自

「八王子市の可燃ゴミの中に、資源として回収可能な紙類が約9%含まれていることが分かりました。原因は、分別意識の不足にあると仮説を立て、市内の5地域の住民に、アンケート調査を行いました」

その結果、特に学生は古紙分別を負担に感じていると判明した(図1)。そこで、負担感をなくし、古紙の回収率を向上させるため、古紙専用の回収袋の配布を市に提案する方向で研究をまとめ、学部のゼミ対抗研究発表大会で1位を獲得した。

古賀さんのグループは、学内の再生可能エネルギーの利用率向上を研究テーマに選んだ(図2)。

「大学の再生可能エネルギーの利用率はわずか1%です。調査では、学生の9割が再生可能エネルギーの利用に賛成しました。その結果を踏まえ、大学のSDGs推進センターに、太陽光パネルの増設、再生可能エネルギーの購入などを提案する予定です(目標7・11)」



研究を深める。掛川ゼミでは、将来の進路に結びつく研究を卒業論文のテーマに設定する学生が多い。

「私は、再生可能エネルギー業界への就職を希望しており、日本における再生可能エネルギーの普及に必要な政策の研究をしています。ゼミでの学びは、企業研究にも生きています(古賀さん)」

食品業界に関心のある平野さんは、環境に配慮したコーヒーの栽培について研究予定だ(目標15)。

「森林伐採をせず、木々が生い茂る中でコーヒーを栽培する方法もあります。環境に優しい食品産業のあり方も追究したいです(目標12)」

## 学びとSDGs 社会課題について多角的に考え、自ら行動を起こす人材に



経済学部 経済学科 准教授  
掛川三千代  
かけがわ・みちよ

本ゼミでは、環境経済や開発経済の基本的な考え方や理論を学ぶとともに、社会課題について多角的な視点で考えられるよう指導しています。例えば、政策を議論する際、学生に「市民にとって最善の効果が出ているか」、「その手法は途上国でも最善か」と問いかけ、徹底的に議論します。

また、自身の国連開発計画やJICA(\*3)などでの実務経験を生かし、理論と現実社会をつなげる授業を心がけています。学生が発表する際、「国としてできること」「企業や自治体としてできること」に加え、必ず「自分たちができること」についても考えてもらうようにしています。自ら行動を起こす人材を育て、国際機関や自治体、企業等で、持続可能な社会づくりに貢献してほしいと願っています。

高校時代には、学んだ知識を基に社会課題について考え、友人と意見交換しましょう。そうした習慣は、よりよい解決策を創造していくための基礎力となるはずです。また、自分の好きな分野や得意分野も見つけてください。それが、将来の仕事につながります。

\*2 広瀬幸雄、『環境と消費の社会心理学』(1995)。 \*3 国際協力機構。

# 若手教師・教育創造MTG ミーティング

## 第4回オンラインミーティング&有志メンバーによる「挑戦の会」・レポート

# 仲間との対話で得た気づきや意欲を、 自身の教育活動へとつなげる

全国の若手教師が地域を超えてつながり、これからの教育について語り合う「若手教師・教育創造MTG」。今回は、4回目を迎えたオンラインミーティング、そして、オンラインで行われた有志による対話「挑戦の会」についてレポートする。若手教師がそれぞれの課題や思いを語り合うだけでなく、そこで得た学びやモチベーションを具体的な行動につなげる動きが進んでいる。



レポートその1 第4回オンラインミーティング（10月下旬実施）

全国の若手教師が互いに語り合う中で、  
新たな課題に気づく高い視座を獲得

若手教師が問う  
生徒の「自走化」と「自由」

今回のオンラインミーティングも、2人の教師の問題提起（囲み参照）から始まった。テーマの1つは、「生徒の『自走化』」だ。発表者の教師が、まず、「生徒には、2年生になる頃から、大学受験を念頭に、目標と現状とのギャップを意識しながら

ら主体的に勉強してもらいたい。そのため、1年次から教科別にドリルの取り組み目標を段階的に示している。だが、生徒の主体性を育むには、そうして教師が手をかけるだけでなく、生徒に時間の使い方を委ねるべきではないかという葛藤がある」といった率直な思いを語った。そして、「自走する生徒を育てるためには、育成を目指す資質・能力と

## 私の教育活動 **喜** **怒** **哀** **楽**

テーマ1 ● 低学年次の進路指導

生徒の「自走化」を促すために  
北海道・私立札幌第一高校 佐藤亮介先生

先生方と考えたいこと

- ① 生徒の自走化を促すために、どのようなことを意識すればよいでしょうか？  
・提示した本校の事例は進路指導の側面が大きいのですが、探究活動においても自ら主体的に活動を進めることが大切なと思います。  
・課題発見・計画・実行力を進路や学習などにも転移させるために何か意識していることはありますか（あるいは自ずと転移するものなのでしょうか）？
  - ② 3年間の指導のバックボーンとなるグランドデザインはありますか？  
・教育目標、進路指導、探究活動、特別活動で身に付けさせたいのとそれぞれの教育活動を結び付けたグランドデザインはありますか？  
・ない場合は前年講座や日頃の目標合わせが断片的な「指導の流れ」になっていると思いますが、そうした目標合わせ、どう進めていますか？
- 大嘗社儀であり、現実には目の前の生徒を相手にしながらではありますが…少しでもお知恵を聞えれば幸いです

佐藤先生  
の  
思い

教科学習や探究学習で生徒の自走化を促すためには、どのようなことを意識すればよいのか。高校生活で育成を目指す資質・能力を様々な教育活動で獲得していくことを、生徒に自覚させるグランドデザインが必要ではないか。

佐藤先生の発表に対する意見・感想

- ◎育成を目指す資質・能力を、教師だけでなく生徒とも話し合い、共有することで生徒の同意を得て、目指すものを合致させることが自走化の鍵ではないか。
- ◎生徒が目標と現状の差を知り、希望進路を諦めようとする頃合いを見極め、教師が勇気づけることも自走化には必要。自走させながらも教師が伴走することが重要だ。

## 私の教育活動 喜怒哀楽

テーマ2 ● 多様な社会人との対話

生徒が本当の意味で自由を手に入れるための教育

宮城県村田高校 清水絢子先生



### 清水先生の思い

生徒の自己肯定感を高めるきっかけの1つとして、多様な社会人との対話の場をつくってきた。さらに、非認知能力の育成を視野に入れた定期考査のあり方や、校則の見直しなども含めた生徒主体の学校づくりを模索したい。

### 清水先生の発表に対する意見・感想

- ◎本校でも、社会人講話の後に小グループでの対話の時間を取り入れ、ただ話を聞くだけで終わらせない工夫をした。生徒が自分の思いを率直に語る場がもっと必要だ。
- ◎校則の改正は生徒の主体性を育む活動になり得るが、そうした活動に対して抵抗感がある教師もいる。生徒の活動に対する教師側の共通理解が欠かせない。

教育活動の関係を、教師と生徒の両方が理解するためのグラウンドデザインが必要ではないか」という問題提起がなされた。

もう1つのテーマは、「生徒が本当の意味で自由を手に入れるための教育」だ。発表者の教師は、「とりあえず就職先が決まればよい」「定期考査に出る問題が解ければよい」といった考えの生徒が、自分の可能性に気づき、チャレンジ精神を持つことができるようになるための教育を「自由を手に入れるための教育」と捉え、地域の社会人や大学生との対話の場づくりや地元企業の見学な

どを行ってきた経験を披露。その上で、次の課題として、『人はよりよくなる』ということを認識できるように定期考査のあり方」などについて本ミーティングのメンバーに問いかけた。

他者との対話を通じてマクロな視点を得る

4回目を迎えたオンラインミーティングでは、メンバーから「生徒が非認知能力をメタ認知できるようにするために、どのような仕掛けが必要か」「生徒の主体的な学びを

促すグラウンドデザインとはどのようなものか」など、これからの学びのあり方につながるマクロな視点の問いかけが目立ったが、それは、本ミーティングを通じて、若手教師たちが高い視座を養ってきたからだろう。実際、メンバーからは、これまで

促すグラウンドデザインとはどのようなものか」など、これからの学びのあり方につながるマクロな視点の問いかけが目立ったが、それは、本ミーティングを通じて、若手教師たちが高い視座を養ってきたからだろう。実際、メンバーからは、これまで

## 互いの活動に刺激を受けながら、新たな「生徒の振り返り」に挑戦

### 新たな振り返りの場を設けて生徒の行動を変える

前号の本コーナーでレポートした、本ミーティングでの活動を全国の高校教師への「提案・提言」としてまとめるための対話も続けられている。「提案・提言」を実践的なものとするため、メンバーが対話の中で得た気づきや学びを各自の現場での活動に落とし込み、その成果を語り合う試みとして、「挑戦の会」という場が10月上旬に設けられた。今まで生徒の振り返りが十分ではなかった活動について、新たな振り返りの機会をつくることに挑戦したメ

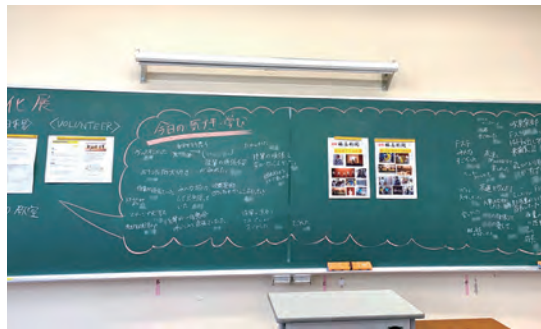


写真 1・2年生が中心となる学校祭だが、3年生も何らかの気づきを得られるように、黒板を使って振り返りを試みた。これまで気づかなかった人間関係が見えるなど、思わぬ成果もあった。

での活動の成果を振り返る中で、「他校の先生方と話す中で、それまで自分が気に留めていなかった事象の中から課題を見つけられるようになった」「未来の教師像や学校組織のあり方などにも興味を持つようになった」といった声が上がっていた。

### レポートその2

有志メンバーによる「挑戦の会」〈10月上旬実施〉

ンバーのうち、2人の教師の実践報告を紹介する。

実践者の1人である富山県立南砺

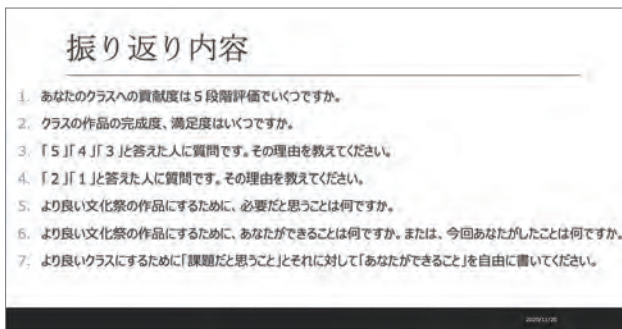


図 振り返りの内容は後日クラス全体で共有することを伝えた上で、生徒に振り返りをさせ、その結果を Classi に入力させた。振り返りの意義を丁寧に伝えたことで、生徒たちは他者批判を行わず、自分が改善すべきことを挙げた。

福野高校の石黒佳奈先生は、担任を務める3年生のHRで学校祭の振り返りを行うことにした。学校祭当日、多くの3年生は校内での発表を参観した後、教室で自習に取り組みのが通例だが、「学校祭を通して感じたこと、気がついたことを後で振り返ろう」と前もって伝えることで、生徒の1日の過ごし方が変わるのではないかと石黒先生は考えた。

学校祭当日の朝のHRで、石黒先生は、「下校までに、今年の学校祭での気づきを、少なくとも1人1つは教室の黒板に書いてください」と

生徒に振り返りを促した。例年、3年生の中には、学校祭の様子を参観せず、教室で自習を続ける生徒がいるという。しかし、今年は、振り返りの呼びかけが功を奏したのか、教室に残る生徒は見られなかった。黒板に書かれた振り返りからも、ダンスを披露したクラスメートの姿をたえる言葉を中心に、3年生であっても同じ高校の生徒として学校祭を楽しむ様子が見られた（P.61写真）。

「私は、今年度初めて3年生のクラス担任を務めています。受験生のクラスということ、緊張感を持つ

て日々クラス運営にあたっています。が、本ミーティングの先生方からいただく刺激によって、チャレンジ精神を忘れずにいられています。今回の振り返りも、受験生であっても学校行事に前向きに参加する仕かけがつかれないかと考えたことが発端ですが、背中を押してくれたのは『挑戦の会』のメンバーでした」（石黒先生）

### 分断されたクラスに つながりを取り戻す

もう1人の実践者の三重県立神戸高校の森田歩美先生も、担任を務める2年生のクラスで学校祭の振り返りを行った。森田先生のクラスは、学校祭の準備段階で生徒間の話し合いが円滑に進まず、計画した出し物が中止になるなど、生徒が当初期待していた学校祭にはならなかった。その後、学年全体で行った振り返りでは、安易にクラスメートを非難する言葉が出るなど、クラス内の生徒間の分断を感じていた森田先生は、クラス独自で改めて学校祭を振り返る機会をつくろうと考えた。

うまくいかなかった原因を、他者にだけでなく、自分にも焦点をあてて考えてみると、クラスのためにできたことがあったのではないのでしょうか。「よりよいクラスにしていくなために、今回振り返った内容をみんなで共有しましょう」と呼びかけ、Classi（\*）での投稿を求めた。「全員がクラスのことを考え、建設的な意見を出してくれました（図参照）。振り返りの意義が伝わったからこそ、自宅でスマホを使い、クラスメートの顔が見えない状態であっても、他者批判することなく、真剣に振り返りに取り組んだのでしよう。生徒も、クラスの雰囲気自分たちの力で変えたいと思っていたのかもしれない」（森田先生）

クラス独自の振り返りを行わなければ、生徒たちは学校祭での経験を肯定的に捉えることができなかっただろうと森田先生は語る。担任として何らかの働きかけが必要であることは感じていたが、石黒先生同様に、森田先生の背中を押したのは「挑戦の会」の存在だった。

若手教師が刺激を与え合い、取り組む様々な挑戦が、「提案・提言」の形に昇華することが期待される。

\* 株式会社ベネッセホールディングスとソフトバンク株式会社の合併会社である Classi 株式会社が提供する、学校教育での ICT 活用を総合的に支援するサービス。

テーマ

## 新教育課程の具体的な編成方針

### 大学入試センターでの検討状況が明らかに

大学入学共通テストの検討状況

2020年10月、大学入試センターは新学習指導要領に対応した2025年度大学入学共通テストの出題教科・科目等の検討状況を高校・大学関係者に示し、意見を聞いていくことを明らかにした。

検討状況についてのヒアリングによると、具体的なポイントは「出題教科・科目を現在の6教科30科目から7教科21科目に再編成」「『数学』『地理歴史・公民』『理科』の科目数を変更」「教科『情報』を新設」など（図1・P.64図2）。

多くの学校が20年度内に新教育課程の編成（仮案）を教育委員会に提出し、21年夏ごろまでに新教育課程の編成を完成するスケジュールのようだ。22年7月には各大学が25年度入学者選抜実施要項を発表するため、その段階で25年度入試に向けて新教育課程に若干の修正が必要になる可能性があるが、基本的には年度末までの情報を基に、新教育課程の編成作業を進めることになるだろう。

図1 2025年度大学入学共通テストの出題教科・科目等の検討状況

#### 2024年度入試まで（現行課程）

| 出題教科・科目 6教科 30科目 |  |
|------------------|--|
| 国語               |  |
| 数学               | 『数学Ⅰ』、『数学Ⅰ・数学A』<br>『数学Ⅱ』、『数学Ⅱ・数学B』<br>『簿記・会計』、『情報関係基礎』                                 |
| 外国語              | 『英語』（リーディング・リスニング）   |
| 理科               | 理科①『物理基礎』『化学基礎』『生物基礎』<br>『地学基礎』<br>理科②『物理』『化学』『生物』『地学』                                 |
| 地理歴史・公民          | 『世界史A』、『世界史B』、<br>『日本史A』、『日本史B』、<br>『地理A』、『地理B』、<br>『現代社会』、『倫理』、<br>『政治・経済』、『倫理、政治・経済』 |

#### 2025年度入試以降（新課程）

| 出題教科・科目 7教科 21科目 |   |
|------------------|---|
| 国語               |   |
| 数学               | ①『数学Ⅰ』<br>②『数学Ⅰ、数学A』<br>③『数学Ⅱ、数学B、 <u>数学C</u> 』   |
| 外国語              | 『英語』（リーディング・リスニング）  |
| 理科               | 8科目から5科目に<br>『物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎』<br>『物理』『化学』『生物』『地学』  |
| 地理歴史・公民          | 地歴公民は6科目から最大2科目選択<br>①『地理総合、地理探究』<br>②『歴史総合、日本史探究』<br>③『歴史総合、世界史探究』<br>④『公共、倫理』<br>⑤『公共、政治・経済』<br>⑥『地理総合、歴史総合、公共』 |
| 情報               | 新設  |

6科目から3科目に  
数学Ⅱ・Bが数学Cとセットに。数学Ⅱを単体で受けられなくなる

「探究」が範囲に入る

\*大学入試センター『令和3年度大学入学者選抜に係る大学入学共通テスト実施要項』、大学入試センターが高校・大学関係者に示した、新学習指導要領に対応した大学入学共通テストの出題教科・科目等の検討状況へのヒアリングなどを基にベネッセ文教総研、教育情報センターが作成。

## 育成を目指す資質・能力を踏まえた新教育課程の編成を

新教育課程の編成にあたって25年度入試のことを意識するのは、生徒の志望を実現する教育環境を整える上では当然だろう。一方で、教育課程は、入試という視点だけではなく、これからの社会のあり方を踏まえた「自校において育成を目指す資質・能力」を念頭に検討・編成していくべきものであることも確かだ。

大学入試センターが示した25年度大学入学共通テストの出題教科・科目等の検討状況からも、新学習指導要領の各教科・科目の趣旨を踏まえつつ、社会における様々な場面で活用できる力を身につけるために、幅広く学んでほしいという理念が読み取れる。例えば『国語』では、「現代の国語」において、報道の文章、会議の記録といった実用的な文章も題材となることから、実社会とリンクした応用的な国語力が求められ、『数学』では、数学を日常生活や社会の事象において活用する力を養うことを重視し、課題解決型の「思考力・判断力・表現力」が求められるだろう。さらに『情報』では、新学

習指導要領で推奨されている「教科を横断した学び」という面でも注目が集まっており、数学の統計分野と併せた学校設定科目を組んだり、情報モラルの指導を公民科と連携して行ったりする取り組みも考えていく必要があるだろう。

新学習指導要領の理念を踏まえると、新教育課程の編成においては、入試という観点のみならず、自校の生徒の実態の分析と、これからの社会を生きるために必要な資質・能力の育成という観点が必要になってくることは明らかだ。また、教師の働き方改革が進むとともに、課外活動の充実のため、生徒が自由に活用できる時間を増やしてあげたいという思いもある中で、週時間を増やすことなく必履修科目の単位増にどのように対応するかという現実的な課題も看過できないだろう。

このように、新教育課程の編成は、生徒、教師、学校の現状とあるべき姿を包括的に捉えながら進めることが学校現場に求められている。そうした点を押さえた新教育課程の編成の実践事例として、新潟県立長岡向陵高校の取り組みを次ページより紹介する。

図2 新教育課程の検討ポイント

| 出題教科・科目  | 着目ポイント・論点  |                                      |     |     |  |                            |                                      |
|--|--|--------------------------------------|-----|-----|--|----------------------------|--------------------------------------|
| 国語   | 出題範囲が必履修科目「現代の国語」「言語文化」に。<br>大問構成については未定。  |                                      |     |     |  |                            |                                      |
| 数学   | <p>数学Ⅱ、数学Bに加え、数学Cがセットに。<br/>文系の生徒にも「数学C」の履修が必要になるか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「数学B」の2項目の内容（数列、統計的な推測）及び「数学C」の2項目の内容（ベクトル、平面上の曲線と複素数平面）に対応した出題となり、このうち3項目の内容の問題を選択することになる。</li> </ul> <table border="1"> <thead> <tr> <th>数学Ⅱ</th> <th>数学B</th> <th>数学C</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①いろいろな式<br/>②図形と方程式<br/>③指数関数・対数関数<br/>④三角関数<br/>⑤微分・積分の考え</td> <td>①数列<br/>②統計的な推測<br/>③数学と社会生活</td> <td>①ベクトル<br/>②平面上の曲線と複素数平面<br/>③数学的な表現の工夫</td> </tr> </tbody> </table> <p>※「数学C」には、「ベクトル」（現行では「数学B」）と「平面上の曲線と複素数平面」（現行では「数学Ⅲ」）が入る。</p> | 数学Ⅱ                                  | 数学B | 数学C | ①いろいろな式<br>②図形と方程式<br>③指数関数・対数関数<br>④三角関数<br>⑤微分・積分の考え | ①数列<br>②統計的な推測<br>③数学と社会生活 | ①ベクトル<br>②平面上の曲線と複素数平面<br>③数学的な表現の工夫 |
| 数学Ⅱ  | 数学B  | 数学C                                  |     |     |  |                            |                                      |
| ①いろいろな式<br>②図形と方程式<br>③指数関数・対数関数<br>④三角関数<br>⑤微分・積分の考え | ①数列<br>②統計的な推測<br>③数学と社会生活   | ①ベクトル<br>②平面上の曲線と複素数平面<br>③数学的な表現の工夫 |     |     |  |                            |                                      |
| 地理歴史・公民  | <p>地理歴史・公民は6科目から最大2科目選択。<br/>必履修科目3科目の⑥に注目。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「地理歴史・公民」は、「必履修3科目」や「必履修+選択」を組み合わせた6科目（最大2科目を選択）。</li> <li>必履修科目のみの⑥「地理総合、歴史総合、公共」では、3科目から2科目選択。</li> </ul> <p>①～⑥で共通する科目については重複して受験することはできないので注意が必要。<br/>(例) ⑥で歴史総合を選択したら、2科目めとして②や③は受験できないなど</p>  |                                      |     |     |  |                            |                                      |
| 情報   | 出題範囲は、共通必履修科目の『情報Ⅰ』。<br>CBT方式が適当としつつ、初年度は諸般の事情よりマークシート式を検討。  |                                      |     |     |  |                            |                                      |

\*大学入試センターが高校・大学関係者に示した、新学習指導要領に対応した大学入学共通テストの出題教科・科目等の検討状況へのヒアリングなどを基にベネッセ文教総研、教育情報センターが作成。

## 実践事例

# 生徒の実態・学校の課題や教育目標を踏まえて新教育課程案を編成

## 新潟県立長岡向陵高校

新潟県立長岡向陵高校では、教育目標の1つである科学的思考力の育成などを念頭に置き、2020年10月に大学入試センターから示された、新学習指導要領に対応した大学入学共通テストの出題教科・科目等の検討状況も踏まえて新教育課程案を編成した。校長が作成した素案を基に、校内の組織である「教育課程検討委員会」を中心として行われた議論を見ていく。

## Q1 どのような方針の下、新教育課程案を編成したのか？

### A1 シンプルな教育課程とすることで、3年次の文理選択が可能に

鷲尾校長 新潟県高等学校長協会において、私が普通科の新教育課程のモデル案の作成を担当することになり、2019年の秋に、本校の教育活動を想定して新教育課程のモデルを公表しました。20年度には、それを職員会議で提示し、臨時休業中の時間も活用して、教頭や教務主任、各教科の代表者で構成する「教育課程検討委員会」が主体となって検討

を重ね、7月に基本的な方向性を決定しました。そして、10月に大学入試センターから示された大学入学共通テストの出題教科・科目等の検討状況を踏まえて調整をした結果がこの編成表(P.66・67図3)です。働き方改革の推進とともに、放課後の生徒の活動時間を確保するため、現行課程に比べて各学年の単位数を1単位ずつ減らして34単位としました。



教務主任  
**吉原 靖**  
よしはら やすし  
教職歴32年。同校に赴任して3年目。理科。



教頭  
**夏見 康彦**  
なつみ やすひこ  
教職歴31年。同校に赴任して1年目。数学科。



校長  
**鷲尾 雄慈**  
わしお ゆうじ  
教職歴37年。同校に赴任して2年目。

吉原先生 論点の1つは、単位数減をどの教科が引き受けるかでした。こういった時は、自分の教科は減らしたくないという発想になりやすいのですが、「校長のモデル案を変更する場合は修正案を出す」とルール化したため、どの教科も全体像を踏まえて検討できました。また、現行課程からの変更が大きい教科については、私が教科会で変更の意図を詳しく説明して理解を求めました。

鷲尾校長 シンプルにすることを心がけました。そのねらいの1つは、1・2年次は一部の科目を除いて全生徒共通のカリキュラムとして、3年次からの文理選択に変更することでした。本校の生徒の多くは、学習

だけでなく、部活動や学校行事なども楽しんだ上で、大学に進学したいという気持ちで入学してきますから、必要な学習内容を明示し、学習にしっかりと向かわせたいと考えました。そこで、生徒が自由に選択する「ビュッフェ型」ではなく、必ず学ばせたい科目、言わば主菜は固定して、2、3品の副菜のみを選ばせる「定食型」を意識し、メニューを絞って一品ごとの質を上げようと考えました。2年間は文理別に異なる授業をする必要がなくなるなど、教師の負担も軽減され、生徒と接する時間が増えたり、教材研究を深めたりできます。生徒と教師の双方に利点があると考えます。

### 新潟県立長岡向陵高校

- ◎教育目標は、「聡明な判断」「強い力」「温かい心」。「高大接続改革に対応した教育活動」を重点目標の1つに掲げ、教育改革を積極的に推進。学びと部活動を両立する教育も重視する。
- ◎設立 1982(昭和57)年
- ◎形態 全日制/普通科/共学
- ◎生徒数 1学年約240人
- ◎2020年度入試合格実績(現役のみ)  
国公立大は、長岡技術科学大、長岡造形大、新潟大、新潟県立大、新潟県立看護大などに29人が合格。私立大は、専修大、法政大、立教大、新潟医療福祉大、新潟青陵大などに延べ114人が合格。
- ◎URL <http://www.nagaokakoryo-h.nein.ed.jp/>

|      |     |     |      |      |    |              |                   |              |                          |       |       |      |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|------|-----|-----|------|------|----|--------------|-------------------|--------------|--------------------------|-------|-------|------|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 8    | 9   | 10  | 11   | 12   | 13 | 14           | 15                | 16           | 17                       | 18    | 19    | 20   | 21  | 22 | 23 | 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 | 31 | 32 | 33 | 34 |
| 歴史総合 | 数学Ⅰ | 数学A | 物理基礎 | 生物基礎 | 体育 | 保健           | 音楽Ⅰ<br>美術Ⅰ<br>書道Ⅰ | 英語コミュニケーションⅠ | 論理・表現Ⅰ                   | 情報Ⅰ   | 探究の時間 | 総合的な | LHR |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 公共   | 数学Ⅱ | 数学B | 化学基礎 | 体育   | 保健 | 英語コミュニケーションⅡ | 論理・表現Ⅱ            | 家庭基礎         | ○文学<br>●国語<br>●物理<br>●生物 | 探究の時間 | 総合的な  | LHR  |     |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |    |

|                              |         |            |             |        |        |       |              |              |        |       |      |     |
|------------------------------|---------|------------|-------------|--------|--------|-------|--------------|--------------|--------|-------|------|-----|
| 数学Ⅲ<br>■数学探究                 | 数学C     | ●物理<br>●生物 | 化学<br>■化学探究 | ■生物探究A | ■生物探究B | 体育    | 英語コミュニケーションⅢ | 論理・表現Ⅲ       | 探究の時間  | 総合的な  | LHR  |     |
| ■地誌応用A<br>■日本史応用A<br>■世界史応用A | ■数学セミナー | 文系選択①      | ○文学<br>国語   | ■生物探究A | ■化学探究  | 文系選択② | 体育           | 英語コミュニケーションⅢ | 論理・表現Ⅲ | 探究の時間 | 総合的な | LHR |

文系選択①（2単位）

- 数学C（国公立大学志望）倫理
- 文章表現
- 論理英語読解B

文系選択②（3単位）

- 数理情報セミナー（国公立大学志望）
  - 論理英語読解A（私立大学志望）
  - スポーツⅡ（その他）
  - 音楽Ⅱ（その他）
  - 美術Ⅱ（その他）
  - フードデザイン（その他）
- 希望者が少人数の場合、開講なし

**鷲尾校長** 本校では、教育目標の1つとして「科学的思考力」の育成を掲げています。Society 5.0の社会ビジョンの下、STEAM教育の重要性が語られる中、新教育課程では、文系を含めたすべての生徒に理数教育を強化したいと考えました。

**吉原先生** 2年次の途中で文転や理転を希望する生徒が、大学受験で課されない教科・科目の授業を真剣に受けないという問題がありました。そうした問題も、文理選択を3年次にすることで解決できます（図4）。

**鷲尾校長** 3年次の文理選択を見据え、2年次に「文学国語」か「物理」または「生物」を選択することになりますから、実質的な文理選択は2年次とも言えます。希望進路に対応できるよう、2年次の科目選択は、3年次の文理選択に向けたゆるやかな準備段階になっています。

A2

すべての生徒に「読解力」「科学的思考力」を育成することがねらい。特に3年次の履修方法を工夫した

Q2

3年次に文理選択をさせることになったねらいと工夫は？

図4 3年次に文理選択を行うことのメリットとデメリット

メリット

- 毎年一定数いる2年次の途中で理系から文系進学に希望を変更する生徒（いわゆる文転）をゼロにすることができる。
- 現2学年の理系には既に文転を希望している生徒がいるが、現行の教育課程では3年次も理系を選択しなければならない。年々そうした生徒は増加している。
- 少数ではあるが、文系から私立理系への変更を希望する生徒（私立大薬学部等に化学を選択させることができる）。
- 現3年生には文系で私立大薬学部を希望し、化学の進学補習に参加している生徒がいる。他に化学+理科基礎で受験可能な国公立大学（医学部看護学科等）にも対応可能となる。
- 2年次は文理別のクラス編成をせず、文学国語クラス、物理クラス、生物クラス、混合クラス等、多様なクラス分けが可能になる。

デメリット

- 文理選択の最終決定が遅いため、学部学科等の志望決定が遅れてしまう可能性がある。
- 2年次に文理別のクラス編成をしなかった場合、文系、理系としての進路意識が低下する可能性がある。

\*学校資料を基に編集部で作成。

図3 新教育課程の編成案(2020年11月時点)

|          | 1     | 2 | 3    | 4 | 5                           | 6    | 7 |
|----------|-------|---|------|---|-----------------------------|------|---|
| 1年       | 現代の国語 |   | 言語文化 |   |                             | 地理総合 |   |
| 2年       | 論理国語  |   | 古典探究 |   | ●○地理探究<br>●○日本史探究<br>○世界史探究 |      |   |
| 3年<br>理系 | 論理国語  |   | 古典探究 |   | ■地誌応用B<br>■日本史応用B<br>政治・経済  |      |   |
| 3年<br>文系 | 論理国語  |   | 古典探究 |   | 政治・経済                       |      |   |

\* □は必修科目。  
\* 学校設定科目を■で示す。  
\* ●は3年で理系、○は3年で文系に進む予定者の選択科目。  
\* 3年理系---上段は、主に理工系学部などに進む生徒、下段は農学部、看護系学部などに進学する生徒が選択。  
\* 学校資料を基に編集部で作成。

## Q3

### 各教科の編成方針や工夫は？

## A3

生徒の実態や課題を基に、バランスのよい指導を行い、大学入試への対応力もしっかり育むカリキュラムを意識

**鷲尾校長** 高校で学力差が広がりやすい分野の1つが古典です。現行課程では1年次の「国語総合」は5単位としましたが、新教育課程で

も1年次の「言語文化」を3単位として古典の指導に力を注ぎます。**夏見教頭** 国語に限らず各教科の基盤となる資質・能力である読解力を

\* ベネッセが提供する、スコア型英語4技能検定

より詳しい内容は、『ハイスクールオンライン』でお届けします！



新教育課程の具体的な編成方針  
・新潟県立長岡向陵高校の実践事例  
新教育課程の参考になる特設コーナー設置  
有識者による新課程の動画解説も満載

養うため、2・3年次に「論理国語」を配当して読解力をしっかりと育み、大学入学共通テストの英語・国語などの長文読解にも対応できるようにしたいと考えています。「古典探究」を履修としたのは、大学入学共通テストでの出題を見据えてのことです。

**鷲尾校長** 英語力の低さも、本校生徒の課題の1つです。そのため、GTEC(\*)を導入するなどして英語力の伸長に努めており、全学年で「論理・表現」を履修としました。

**吉原先生** 大学入学共通テストでの出題が検討されている「数学C」は、3年次の理系は必修とし、文系は主に国立大学志望者が選択できるようにしました。大学入学共通テストの実施時期を考えると、12月までに教科書を終わらせる必要があり、指導の工夫が求められます。

**夏見教頭** 「公共」を2年次の履修としたのは、「家庭基礎」と併せて、18歳になる直前に主権者教育を行いたいからです。「公共」を1年次にする場合は、「地理総合」「歴史総合」のどちらかを2年次にする必要が生じますが、「地理総合」「歴史総合」は同時期に展開するほうが学習のつながりが深まりやすいと考えました。

**鷲尾校長** 1年次に「情報I」を置いたのは、早期に情報活用能力を育成して他教科の学習と結びつけるためです。情報活用能力は、「家庭基礎」での表計算ソフトを用いる栄養計算や、数学の統計分野で生かれますし、探究学習でも活用できる資質・能力です。新教育課程は、教科のつながりも十分に踏まえて編成し、多様な資質・能力を効果的に育成できるものにしていきたいと考えています。

一疑問や課題を解決!実践につながる!

新課程レポート

ベネッセ教育情報センター

『ハイスクールオンライン』トップページ > 入試改革/新課程 からアクセス

## 2020年10月号へのご意見

### 教師の役割は「指導」から「支援」へ

主体的・協働的な学びに転換する中で、大切なのは教師の役割の変化だと思った。10月号の特別企画では、福井県立若狭高校が教師の姿勢を「指導」から「支援」へと転換している取り組みが紹介された。コロナ禍で生徒の不安が大きくなっている中、「支援」が大切な言葉として心に残った。愛知県・私立桜丘中学校・高校 齋藤聖也

### 「学習集団を育てる」という目標に共感

10月号の特集を読み、静岡県立御殿場高校の美那川雄一先生が掲げる、生徒が学びの場と経験を共有し、「学習集団を育てる」という目標に共感した。担当教科が自分と同じ大阪府・私立近畿大学附属高校・中学校の芝池宗克先生が指摘していた、生徒それぞれに必要な声かけをすることが一層必要になるという点は、今後意識していきたい。また、國學院大学の田村学教授が行った5人の教師の実践を交えた整理・解説は、本校でも教師間で共有すべき内容だと思った。

静岡県・沼津市立沼津高校 谷野公彦

### コロナ禍でもベストな授業を追求できる

自分もアクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業を行ってきたが、コロナ禍で消極的になっていた。しかし、10月号の特集で各教師の実践を読み、生徒のことを考えれば、今の環境でもベストの形が見つけられることを教えてもらった。私も、自分の中でのベストを見つけれ

るように行動したい。 東京都立北園高校 根岸良和

### 生徒目線で具体的な行動目標に落とし込む

10月号の「新課程に向けて描く『学校教育デザイン』」で紹介された宮崎県立高鍋農業高校では、教育目標を教師目線で定義して掲げるだけでなく、生徒目線で具体的な行動目標にまで落とし込み、生徒に行動の変容を促していた。自分も、生徒目線で行動目標を設定していきたい。 栃木県立真岡工業高校 半田高史

### 指導ツールに生徒の意見を取り入れていきたい

10月号の「改良！指導ツール ビフォーアフター」で、改良会議実施校の富山県・私立片山学園中学校・高校が生徒の意見を取り入れながら指導ツールを改良したのは革新的だった。生徒が言っていた『「主観」をどんどん聞いてもらいたい』という思いを大切に、自校でもツールを改善していきたい。 千葉県・私立成田高校 佐藤杏奈

### 特性を持つ生徒への配慮の参考になった

担任・学年主任は、クラス運営・学年経営の中で、特性を持った生徒とその保護者に様々な配慮をしている。スクールカウンセラー等から研修を受けて特性の理解に努めているが、そのような状況からも、10月号の「これからの進路指導のための世の中トレンド解説」で取り上げられた「スペシャルニーズ」は、大変参考になった。

富山県 匿名希望



OFF SHOT

東京都八王子市にある創価大学と創価女子短期大学のキャンパスは、敷地内の桜花の道という場所が代表するように、たくさんの桜の樹々を有し、春の代名詞とも言える桜が見事に咲き誇る場所として、学生や教職員はもちろん、地元の方々にも愛されています。かなり立派な枝垂れ桜の樹もあります。それらの花々にエールを受けて入学をした春は、鮮やかな思い出かと思えます。今は冬を迎えたばかりで、花はもちろん、葉は散り、若芽も芽吹いていませんが、それでも来るべき咲く時を待ち、力を蓄えています。ちょうど今号の連載「SDGsの視点で見る大学の学び」の取材に応じてくれた2人の学生も、大学で学び、見識を広げ、社会の問題解決へ挑まんとする今は、写真の桜の樹々のような時期かもしれません。いつか咲き誇るその日を期待しています。自分らしく素晴らしい花を咲かせますように。(野村)



『VIEW21』高校版が  
電子ブックに  
なりました!

『VIEW21』高校版は2020年4月号から電子ブックでご覧いただけるようになりました。ベネッセ教育総合研究所のウェブサイトでご確認ください。  
HOME → 教育情報 → 高校向け → 情報誌最新号

VIEW21 最新号

VIEW21 高校版 2021 2 月号

次号は2月15日発行(予定)

『VIEW21』高校版は年6回の発行です

## 教師を育てた 言葉たち

No. 023

### 高松第一高校(香川県高松市立) 片山浩司 先生

かたやま・こうじ

◎教職歴30年。同校に赴任して31年目。教頭。担当教科は理科。中四国の高校教師有志による進路指導の勉強会の香川県の世話人を務め、教育力向上を目指した現場の教師による主体的な連携をサポートしている。



**本** 校は、県内唯一の市立高校であり、今年で創立92年を迎える県下有数の進学校です。今年度からは、県立学校との人事異動の一体化が図られるようになりましたが、長い間、本校は転勤が少なく、意識的に情報収集をしないと外部からの情報が入りにくい状況でした。

私が進路指導部の副部長となった約20年前は、生徒の希望進路を実現するため、進路指導の充実に注力していました。というのも、生徒一人ひとりの進路目標を踏まえた学習習慣の確立や小論文指導の校内体制づくり、さらには3年生の3月まで生徒の挑戦を支え続けるための保護者の意識改革など、当時は様々な課題を抱えていたからです。ただ、いずれの課題も、すぐに成果が出るような簡単なものではありませんでした。にもかかわらず、私たちは、同じ顔触れの仲間と限られた情報の中で考え、もがいていたように思います。自分たちの力で何とかしようとするのはもちろんよいことですが、なかなかアイデアが出ず、期待するように物事が前進しないことにもどかしさを感じることもありました。

そうした状況の中、当時の進路指導部長が私たちに呼びかけ、進路指導部内の合言葉となったのが「常に様々な方向にアンテナを張っておこう」でした。それまでは部活動に力を入れていて、週末も高松から離れることが少なかった私も、近隣の学校を訪問したり、勉強会に参加したりするようになり、多くの学校が同じような悩みを抱えながらも、様々なアイデアでそれを乗り越えていることを知り

ました。学校視察の際は、できるだけ複数人で訪問し、同じものを見聞きしても、異なる視点で自校への取り入れ方を考えるようにしました。進路指導部のメンバーと自動車に同乗して訪問先に向かうことがよくありましたが、帰りの車内ではいつも、その日学んだことを自校にどう生かすかを議論していました。外部からヒントを得ながら、仲間たちと一緒に考えを深めていたのだと思います。

**全** 国の学校を訪問する中で、校内の仲間との情報交換だけでは思いつかないような視点からのアイデアや刺激が多く得られ、それらを様々な取り組みにつなげていきましたが、それ以上の財産となったのが、師と呼べる先生や、何でも相談できる仲間が校外にもできたことです。「他校から学んですぐに実践してみるのはいいことだけれど、それが自校の生徒に本当に適した活動なのか、もっと精緻に検証する仕組みも考えるべきでは」と、私に率直に苦言を呈してくださる先生にも出会えました。

最近の若手の先生方は、とても優秀ですが、かつての私のように、自分の力だけで何とかしようという気持ちが強いと感じることがあります。10年前から私が中四国の高校教師の学びの場づくりにかかわっているのは、若手の先生方にも、校外の仲間とつながることを経験してほしいという思いからです。進路指導とは、生徒の視野と可能性を広げた上で、生徒が本当に望む進路を選択させ、それをかなえることです。その実現のためにも、教師はもっといろいろな人と出会って、自らの視野を広げてほしいと思います。

高松第一高校(香川県高松市立) 全日制/普通科、音楽科/共学/1学年約300人/2020年度入試合格実績(現浪計) 国立大は、横浜国立大、名古屋大、大阪大、九州大などに210人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、早稲田大などに延べ624人が合格。

ニューコンテンツ、続々

# VIEW21 express 更新中



ベネッセ教育総合研究所ウェブサイト内のコーナー『VIEW21 express』では、最新の教育現場の状況や取り組み、現場の教師や識者のオピニオンなどを、「express (=速達)」でお伝えしています。ぜひ、ご覧ください。

掲載コンテンツ例 随時更新中

## 次代の教育のあり方に迫る フロントランナーに聞く 教育のnext

多様な立場からの声をリレー形式で紹介  
シリーズ・  
みんなで語り合い、考える「これからの学校」

VIEW21 express 検索

高校向けだけでなく、  
教育委員会向けコンテンツも  
続々リリース中!

## 教育の「これから」を考える

## 第3回 オンライン・ワークショップのご案内

これまでの参加者からは、  
「対話の重要性を認識した」  
「校内にも対話の機会をつくっていききたい」  
といった声を多数いただいています。  
今回のテーマは、  
先生方の関心も高い「学習評価」です。

開催日時 2021年2月9日(火) 15~17時

形式 オンライン(ライブ配信)  
(参加申し込みしていただいた方に、詳しい参加方法をご案内します)

参加費 無料

内容 本誌の特集のテーマに関して、  
自校の「これから」を考える対話型のワークショップ

参加申し込み受け付け中!  
詳しくは本誌 27 ページをご覧ください

# VIEW21

ビュー21 高校版 Volume5 2020年12月号  
2020年12月15日発行/通巻第385号 発行人 山河健二 編集人 春名啓紀 発行所 (株)ベネッセコーポレーション ベネッセ教育総合研究所  
VIEW21編集部 〒163-0415 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビルディング  
©Benesse Corporation 2020

お客様  
サービスセンター

【フリーダイヤル】 0120-350455

受付時間 月~金 8:00~18:00/土 8:00~17:00 (祝日、年末・年始を除く)  
株式会社ベネッセコーポレーション岡山本社 〒700-8686 岡山市北区南方3-7-17